

図書館 雑誌 2023 3

The
Library
Journal
Vol.117
No.3

●編集委員会

〈委員長〉

松本哲郎（市原市立中央図書館）

〈委員〉

青柳英治（明治大学文学部）

岩永知子（相模原市立図書館）

小野 亘（東京大学駒場図書館）

小竹毅郎（国立国会図書館）

中村保彦（元文教大学図書館）

長谷川優子（元埼玉県立図書館）

間部 豊（帝京平成大学人文社会学部）

宮原柔太郎（日本体育大学図書館）

米山 薫（多摩市立図書館）

*

●事務局スタッフ

秦 秀文・川下美佐子・星川智隆

●今月の表紙

国文学研究資料館所蔵

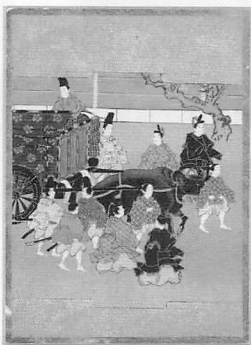
「保元平治物語絵巻」

クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 ライセ

ンス CC BY-SA

(<https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/deed.ja>)

(新日本古典籍総合データベース)



VOL.117 NO.3 CONTENTS

窓●「IFLA/UNESCO 公共図書館宣言2022」——— 新 出 120

こらむ図書館の自由●

サイバー攻撃と図書館システム ————— 奥野吉宏 123

●NEWS ————— 121

告知板 … 123／新聞切抜帳 … 125

●新館紹介 ————— 127

*

*

*

[特集]

図書館の空間をデザインする

図書館家具・備品の重要性と整備ポイント ————— 柳瀬寛夫 128

図書館家具のデザイン 四つの事例 ————— 酒匂克之 132

豊かな空間を作る家具設計－明治大学和泉図書館 ————— 折戸晶子 136

神奈川県立図書館の空間づくり－新・本館における家具、書架の事例

森谷芳浩 138

「百脚縁乱」の閲覧席－石川県立図書館の家具について

嘉門佳顕・川上元美 140

大阪市立中央図書館地下1階 Hon+α！（ほな！）スペース

西尾真由子 144

菊池市中央図書館の空間デザインの取り組み ————— 安永秀樹 146

*

*

*

霞が関だより●第232回

4月23日は「子ども読書の日」です！ ————— 文部科学省 149

ウチの図書館お宝紹介！●第229回／岩手県立図書館

はらたかしぶんこ

原敬文庫－開館100周年に自筆と思われるメモが発見される — 岩持河奈子 150

声—各地の代議員から●①

- 前進のためのよりどころ ————— 須藤紀子 152
 三つの機会の提供で、魅力ある日図協に！ ————— 天野奈緒也 152

小規模図書館奮戦記●その300／群馬県・上野村図書館

- I ターン住民を支える小さな村の図書館 ————— 武部裕子 153

図書館員のおすすめ本●⑦⑤

- ポリティカル・コレクトネスからどこへ ————— 齋藤なぎさ 154
 モアイの白目 目と心の気になる関係 ————— 中川裕子 154
 ぼけと利他 ————— 中島郁世 155
 子犬の絵画史 たのしい日本美術 ————— 吉澤瑠美 155

図書館員の本棚●

- 学校図書館とマンガ ————— 田子 環 156
 非正規雇用職員セミナー「図書館で働く女性非正規雇用職員」講演録
 ————— 村上由美子 157
 図書館人への言葉のとびら ————— 宮内玲香 158

* * *

●The Library Journal, March 2023

Special feature: Space planning for libraries

- Furniture, equipment, and maintenance at libraries* (YANASE Hiroo) 128
Four examples of library furniture design (SAKO Katsuyuki) 132
Designing furniture to enrich space — Meiji University Izumi Library
 (ORITO Akiko) 136
*Space planning at Kanagawa Prefectural Library — Furniture and book stacks
 in the new main library* (MORIYA Yoshihiro) 138
Beauty in the reading room — Furniture at the Ishikawa Prefectural Library
 (KAMON Yoshitaka and KAWAKAMI Motomi) 140
Books and more! The first basement of the Osaka Municipal Central Library
 (NISHIO Mayuko) 144
Space planning at Kikuchi City Central Library (YASUNAGA Hideki) 146

- 日図協図書館新着案内 ————— 166

- 協会通信 ————— 173

常任理事会 173

事務局カレンダー 175

- 編集手帳 ————— 176

- 公益社団法人日本図書館協会
 2022年度理事会議事録

* 2022年度通算第3回（定時第3回）理
 事会議事録 159

- 2022年度通算第3回（定時第3回）
 理事会配付資料 ————— 165

*「れふあれんす三題噺」は休載させて
 いただきました。

- 図書館雑誌4月号予告 ————— 176

●発行者

公益社団法人日本図書館協会©2023

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電 話 (03)3523-0811〈代表〉

直 通 (03)3523-0816〈編集部〉

F A X (03)3523-0841〈代表〉

〈日図協ホームページURL〉

<https://www.jla.or.jp>

〈JLA メールマガジン申込先アドレス〉

mailmaga@jla.or.jp

* 本文は中性紙（冷水抽出 pH8.1）を使用



「IFLA/UNESCO公共図書館宣言2022」

新 出

公共図書館の理念やあり方の指針は、法定のものとして「図書館法」、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」があり、日本図書館協会も「公立図書館の任務と目標」を策定している。しかしこれらの文書は公共図書館が何のために存在するのか、何をなし得るのかということについて、現代的なビジョンを十全に提示しているとは言いがたい。

二〇二二年七月に公表された「IFLA/UNESCO公共図書館宣言」の改訂版は、これらの問いに答えるものとなっている。とりわけ、一九九四年改訂に加えられ、強調されている部分を読み解くことで、公共図書館に新たに要請され、期待されるようになった役割が浮かび上がってくる。新たに加わった部分から、印象的なところを列挙してみよう。

○知識社会を支える機関…公共図書館はさまざまな障壁に妨げられず、あらゆる知識へのアクセスを提供し、知識の生産を可能にし、共有すること、知識社会を支える。知識の生産、情報や文化の共有・交換、市民の関与を推進するための公共スペースを提供する。

○社会的包摂とSDGs…公共図書館は、社会的包摂や持続可能な開発（SDGs）、公平で人道的な持続できる社会の建設に寄与する。

○デジタル技術・新しいコミュニケーション手段の活用…デジタル技術を通じ、情報・コレクション・プログラムの利用を対面でも遠隔でも可能とする。図書館員はデジタルでも利用者と情報資源を結びつける。

○地域情報の収集・保存・利用…コレクションは地域社会の言語的・文化的多様性を反映する。地域（先住民を含む）に関するデータ・情報・遺産を保存し、利用できるようにする。

○市民・地域社会の関与の促進…図書館は地域社会を育むもの。図書館の方針策定には、地域社会の関与がなければならない。

○著作権・知的財産権…公共図書館が合理的な条件でデジタルコンテンツを調達・アクセスできるようにする必要がある。

情報の受容だけではなく、知識の生産・共有・交換を促進し、デジタル技術を駆使し、一層市民及び地域社会と結びつきながら、社会的包摂と公平・人道的・持続可能な社会の構築に寄与する。この宣言が提示する公共図書館像を、どのように理解し、実践の中で生かしていくかを、多くの人たちと考えたい。

(1) <https://repository.ila.org/bitstream/123456789/2006/1/IFLA-UNESCO%20Public%20Library%20Manifesto%202022.pdf>

永田治樹氏の日本語訳 (<https://www.miratosyokan.jp/future-ilib/compass/no6/>) を参照した。

(2) 単に情報があふれているだけではなく、知識が社会の中心的な資源となり経済発展や社会変革に不可欠となっている社会。（あたらし いずる／富谷市図書館等複合施設開館準備室）

NEWS

▶ 国立国会図書館、「次世代デジタルライブラリー」への古典籍資料のテキストデータ投入を完了

国立国会図書館（NDL）のNDL Labは、1月24日に「次世代デジタルライブラリー」への古典籍資料約8万点（国立国会図書館デジタルコレクションでインターネット公開しているデジタル化済資料）のテキストデータすべてについて投入を完了したと発表した。これにより、著作権保護期間が満了した古典籍および図書資料計約35万点の全文検索が可能となる。

また、デジタル化済の古典籍資料のテキスト化のために次世代システム開発研究室が開発した「NDL 古典籍 OCR」のソースコードおよび開発に使用したデータセットも公開している。

次世代デジタルライブラリーへの古典籍資料のテキストデータ投入完了及び「NDL 古典籍 OCR」のソースコード等の公開について：
<https://lab.ndl.go.jp/news/2022/2023-01-24/>

次世代デジタルライブラリー：
<http://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/>
NDL Lab：<https://lab.ndl.go.jp/index.html>

▶ 文部科学省における図書館・読書活動推進関連予算案について

文部科学省は、2023年度予算案の内容を公表している。図書館・読書活動の推進関連予算案では、次の三つの事業が挙げられている。「図書館における障害者利用の促進」として「司書・職員等の支援人材、ピアサポート人材の育成」等が、「読書活動総合推進事業」として「図書館・学校図書館等を活用した読書活動の推

進」等が、新規の「社会教育デジタル活用等推進事業」では「デジタル活用推進・PFI活用アドバイザー、新たなPPP/PFI案件形成支援」等が予算化されている。

本誌2月号p.88-91も参照。
文部科学省令和5年度予算（案）：
https://www.mext.go.jp/a_menu/yosan/r01/1420672_00008.htm
文部科学省総合教育政策局令和5年度予算（案）主要事項：
https://www.mext.go.jp/content/20230119-mxt_kouhou02-000027104_6.pdf
令和5年度文部科学省予算（案）等の発表資料一覧（1月）：
<http://mailmaga.mext.go.jp/c/ago5ae4bhy66yqbT>

▶ 「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」の変更等について

2月10日に開催された新型コロナウイルス感染症対策本部において、「マスク着用の考え方の見直し等について」が決定され、「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」が変更された。これでは、「着用は個人の判断に委ねることを基本とし、政府は各個人のマスクの着用の判断に資するよう、感染防止対策としてマスクの着用が効果的である場面などを示し、一定の場合にはマスクの着用を推奨する」との方針が示されている。また、「マスクの着用は個人の判断に委ねられるものであるが、事業者が感染対策上又は事業上の理由等により、利用者又は従業員にマスクの着用を求めることは許容される。」としている。このマスク着用見直しの考え方は、3月13日から適用される。これにともない、内閣

官房新型コロナウイルス等感染症対策推進室から、業種別ガイドラインの見直しが依頼され、日本図書館協会においても、「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」について見直し作業を進めている。

内閣官房新型コロナウイルス等感染症対策推進室「新型コロナウイルス感染症対策 基本的対処方針に基づく対応」：
<https://corona.go.jp/emergency/>

「マスク着用の考え方の見直し等について」：
https://corona.go.jp/news/news_20230210_01.html

▶ 「埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本2022」発表

埼玉県高校図書館司書が、過去一年に発行された本の中から、高校生にぜひ読んでほしいとおすすめする「埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本2022」が発表された。

発表は2月17日（金）20:00からホームページで行い、翌2月18日（土）からは、埼玉県内の約60書店でイチオシ本フェアが開催されるほか、埼玉県立図書館をはじめとする約90の公共図書館でパンフレットが配布された。

今年度も全国の公共図書館、学校図書館に向けて、POP&パンフレットを実費で頒布する。

お申し込み、詳細は埼玉県高校図書館フェスティバルHPから
参照：<http://shelf2011.net/>

▶ 国立国会図書館、カレントアウェアネス・ポータルの利用者アンケートを実施

国立国会図書館は、2023年2月6日から3月31日まで、カレントア

ウェアネス・ポータルの利用者アンケートを実施している。

カレントアウェアネス・ポータルは、図書館界、図書館情報学に関する最新の情報をお知らせする国立国会図書館のサイト。カレントアウェアネス・ポータルをより充実したものとするため、ぜひご協力をお願いしたいとのこと。

アンケートページ：<https://enquete.ndl.go.jp/187474>

カレントアウェアネス・ポータルについては、主に以下のようなコンテンツが掲載されている。

- ・カレントアウェアネス-R (CA-R)：図書館の「いま」がわかるニュースを中心に紹介するブログ。
- ・カレントアウェアネス-E (CA-E)：図書館および図書館情報学に関する最新ニュースをコンパクトに紹介するメールマガジン。原則月2回木曜日に発行
- ・カレントアウェアネス (CA)：図書館および図書館情報学における、国内外の近年の動向およびトピックスを解説・レビューする情報誌。年4回発行。
- ・調査研究：国立国会図書館が実施している図書館および図書館情報学に関する調査研究の成果等。

▶別府市新図書館等複合施設の管理運営に関するサウンディング調査を実施

別府市（大分県）は、別府市新図書館等複合施設の管理運営に関するサウンディング調査を実施した。この複合施設は、「ひとりひとりの暮らしと創造のよりどころへ」をメインコンセプトに据え、施設の中核をなす図書館サービスをベースに、住民相

互の交流の場となり、地域に暮らす一人ひとりの暮らしを豊かにする連携サービスが融合する新しい施設を目指すとしている。行政直営の図書館を中核に、民間事業者が参画する連携機能が有機的につながり、空間と業務が一体的に融合する新たな公共施設となり、その管理運営について、民間事業者のノウハウや自由な発案に基づく意見・提案を求めるため、サウンディング型市場調査を実施するとしていて、実施結果の公表は2023年3月1日以降となっている。別府市新図書館等複合施設の管理運営に関するサウンディング調査の実施：https://www.city.beppu.oita.jp/sisei/kakusyuukeikaku/library_museum_sounding.html

別府市新図書館等複合施設の管理運営に関するサウンディング調査実施要領：https://www.city.beppu.oita.jp/doc/sisei/kakusyuukeikaku/library_museum_sounding/youryou.pdf
サウンディング調査（対話型市場調査）（別府市）：<https://www.city.beppu.oita.jp/sisei/kouminrenkei/sounding.html>

▶足利市、電子図書館の運用を開始
足利市（栃木県）では、小中学生がタブレット端末などで本を借りて読める電子図書館の運用を2023年1月30日から開始した。借りられる電子書籍は3,000冊で、市教育委員会は「本に親しみきっかけになれば」と期待しているという。この電子図書館の導入は、子どもの読書量の確保や多様な図書に触れる機会の提供が目的で、読書のほか、自主学習で資料を探したいときなどにすぐに利用で

きる。市立小中学校に通う児童、生徒約9,400人と教職員約900人が利用できる。「GIGA スクール構想」で配付されたタブレットのほか、家庭のパソコンやスマートフォンでもアクセスができる。

▶福知山市立図書館、電子図書館の利用者が入館者数の約2倍に

2022年1月のサービス開始から1年が経つ、福知山市立図書館の「ふくちやま電子図書館」のログイン数、同図書館の年間入館者数の約2倍、延べ28万8070回（2022年12月31日時点）を記録した。

年間入館者数は、分館も合わせて2016年度は27万人を超えていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、2021年度には12万8882人に減少し、2022年度もほぼ横ばいの状態という。「ふくちやま電子図書館」で閲覧できる書籍数は、当初の約1万8000冊から現在は約2万5000冊に増えている。年間の貸出冊数は19万5429冊（2022年12月31日時点）で、小学生の利用が多く、文学や調べ学習の児童書が人気を集めている。また、電子図書館の使い方講座を開催し、利用促進を図っているという。

▶高砂市立図書館で「図書館祭2023」を開催

高砂市立図書館（兵庫県）では開館7周年を記念して、2月1日から28日まで「図書館祭2023」を開催した。本を借りた先着1,500人を対象に、高砂市のマスコットキャラクター「はっくりん」が描かれたブックカバーとしおりが贈呈された。オープン記念日の2月14日には、「えほんのりスペシャル」、「はっくりん撮影会」が開催されたほか、この期間に

◆ NEWS ◆

「ロボットプログラミング教室」, 「デジタル絵本ワークショップ」, 「鉄道おもしろ講座」等のイベントが開催された。同館は2016年2月14日に現在の場所に移転し, 2022年8月には来館者数250万人を達成している。

図書館祭2023 (高砂市立図書館): h

<https://takasago-lib.jp/archives/news/1620>

▶ 告 知 板 ◀

● つどい

■ SLIL 講演会「学校図書館改革を戦略的に考える: 探究学習, 教育DX, 情報リテラシー, 読解力...」

ここに来て, 学校図書館を「探究学習」とか「教育DX (デジタルトランスフォーメーション)」と関わらせて論じる動きが急になっている。だが, 学校図書館を学習センターとか情報センターであると主張しても説得力をもたないのは, 教育関係者の学校図書館に対する見方が「子ども読書推進」の場に固定されていることが大きい。

戦後間もない時期の学校図書館は「図書館教育」の場, あるいは「教材センター (資料センター)」であるという考え方と実践があり, 文部省 (当時) そして各県の教育委員会で推進されたが, まもなく主流の教育政策のなかで消えていった。学校図書館が資料や情報という外部的・間接的な知を媒介する教育の場ととらえる視点を教育関係者と共有するために, こうした戦後の歴史に学びその反省に立った主張をする必要がある。ここでは政策論的な観点から学

こらむ 図書館の 自由

サイバー攻撃と図書館システム

奥野吉宏

2022年10月, 那覇市立図書館がランサムウェアによるサイバー攻撃を受け, 図書館システム上のデータが暗号化され, システムがまったく使用できなくなるという被害を受けた。個人情報は暗号化されており, 大規模な流出には至っていない (ただし, 流失が完全に否定される状況ではない) とされる。一方で, バックアップデータも暗号化されたとみられ, 新しいシステムで貸し出しができるようになるまで3か月以上, 所蔵データの再整備にはさらに時間を要している。

また, 感染原因についても発表はないが, 一般的にサイバー攻撃を受ける原因はいくつかあるとされる。例えば, 同時期に発生した大阪の公立病院でのランサムウェアによる被害は, 入院患者の給食を委託する業者が使用する機器の脆弱性を突いて, そこから病院システムに侵入したという。これを図書館に置き換えて考えると, データのダウンロードのために特定の通信を許可した経路や, リモートによるシステム保守を行うための通信を許可した経路などが考えられる。改めて, どのような通信を許可しているか確認するとともに, 適切な設定がなされているかについても確認する必要がある。こういった確認は, 設定の誤りで個人情報が外部から見られる状態になっていた事例が報告されている¹⁾ことから必要といえるだろう。機器の脆弱性を含め, 第三者によるチェックを受けることも一つの方法である。

また, メールに添付されたウイルスによるもの, USBメモリなどの外部機器経由によるものなど, 以前から指摘されている経路によるものも, 変わらず多く発生しているとされる。これらへの注意も必要である。

一方で, 図書館システムに対しては多様なアクセスを受けることも事実である。2010年の「Librahack事件」²⁾では, 図書館に対し多くの疑問や問題点などが投げかけられたことも指摘しておきたい。

『プライバシー保護ガイドライン』³⁾では「危機管理の観点から言えば, 情報漏えいの危険性は, どんなに高度な対策を取ったとしてもゼロにはならない。」と指摘している。今回の事件の被害の大きさから, 必要なセキュリティ対策とは何かを常に検討し, 実施していく必要性を改めて強く感じている。

注

1) 『みんなで作る・ネットワーク時代の図書館の自由: 連続セミナー2013記録集』(図書館の自由 別冊) 2014.10 p.38-39参照

2) 『日経コンピュータ』no.762 (2010.8.4) p.78-80参照

3) 『デジタルネットワーク環境における図書館利用のプライバシー保護ガイドライン』 日本図書館協会 2019

(おくの よしひろ: JLA 図書館の自由委員会, 京都府立図書館)

校図書館改革の課題についてお話しする。

日時：3月26日(日)14:00-16:00 (約80分の講演の後、40分ほどの質疑応答)

講師：根本 彰(東京大学名誉教授)

開催方法：Zoomによるオンライン会議方式、事前登録制

参加費：500円

申込締切：3月24日(金)24:00

申込先：<https://peatix.com/event/3488810/view>

詳細：SLIL HP：<https://sites.google.com/view/slil-inquiry/home> (SLILは学校における探究学習と学校図書館との関係についての研究グループ)

■日本図書館協会学校図書館部会
第51回(2023年度)夏季研究集会
(東京大会)

期日：7月28日(金)～29日(土)

会場：日本図書館協会研修室

開催形式：会場参加(申込先着30名)

およびオンライン視聴

テーマ：未定

内容：(1)部会報告「学校図書館をめぐる状況」、(2)講演、(3)報告1、(4)報告2、(5)報告3

※第51回夏季研究集会要項は、現在作成中です。

■全国図書館大会、全国公共図書館
研究集会開催予定

○全国図書館大会

・2023(令和5)年 第109回

開催地：岩手県盛岡市

期日：11月16日(木)・17日(金)

・2024(令和6)年 第110回

開催地：長崎県

・2025(令和7)年 第111回

開催地：愛媛県

・2026(令和8)年 第112回

開催地：石川県

○全国公共図書館研究集会

<サービス部門 総合・経営部門>

・2023(令和5)年

開催地：和歌山県

・2024(令和6)年

開催地：高知県

・2025(令和7)年

開催地：静岡県

<児童・青少年部門>

・2023(令和5)年

開催地：長野県

・2025(令和7)年

開催地：九州沖縄地区

●その他

◆日本図書館協会資料保存委員会
『ネットワーク資料保存』No.130を
掲載

資料保存委員会は、『ネットワーク資料保存』No.130を当協会HPに掲載した。内容は以下の通り。

「防災専門図書館見学参加記」(田淵敬子)、「令和4年度西洋社会科学古典資料セミナー(オンライン)参加記」(横山道子)、「第33回保存フォーラム(オンライン)「洋古書の保存と取扱いー革装本を中心にー」視聴報告」(田崎淳子)、「第24回図書館総合展出展記」(川原淳子)、「第108回全国図書館大会(オンライン大会)報告」(横山道子)、資料紹介「眞野先生。本が傷んだら修理するだけじゃダメってホント?」(眞野節雄)、「コラム エタノール」(川原淳子)

『ネットワーク資料保存』No.130：<https://www.jla.or.jp/Portals/0/data/iinkai/hozon/network/NW130.pdf>

資料保存委員会のページ：<http://www.jla.or.jp/committees/hozon/tabid/96/Default.aspx>

◆2022年度の施設会員配付資料について

これまでにお届けしている資料は下記でご案内しています。

<https://www.jla.or.jp/membership/tabid/159/Default.aspx>

また、2023(令和5)年度の施設会員会費は今年度と同額です。

施設会員A：50,000円

施設会員B：37,000円

施設会員C：23,000円

問合先：会員係 ☎03-3523-0811

FAX.03-3523-0841 E-mail: somu@jla.or.jp

公益社団法人日本図書館協会への ご寄附について

日本図書館協会は、全国の図書館の発展、文化の進展を図る事業を行うことにより、人々の読書や情報資料の利用を支援し、もって文化、学術、科学の振興に寄与することを目的としています。こうした公益目的にかなう事業を円滑に行っていくため、広く皆様からのご寄附を受け付けております。

日本図書館協会HP>JLAについて>ご寄附について、をご参照ください。

◆2023年度の理事会・代議員総会開催予定(5～6月予定分)

○2023年度通算第1回理事会

期日：2023年5月25日(木)

○2023年度通算第2回理事会

期日：2023年6月15日(木)

○2023年度通算第1回代議員総会

期日：2023年6月15日(木)

NEWS

新聞切抜帳

●全国

▶正確な「がん情報」図書館に 国立「がん」研究センター 寄贈500館超え 目にする機会を そのまま展示可 新たな展開 [和歌山県立図書館など] (宮崎日日12/20)

▶普及を先導「絵本専門士」狭き門の民間資格 地域の「核」担う 読書啓発へ「認定絵本士」も養成 (読売12/22)

▶社内図書館 交流・学び促す 本を通じ社外・地域と接点 集いたくなる空間意識 講習やライブも 発想転換の契機 [サツドラホールディングス(札幌市), Speee(港区), 増田石油(福岡市)など] (日経12/24夕)

▶学校図書費 自治体格差 小学校13倍 中学校27倍 [読売新聞]本社調査 / [スカパー]調べる学習 図書格差が影 公立小[学校]13倍・中学[校]27倍 50年前の図鑑, 情報機器優先… 交付税使途, 自治体次第 段階的に保管 財政事情 [熊本市] 情報の拠点[図書充実を図る: 鳥根県隠岐の島町, 鳥取県琴浦町 学校図書館支援センター: 松江市] 学校図書館 人手不足 学校司書や司書教諭 (読売12/26)

▶国立「MANGA」館実現なるか 超党派[「マンガ・アニメ・ゲーム」に関する議[員]連[盟]]が活発化 麻生[太郎]氏も支援 [仮称「MANGA ナショナル・センター」] (毎日1/10, 関連1紙)

▶[解説]非正規公務員「雇止め」の不安 会計年度任用職員制度 更新・公募 見直し求める声 再任用2回まで「無期転換」非適用 250

万円未満8割 人件費抑制で4人に1人 [図書館など] (読売1/20)
▶[学校に本を]古い学校図書 更新進まず 168自治体 [読売新聞]本社調査 廃棄勧めていない25% 蔵書数減に抵抗感 予算や司書不足 (読売1/22)

●北海道・東北

▶好評! 黒石市立図書館 来館者数目標値を毎月クリア (東奥日報12/8)

▶[学校に本を]「学力日本一の村」 [秋田県]東成瀬[村] 豊かな読書環境 1人あたり 図書費 全国トップ級 (読売[秋田]1/11)

●関東

▶来年度に基本計画策定 [JR]高崎駅東口栄町 再開発再始動 規模は2棟総延べ7.5万㎡ [高崎市 図書館など] (建設通信12/12)

▶蔵書7万冊 本格カフェも 流山[市] [南流山地域]図書館・児童センター開館 (千葉日報12/3)

▶概算整備費33億 複合化を検討 木更津市の新図書館 (建設通信12/19)

▶ドナルド・キーン蔵書7千冊 いつか「バーチャル図書館」を 東洋大[学]の学生らが整理・調査 まずはリスト作り ネットで公開めざす (朝日12/7夕)

▶狛江市が構想2件 市民C・新図書館を整備 設計に岡田[新一設計]事務所ら参画 (建設通信12/14)

▶話した言葉字幕で表示 鎌倉市中央図書館で実証実験 円滑な意思疎通目指す (神奈川11/25)

▶24年10月にも着工 [東急田園都市線]鷺沼駅前地区再開発 準備組合 [川崎市 図書館など] (日刊建設工業12/13)

▶三浦市の市民交流拠点整備 応募

事業者なし 来年再公募, 開業に懸念 [図書館など] (神奈川12/17)
▶川崎市議会図書館 市民の利用5年で4人 来年度新庁舎 活用増えるか 申し出で閲覧可 横浜[市議会図書館]は1年490人 (読売[川崎]12/22)

▶過去のテレビ番組図書館で視聴 全国10カ所に整備へ [公益財団法人放送番組センター(横浜市)] (朝日12/29)

●甲信越・北陸

▶魚沼[市]「生涯学習センター」基本設計まとまる 1階に貸室, 展示スペース 2, 3階は図書館 書架段状に配置 駐車場のイベント活用も (新潟日報12/14)

▶[北陸リポート]誰かの本棚のぞくと 金沢[市]にオーナー制度図書館 [「Community&Library コトノハ」一箱自由に 蔵書で自己表現 静岡発「アナログ版SNS」 商店街の活性化へ 加賀[市]「おんせん図書館みかん」や鯖江[市]「私設図書館つぐみ」]にも 敷居の低さ注目 (朝日[石川]1/25)

▶輪島市補正予算案 市立図書館整備に着手 滞在型 課題解決型 サービス提供へ 年明けに検討委[員会]を設置 (北国12/1)

▶「デジとしょ信州」開始4カ月 コロナ禍で利用広がる 貸し出し3万3千冊 登録者8970人超 滑り出し順調 [長野県] (長野日報12/31)

▶松川村図書館 UDフォントに統一 やさしさを「にじむ」書架サイン [長野県] (大系タイムス1/25)

●東海

▶岐阜市 みんなの森ぎふ]メディア[ア]コス[モス] 図書館大賞 ライブラリー・オブ・ザ・イヤー[2022]

地域への誇り育む高評価

(読売〈岐阜〉12/14)

▶23年度着工目指す 御殿場市、図書館整備基本計画策定

(日刊建設工業12/14)

▶図書館に「徳富」蘇峰の蔵書 [平沼騏一郎]元首相も 愛知[県]・豊橋市 (熊本日日1/24)

●関西

▶江北図書館 次の100年へ守りたい地域の運営が評価「[第4回]野間出版文化賞特別賞」すすむ老朽化改修費募り CF「子育てとコラボで相乗効果も」大杉[住子]副知事 [滋賀県]

(朝日〈滋賀〉1/13, 関連4紙)

▶豊中市中央図書館候補地 民間所有者が応募 来年1月にも再編計画案 3カ所程度提示へ

(日刊建設工業11/29)

▶ランドブレインに 大阪[府]・岬町、図書館基本構想策定支援

(日刊建設工業12/14)

▶[東播]旧図書館の模型を[加古川]市に寄贈 東播工[業]高[校]生製作、来月末まで[加古川図書館にて]展示 (神戸2/4)

▶旧[加古川市立]加古川図書館 保存、活用を 市民団体「[旧加古川図書館の保存と活用を求める会]」、市に署名提出 (神戸2/8)

●中国・四国

▶[ちえの森]ちづ図書館に読書通帳「ASNARO」の小畑[明日香]代表 開館2周年祝い作成、寄贈 [鳥取県智頭町] (日本海1/5)

▶世界の建物や工事車両「けんせつ絵本」人気 [鳥取]県建設技術センター 倉吉市立図書館にコーナー設置 (日本海1/6)

▶[岡山]県立美術館、図書館の指定

管理者 再公募に複数業者応募

(山陽12/17, 関連1紙)

▶[岡山]県立図書館にアーカイブ学会[実践]賞 豪雨災害記録 デジタル保存を評価 (朝日〈岡山〉12/25)

▶豊栄の公共施設再編へ 農産物直売所・保健福祉センター・テニスコ場… 東広島市 人口減進み利用低調 老朽化 [豊栄図書館など]

(中国12/1)

▶広島文学資料館を検討 [広島]市図書館再整備 議会に説明へ

(中国12/13)

▶[JR 広島]駅前に移転正式決定 広島市立中央図書館 26年度開館へ 市民ら「結論ありき」

(朝日〈広島〉1/21, 関連4紙)

▶[オーテピア高知]図書館、マイナ[ナンバー]カードで貸し出し

(日経〈四国〉12/29)

●九州・沖縄

▶神籠石の“謎”紙芝居『高良山の神籠石～鬼の石はこび～』に 久留米[市]の市民グループ「[おはなしポケット]」、筑後弁で 高良山の列石題材 [久留米市立]中央図書館で貸し出し (西日本1/12)

▶不要な参考書譲って 筑後市立図書館呼びかけ 経済苦の受験生を支援 (西日本1/13, 関連1紙)

▶佐賀[県]・吉野ヶ里町 提案競技で22日まで 総合庁舎整備事業マネジ[メント業務] [図書館など]

(建設通信12/20)

▶待ち時間に読書いかが? 島[原]鉄[道]島原駅に小さな図書館 [長崎県立島原]工業高[校]の図書部員が製作 使わなくなった本活用 [島原市] (長崎1/15)

▶企業名雑誌カバーにいかが? 佐世保市立図書館 最新号「スポンサー」募集 (長崎1/17)

▶読書バリアフリー[推進]計画可決 [長崎]県教[育]委[員会] 点字本など充実へ (長崎1/20)

▶[学校に本を]図書費 熊本市ワースト 県庁所在市・政令市で 地震影響で予算減 [2万人規模の町では熊本県益城町が小学校全国ワースト3位] (読売〈熊本〉12/29)

▶熊本大[学]の東光原文学賞 学長賞に小柳[詩菜]さん (文学部4年)

[附属図書館が創設] (熊本日日1/14)

▶[学ぶ育む]読解力伸ばす学校図書館 読書を基本 ICTも活用 大分[県]・玖珠町の取り組み 1人年145冊 郷土を探究 2人1組で調べ物／読んだ量「[読書貯金]通帳」に 森中央小[学校] くす星翔中[学校] (読売12/27)

▶コロナ下電子図書館人気 [鹿児島]県内3市[鹿児島市、薩摩川内市、鹿屋市] 来館不要、24時間OK 割高、サービス維持に課題

(南日本1/22)

▶身代金ウイルスなぜ図書館に 無差別攻撃 公的施設対策遅れ 予算や人材少なく 貸し出しに制限 メールもできない 市区町村[情報セキュリティ]審査8.1% [那覇市立図書館] 14分野重要インフラ

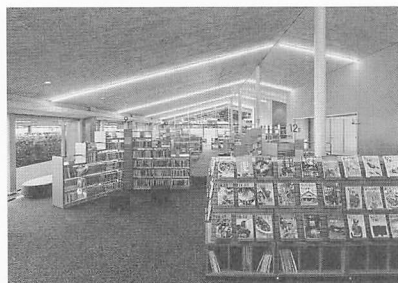
(読売〈西部本社〉1/16, 関連1紙)

▶図書貸し出し制限解除 那覇市立図書館7館 昨年10月ウイルス被害新システム構築

(沖縄タイムス1/21)

今月も阿部千春様、石井一郎様、岸本修様、桑原芳哉様、および山梨県立図書館、県立長野図書館、小郡市立図書館、筑後市立図書館の皆様より記事の提供を受けました。ありがとうございました。

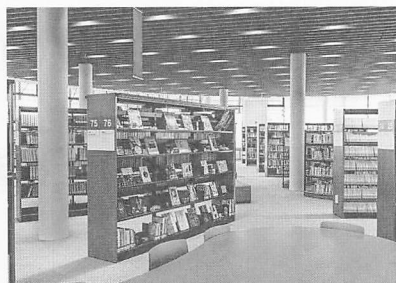
新館紹介



開館 2021年
9月14日
延床面積
865㎡

■やぶし 養父市立図書館 (兵庫)

設計：佐藤総合計画
〒667-0021 養父市八鹿町八鹿538-1 ☎079-662-0070
▶やぶ市民交流広場（愛称 YB ファブ）の一施設として開館しました。養父市初、かつ市立としては県内最後の待望の図書館です。（毛利真優）



開館 2021年
12月25日
延床面積
2,764㎡

■むろらんし 室蘭市図書館 (北海道)

設計：石本・はんだぎ設計共同企業体
〒051-0015 室蘭市本町2-2-1 ☎0143-22-1658
▶本棚の間隔を広くとり、ワンフロアのバリアフリーな卵型の開架閲覧環境になりました。多世代がさまざまな用途で利用可能な約200席の閲覧席を設置しています。（畑田佑介）



開館 2021年
9月25日
延床面積
189㎡

■りゅうがさし ほくりゅうだい 龍ヶ崎市立図書館北竜台分館 (茨城)

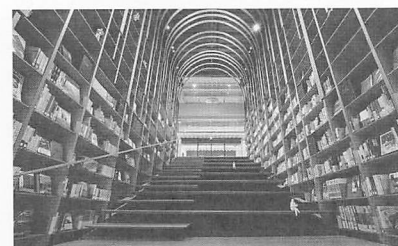
設計：つくば建設設計事務所
〒301-0044 龍ヶ崎市小柴5-1-2 ☎0297-86-8585
▶商業施設内に開館。Wi-fi、電源完備のテレワークスペース、絵本を楽しめるキッズスペース、館内で飲み物を飲みながら、誰もが楽しめる図書館。（尾崎博美）



開館 2022年
7月1日
延床面積
383㎡

■きたきゅうしゅうし やはた おりお 北九州市立八幡図書館折尾分館 (福岡)

設計：西部交通建築事務所 〒807-0861 北九州市八幡西区堀川町5-23（オリオンテラス内） ☎093-601-1999
▶折尾地区総合整備事業に伴い、地域交流施設との複合施設内に移転開館した。近隣には多くの学校等があり、「学生のまち」の図書館として整備された。（内徳誠治）



開館 2021年
10月1日
延床面積
652㎡

■わせだ こくさいぶんがくかん 早稲田大学国際文学館 (村上春樹ライブラリー) (東京)

設計：隈研吾建築都市設計事務所
〒169-8050 新宿区西早稲田1-6-1 ☎03-5273-5054
▶村上春樹氏からの寄託・寄贈資料を土台にした文学研究・資料館で、「物語を拓こう、心を語ろう」をモットーに、キャンパス内で国際色豊かな「文学の家」をめざす。（高橋由里子）

新館情報募集！

日本図書館協会では、新設図書館の情報を募集しています。公立、私立、大学、短大、専門等、館種は問いません（学校図書館は含みません）。

- ①図書館名
- ②所在地（公立図書館の場合は市区町村名までも結構です）
- ③電話番号
- ④開館日

以上の情報を、おわかりになる範囲で結構ですので、下記までお知らせください。

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14
公益社団法人日本図書館協会 新館紹介係
FAX.03-3523-0841 E-mail: zasshi@jla.or.jp

図書館家具・備品の重要性と整備ポイント

柳瀬寛夫

1. はじめに

図書館ほど、多種大量の家具を要する建築はない。しかも求められる働きは多様である。

例えば、物流倉庫の棚は大量とはいえ高効率に徹し人の心理はあまり絡まない。おしゃれなショップでは商品を引き立てつつ、店の雰囲気左右する点で家具は重要であるが、物や人の動きはそう複雑ではない。

図書館における家具の難しさは、人と物が複雑に絡み、限定された空間のなかで短時間および長期間の変化にも対応しなければならないこと、使いこなすための備品も多様であること、そして今後ますます進展する実空間と情報空間の融合への対応も重要課題であること、などが挙げられる。

2. 家具・備品の目的、種類

図書館用の家具・備品を、求める働きによって大別すれば、①大量の本や物を並べる書架や展示架群 ②立場の違う人々の多様な目的に対応するデスクや座席群 ③利用者と図書館員の主要な接点となるサービスデスク廻り ④市民活動や日ごろの学習成果を発表できる掲示・展示パネルや台、ボックス等 ⑤物流に要するブックトラック、コンテナ等…、などがあり、それらのディテールと組み合わせ方、実空間および情報空間との絡ませ方などにより、その図書館のサービス活動は先鋭化でき、利用者の満足度も向上する。

整備にあたっては、家具・備品それぞれの機能性を個々にとらえるだけでなく、全体でまとまった働きを発揮すること、居場所らしさも建築と一体になって醸しだせるなど、総合的な視点をいつも忘れずにいたい。

3. 空間のなかの家具・備品

開架閲覧エリアは、広く仕切りのないオープン

スペースでありながら、家具・備品の多さから体育館などとは対極の「見通しの悪さ×行きづらさ」を宿命的にもつ。データベース、電子書籍などのデジタル情報も実体はないものの、それを検索・閲覧するための情報端末はデスクや椅子などとともに相当スペースを占め続ける。

この「見通しの悪さ×行きづらさ」が、使いづらさにつながるのか、ほどよい広さが連続し、全体像も把握しやすく居場所も見出しやすい空間特性に仕立て上がるのか、その差は大きい。

4. 空間と書架群との関係

そうした空間構成の性格を決定づけるのは、やはり書架群である。図書館設計の難しさの一つに、初期段階に書架配置の方針を決めざるを得ないことがある。建築の骨格を詰めていく際、書架ピッチ（標準的な1.8mなど）の倍数で柱間隔を決めて合理性を持たせたり、収容冊数の検証でも各書架の段数×本数の合計は決まってくるため、建築空間の立ち上がりとともに書架の並べ方の選択肢は絞られてくる。

そこで、よく問題にされるのが「求める本の探しやすさ」と「思いがけない本との出会い」の力点の置き方である。往々にして後者を前面に押し出し、中置書架を複雑なランダム配置にしたり、壁面書架が長く続いていく設計案は登場する。その空間的な魅力に対して建築界やマスコミで評価の高い図書館もある。一方、図書館界から使いづらさを指摘されることもある。そこには規模も深く関係すると考えられる。

5. 図書館員と建築家の協働を大切に

そうしたギャップを埋めるには、まずは建築家が、図書館の基本的な本の並びを理解する必要がある、図書館員との対話や協働が鍵となる。

排架にルールがあるから探せる。そのルールはNDC（日本十進分類法）に準拠するか、独自方針とするかバリエーションはあるにしても、書架連の途切れ方（次への続き方）がわかりづらいと探しづらくなる。それは図面上でシミュレーションしてみれば実感できる。また、将来の分野ごとの蔵書増減に対する棚調整もしづらくなる。

利用者が本を探す手がかりには一筆書きのような本の並びとともに、分野（ゾーン）の位置関係がある。地球儀でアメリカや西欧、日本など、なじみやすいエリアの位置関係がわかっていると、全体把握や特定都市を探しやすいのに似ている。

また、「思いがけない本との出会い」には、偶発的な新たな知との出会いもあるが、「求める本」に関連する本や情報の探しやすさを通して「求める知」を深化させる出会いもある。そうした図書館利用の醍醐味について、私はこれまで図書館員との対話のなかで学んできた。

実際の設計段階において、図書館員の思い描く排架方針が書架群にどのように収まるのか、前述の物理的制約となる建築空間と書架群の緊密な関係があるので、極力早い段階で検証を開始すべきである。分野ごとの蔵書比率を仮設定してシミュレーションしてみると、書架群の分け方にもよるが、なかなかうまくゾーニングできないことを思い知る。図書館と建築家が対話と協働を重ねることで具体的にブラッシュアップが進む。目安としては、建築構成が固まる「基本設計」終了までに、少なくとも1案の排架を設定できれば、他案や将来的な変化の可能性も見えてくる。

6. 家具同士の関係性

上記書架配置を検討する際、その他の家具の配置も並行検討していくことになる。

サービスデスクは、利用者空間および管理諸室の双方と関係性を持つため、要の位置となる。レファレンスデスクにはその図書館のサービス方針が表出する。

検索や閲覧スペース、学習室などのデスク・座席は、多様な散らばせ方が可能である。書架群のどの分野からも近くにいる絡ませ方、まとまった席数ながらも落ち着きを持たせるスペースのつくり方、一人でもグループでも席を見つけやすい配置などが主体となろうが、プライバシー保護とともに、死角にならない見通しの良さあるいは人の

気配を感じさせる回遊性などに配慮する。持ち込みの情報端末も使いやすいように全館で対応する。

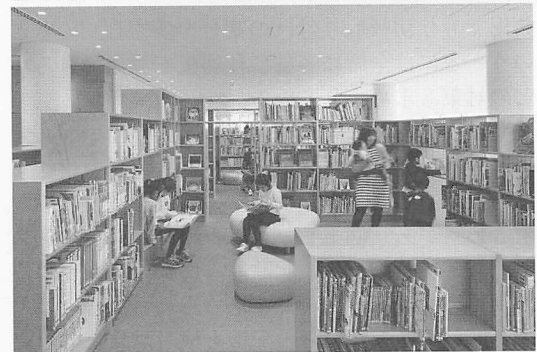
7. 主な家具・備品の整備ポイント

1) 書架

「木製」と「スチール製」の決定的な優劣はなく、何を優先するかにより決められる。木製は温かみ、加工性の良さ、揺れの少なさなどが評価される。スチール製（単柱式）は天板が不要なので段の高さ調整の容易性、側板は構造体ではないので意匠の自由性、コストの優位性などが評価される。スチール本体に棚板や側板など一部を木製にする組み合わせも可能である（写真①上）。

一般書架のほか、大型本、雑誌、新聞、紙芝居、CD/DVD、地図など特殊形状の資料架は、加工性の良い木製の方が対応しやすい（写真①下）。

いずれにしろ、棚の奥行寸法のバリエーションと互換性、奥行調整棒、ブックエンド、表紙を見せる展示台、側板や棚サインなどのパーツを含めたシステム性が使いやすさ、見やすさ、補充のしやすさなどに直結する（写真②）。



①書架の例 「気仙沼図書館・児童書用」：（上）ちしき架は棚と側板に木を使用した「スチール製」。一般書架と同型にして一般書デビューを促す。（下）えほん・ものがたり架は「木製」とし、一部にベンチを組み込むなど特殊形状に対応

また、特に公共建築の場合、将来の老朽化に対し、建築本体の屋根防水や外壁などの補修費は理解を得やすいが、書架のメンテナンス費は獲得しづらい。よって初期の質の確保に十分留意すべきと考える。



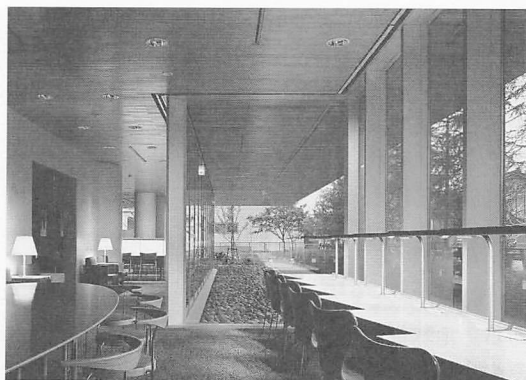
②書架システムパーツの例 「北茨城市立図書館」：側板サイン（A3紙差替式）。展示台（1連用+1冊用）、棚見出しサイン、ブックエンドは木製棚板の溝に引っ掛け、前面をそろえつつ地震時に落下させない工夫等

2) デスク

各種申込用紙などに記入する記載台のほか、検索、自動貸出用デスクなどのセルフサービスデスクは、立位と座位の組み合わせ、および車いす使用者の利用に配慮する。

一般的な閲覧デスクは、個室や学習室、グループ学習室内と、開架閲覧エリアにオープンに置くタイプに分かれ、「一人用」と「共用」に大別できる。それらは利用ニーズを想定しつつも、オープンで共用の方が席数を多く確保できるので、座席総数の目標値をにらみながら、共用タイプを主体に調整を図る場合が多い。ただし、コロナ禍以降、共用でも仕切板取り付けの割合を多くし、いざというときには全席に容易に仕切板を設置できるなどの対策も求められている。

なお、セルフサービスデスクや閲覧デスクなど、中置される家具にパソコン用などの電源を供給する場合は、床埋込コンセントの位置を厳密に設定する必要があるが悩ましい。二重床はメンテナンスが意外と難しく、今後北欧並みにデスクなどの位置変更を頻繁に行うことが求められる場合には、床と併用して天井からの配線も検討対象としたい（写真④）。見栄えが議論の対象になるが、図書館の事務室内では既に普及している。



③デスクの例 「新潟市立中央図書館」：窓に面するデスクは夜、手暗がりになるので手元照明付。内部の楕円形大型デスク（雑誌架傍ら）は天井照明のみで対応



④デスクの例 「フィンランド・エスポー市セッコ図書館」：開架閲覧エリアのサービスデスクや閲覧デスクへの電源はスタンド型ボールを通して天井から供給

3) 椅子

利用目的に応じて、その場にふさわしい姿勢で座れる椅子をセレクトしたい。形式はチェア、ソファ、ベンチ、スツールなどがあり特性が違う。

仕上は拭きやすい素地（シェル）か、温かみのある張地（布、ビニール、革）か。ひじ掛けの有無、スタッキングできる必要があるかなどが選択ポイントとなる。特にデスクの高さと座面の高さの関係はミスマッチのないように注意が必要である。

既製の椅子は多種多様で、カタログでは同じように見えても使い勝手や耐久性は判別できない。関係者でショールームに出かけたり、サンプルを取り寄せるなどして、実際に座って確かめてみることを強くお勧めしたい（写真⑤）。



⑤既製椅子のセレクト例 「気仙沼図書館」：図書館員と設計者でショールームを巡って選んだ候補を複数仮設図書館に置き、市民による座り比べを1か月実施

8. 市民との協働の例

市民ワークショップでは、「高齢者にとって最下段の本は取りづらい」「杖をどこかに立てかけられると良い」など、家具に関しても貴重な意見を多くいただく。その対話の一環として、家具製作に入る前の試作品を公開すると実感が湧く（写真⑥）。



⑥市民ワークショップの例 「日進市立図書館」：ハンディキャップを持つ市民に試作品（キャレルデスク・書架など）を体験いただき、デスク高さ、コンセント位置など使い勝手を確認

9. 地震対策

書架の転倒は絶対に避けたい。そのために一般書架においては床に強固に固定することが基本となるが、仕上材に注意が必要で、例えばフローリングの場合、下地を含めて40mm程度の厚さがあり、その下の躯体にしっかりと留める必要がある。壁はコンクリート造だけでなく、書架を支える耐力のない乾式壁もある。よって、家具施工者には事前に建築の状態を正確に伝えなければならない。

10. 家具・備品を整備する際の注意点

整備過程において「家具」「備品」の仕分けはそう単純ではない。一般的には「建築」に固定されるもの、流しなど設備が絡む「家具」は「造作家具」として「建築工事」に含まれ、動かせる机やソファなどは「備品」として別途発注されることが多い。

ところが「図書館家具」には両方が含まれ、拘子定規に分けて発注されると、棚板やブックエンド等の互換性や、木部・金物類の品質確保、見栄えの統一は難しくなる。また、書架や閲覧デスクは在庫を常備している単純な既製品ではなく、図書館ごとに予算やサービス方針、市民ニーズを受けて工夫を重ね、特注または半特注されるのが一般的である。

よって、発注に際して、中置および壁面書架を含め、展示架、サービスデスク、閲覧デスク、連結ソファ、システムパーツ（ブックエンド、展示台等）、書架周りのサインなど、統一性、互換性、更新性を持たせたシステムとしての「図書館製作備品」を一くくりとし、「一般備品（流通性のある単純な既製品）」と分けてリスト・仕様書・設計図を作成し、図書館家具としての品質や性能を担保できる発注方法が望まれる。建築工事に含める場合に要する元請経費の節約効果も大きい。ただし、単独発注の準備や建築工事との取り扱い調整に留意する必要がある、総合的に判断される。

11. おわりに

ハードがソフトを支えるうえで、家具・備品はその最前線にある。そして、個々の働きを発揮させながら、図書館総体の機能性や魅力向上に貢献する。新築時はもちろん更新や補充する際にも、全体の中での在り方やデザインの統一性などを常に念頭に置くことが、わかりやすさや魅力を保つうえでも肝要と思われる。

（やなせ ひろお：岡田新一設計事務所、JLA 図書館施設委員会）

[NDC10：0129 BSH：図書館家具]

図書館家具のデザイン 四つの事例

酒匂克之

はじめに

図書館家具をデザインすることは書架や展示什器、閲覧机などの単体をデザインすることと思われるかもしれませんが、そのモノだけをデザインしているわけではありません。まず計画されている建築空間を理解することからデザインは始まります。建築がどのようなコンセプトで設計されているのかを読み込み、複合施設なのか、図書館単独なのか、階数や広さなどの空間規模、館内の動線計画、照明計画、構造、設備などなど、家具・什器と直接には関係がなさそうに思われることも、図書館家具の場合には重要に関わってきます。

物理的なことで言えば、高い天井に照明を設置するとメンテナンスが難しいため、書架からの照明で環境照度を担保する必要があります。また、空調が床下から給気されるような設備であれば、家具側に吹き出し口を設置しなくてはいけない場合があります。空間的なことでは、壁面や柱などの構造を絡めた書架や、家具自体が空間を間仕切る機能を持つ必要があったりします。さらに感覚的なことでは、空間に圧迫感を感じそうであれば、それを軽減するようなことを考えなければいけませんし、長い動線であれば、その間を退屈に感じさせない工夫が必要になります。

図書館家具のデザインというのは、これらのように建築空間と呼応するように設計する必要があります。

また、さまざまな地域に建てられる図書館は、その地域性を感じさせる必要もあります。今や図書館はその地域住民が使用するだけでなく、観光客や離れた地域からの来館もあり、地域性を感じさせることはその地域を外にアピールすることにつながります。また、その地域住民にとっては地元に対する愛着意識を醸成させることにもつながります。そういう意味で、計画に携わるときに

はまず現地に行き、地域環境を見てまわり、その地域の特徴を調べます。歴史や文化を背景にした生活、特産品や工芸、地産材などなど、その地域性を感じられることを調査し、デザインに組み込んでいくことを考えていきます。

併せて、旧図書館にも足を運び、リサーチやヒアリングを事前に行います。現在どういう書架を使用し、どういう配架計画をしているのか、司書の方々の運用や来館者の様子など、さまざまな観点から、現在のその図書館の特徴や雰囲気を確認し、良いところは新しい図書館に生かし、足りないところは補うように考えていきます。また、旧図書館は建物自体もそうですが計画自体も旧態依然とした場合が多いため、図書館家具に関しても新しい図書館が求める機能やニーズに沿った提案を考えていきます。

図書館家具はこれらを踏まえて、総合的にデザインを進めていく必要があります。

私の場合はまず、空間を俯瞰した平面図への配置計画から行います。初期の建築設計時（基本設計時）では、要求冊数を満足以配架できるかという検証の視点で書架のボリュームを空間に配置しています。そこから、建築家とともにその図書館に最も相応しい配置計画を探りながら、まずは主体である書架の配列を検討していきます。多くは、建築空間と動線計画を軸にプランニングを進め、閲覧スペースなどその他のスペースと関連付けて計画していきます。

全体の配置計画が進んだ段階で、個々の家具単体のデザインに入っていきます。それらは、レイアウトによってデザインの考え方は異なります。書架列が静的に並行配置されているのか、動的に動きのある配置がされているのか、エリアごとにまとまりをつくっているのか、など、書架の配置

だけでも単体のデザインに大きく影響を及ぼします。

また図書館家具は、空間を大きく占有することもあり、その空間の印象に大きく影響を与えます。シンプルな書架はときに静謐な印象を与えますが、単調で退屈と捉えられる場合もあります。同じデザインであっても、それぞれの図書館空間の目的においてその印象や感じ方は変わり、それがその空間の居心地にも関与しています。

そういう視点で、いくつか私が関わった図書館の事例を元に、どういう考えで図書館家具のデザインを進めているのか提示していきます。

事例1：ミライ on 図書館

長崎県と大村市の一体複合型図書館。湾形状の一体空間に開架や閲覧スペースが段状に計画され、それらを大屋根で包み込むような大空間の中に家具が配されています。

家具の配置計画は長崎の多島海をイメージし、建築空間を大きな湾、家具のまとまりをその湾に浮かぶ島と捉え、そこが居場所になるような計画をしました。書架配置は、メインの回遊路から直交するように配置することで検索性を高め、その書架間にスペースを設けて閲覧スペースやブラウジングスペースなどを形成し、湾を回遊しながらそこに浮かぶ島に接岸するように居場所を作り出しました。

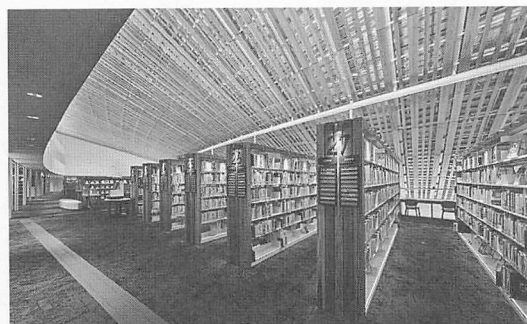
長崎の地形から触発された配置計画同様に、単体のデザインにも地域性を取り入れています。書架は、長崎くちの山車や木造船の強い木組みのイメージからスチール書架を地産材のスギで囲うデザインにしています。段状の上階から書架を見下ろすことも考慮し、スギの天井材と呼応するように眼下にスギ材が広がる光景を作っています。書架天板のスギ材の間には天井へ向けてアップライトが組み込まれており、大天井とともに空間を柔らかく包み込むような照明計画に寄与しています。また、書架照明には銅色の小径パイプを設置し、そこに明かりをとすことで、湾に配された書架に光で導くような照明になっています。

これらの家具に使用される地産材は決して安価なわけではないので、材料の効率的な活用も求めました。材料のロスが無いように、1本の丸太から建築材（天井材）と家具材を効率よく木取りして

有効活用したり、節のある材もなるべく見えない面で使用するなどの工夫をしています。

その他、スギやヒノキだけではなくさらに地域性の高い長崎県産のセンダンという木も使用しています。あまり馴染みのない樹種ですが、九州地方では地域材利用の活性化などにも採択されており、閲覧カウンターなどの家具に使用しています。

また、旧図書館に最初に伺った際、長崎の観光パンフレットやイベントのチラシがたくさん置かれていたことも印象的でした。それらは本だけではなく、地域の情報も図書館が提供していることを表しており、新図書館の1階メイン動線上に取り入れました。動線と平行にパンフレットやチラシを配置することで、特徴的なエントランス空間をつくることにつながっています。



▲スギ材に囲われた書架

事例2：オーテピア高知図書館

高知県と高知市の一体複合型図書館。施設の設計理念であった「大きな樹を育む」ような施設づくりというコンセプトから、施設が「大きな樹」であるなら、ここに集められた情報の集積、つまり本は「生い茂る情報の葉」と考えました。

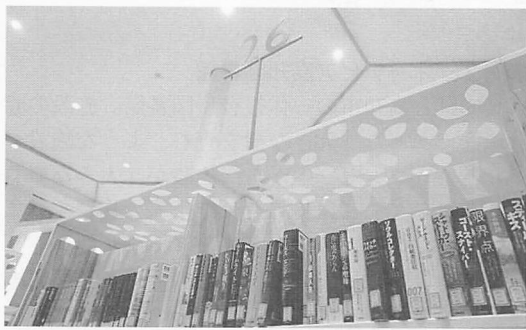
開架フロアには大きな幹にも例えられる開架書庫が中心に据えられています。そこを中心にしたトラック状の回遊空間は検索性を重視して、幹から枝を伸ばすように書架が放射状に配置されています。そのメインの2フロアは中間階を持っており、各階5m以上の天井高があります。そのため書架上部には大きな空間が生まれるので、少しでもその何もない空間に書架が関係づけられることをイメージしました。

「生い茂る情報の葉」をヴィジュアル的に書架デザインに取り入れ、天板と側板に葉の形の穴を開けました。その穴を通して、葉の形の光が差して

きたり、書架を見下ろす風景に一つのイメージを作り出しています。それらの葉のグラフィックはサインとしても展開され、この図書館のヴィジュアルアイデンティティとしてこの施設の理念をわかりやすく伝える一役も買っています。また、連続する書架のボリュームが大きいので、なるべく視線が抜けて行くような軽さと、明度の高い色による明るさを与えて、圧迫感が軽減するように配慮しました。

家具や書架の木部には高知県産材のスギを使用しています。スギは柔らかいので、基本的な書架構造はスチールで組み上げ、仕切りパネルなど構造負担が少ないところで使用しています。一部、閲覧テーブルの天板に使用している箇所もありますが、そこにはスギのCLT材（直交集成板）を用い、特殊な塗装を施すことで表面硬度を上げて、デスク天板としての機能を担保しています。スギは他にも圧縮して硬度を上げる方法もありますが、コストやメーカー技術によって、その計画での最良の方法を選択する必要があります。

また、図書館側の要望から特徴的なデザインが生まれています。一例ですが、座面の高さが40cmと50cmのものが並列するベンチは、年配の方が立ちやすいベンチも欲しいとの要望からデザインしました。



▲葉からの影

事例3：新発田市立中央図書館

新発田駅前複合施設「イクネスしばた」の中にある図書館です。「まちとつながり、ひとを育み、活動を実らせる『しばたの穂』」という建築コンセプトがあり、建築は二つの通りをつなぐように菱形の平面プランをしています。その菱形のプランに併せて書架配置も斜めに配列することで、複合施設の各機能をつなぐことができる特徴的な空間

となっています。

一方で、同じように書架を斜めに配列した図書館を視察した際、側板が片側からは見えやすいが反対側からはまったく見えなくなることに気が付きました。側板にはサイン情報が入るので、片側から情報がまったく見えなくなるのは良くありません。そこで、そういう状況を軽減させるように書架の側板をへの字型にして、緩やかなふくらみを持たせました。側板が少しでも反対側へ向くことでサインの視認性は向上し、情報を受け取る来館者へ配慮したデザインになっています。

そしてこの空間では、斜めに配列された書架間閲覧スペースが生まれるようにレイアウトをしています。そのため、緩やかなふくらみをもった側板は木立のようなやさしい印象を与え、書架間を抜けるとポケットパークのような閲覧スペースがあらわれるような構成になっています。また、書架天板から生えている稲穂のような書架照明は、地域性を意識した建築コンセプトの『しばたの穂』からイメージしており、この図書館ならではの風景を空間に生み出しています。



▲への字型側板の書架

事例4：長崎県立長崎図書館郷土資料センター

長崎学など郷土に関する資料の収集や提供などの拠点施設です。郷土資料の調査・研究等にふさわしい場を想定し、静的な落ち着いた雰囲気を作り出す書架や家具が求められました。規模的にも、空間形状としても配置プランはあまり大きく変えていく必要はなく、その中でこの図書館らしさをどうつくり出せるかを考えていました。

敷地は旧長崎県立図書館の跡地になり、その敷地内の遊歩道にはクスノキの大樹が生えていました。現地調査に訪れた際にその大楠を見上げて、クスノキを家具に使ったことがなかった私は、ふ

と、クスノキって家具に使えるのだろうかと思ったところからデザインを始めました。クスノキは樟脳としての防虫効果もあり、調べると九州地方では比較的流通している樹種で家具材としても安定して使用できることがわかりました。そのときにデザインの大枠はできたように思います。最終的には、グレージュ色を施したスチール書架を端正なクスノキの木目で囲うデザインにしました。特殊なかたちや機能ではなく、ここでは素材の響きのみを重視して、この図書館の特徴と地域性を家具で表しています。

家具の竣工時、ロールスクリーンをあげると、夕刻の木洩れ日が閲覧室に落ち、外の大楠の影をクスノキの書架がまもっていました。それは、さも自身の影をまもっているように思えて不思議な気持ちになりました。また、閲覧席の窓からは、その大楠を仰ぎ見ることになります。そこに座り郷土のことに思いをはせる姿も含めて、家具のデザインと言えるのではないかと思います。



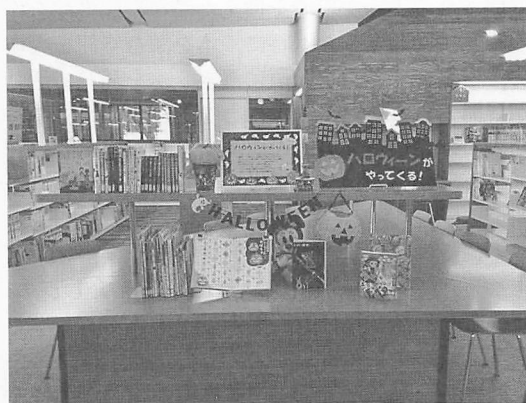
▲大楠を見上げる閲覧席

今後の展望

これらの事例のように、私の場合、図書館家具のデザインは、建築空間と呼応すること、また、その地域性を表すこと、そして個々の図書館に沿った機能を有することを心掛けています。機能というのは、物理的に本を配架できることや、家具什器の利便性ということだけではなく、その空間に対しての印象を与えることも大事な機能の一つと考えています。図書館を始め公共施設という

のは商業施設と異なり、市民の側から選ぶことはできません。ほとんどの場合、居住している近くの図書館が一番足を運ぶ図書館になると思います。そういう意味で、その人の記憶の風景に関わっていることも意識してデザインに向き合っています。

そして、今はさらにもう一つの異なった視点に興味を持っています。デザイナーが図書館家具を設計するのですが、デザイナーが想定できないこともあります。それは、設計した家具の思いも寄らない使われ方です。図書館家具の使い方は最終的には運営にゆだねられます。例えば、私がデザインした四角いイスツールがひとハコ図書館に使われていたり、タスクライトが展示台に使用されていたり。ある図書館では、古いカード目録の什器を表紙見せ展示に使っていました。こういう使い方の工夫に出会うと、デザインする側にも発見的なことが多々あります。そういう意味で、図書館家具はこうでしか使えないデザインではなく、許容力と想像力で行為が促される家具というのを目指すべきではないかと考えて、今のデザインに取り組んでいます。



▲タスクライトを展示台に使用

<建築設計>

- ミライ on 図書館：佐藤総合計画 + INTERMEDIA
- オーテピア高知図書館：佐藤総合計画 + ライト岡田設計
- 新発田市立中央図書館：佐藤総合計画
- 長崎県立長崎図書館郷土資料センター：INTERMEDIA
(さこう かつゆき：丘の上事務所)
[NDC10：012.9 BSH：図書館家具]

特集★図書館の空間をデザインする

豊かな空間を作る家具設計

— 明治大学和泉図書館 —

折戸晶子

1. はじめに

現在の明治大学和泉図書館は、明治大学創立130周年記念事業のひとつとして2012年に建設されました。基本理念に「人と人・人と情報を結ぶ『架け橋 (LIAISON)』」を掲げ、「入ってみたいくなる図書館」をキャッチフレーズとしています。

すべての学生が、図書館を身近な存在として感じ、居場所として図書館を活用できるようにしたいと考えました。そして、図書館に集う人々を、また、その人々と図書館に集まる情報を結びつなげることで、それらが融合してさまざまな活動が展開されるような環境を備えた滞在型図書館を作ろうと計画しました。特に、本を読む空間を大切にするという考えを念頭に置き、本を通して活動が展開される空間づくりに力を注ぎました。このためには学生が「自分の居場所を見つけられる」多様な空間を用意し、学生の学習・教育・交流空間を積極的に作る事が大切であると考えました。

本稿では、空間計画において重要な役割を果たす家具計画に焦点を当てながら事例を紹介します。

2. 空間計画

本と活動が見える空間づくりのためには、書架や閲覧席の配置、書架と閲覧席の関係性が重要です。

「架け橋 (LIAISON)」を形にするため、本はどこからでも常に見えるようにし、書架の近くに閲覧席があり、書架のつながりはシンプルにわかりやすく、本へのアクセスを容易にすることが図書館の要望でした。そして、読書やさまざまな学習活動のために、ゆとりと落ち着きのある空間を作ることも望みました。さらに活動の連鎖を促すため、外から活動が見えることも忘れてはならないことでした。

これらの要件を満たすため、フロア中心に書架を配置し、閲覧席は書架を囲むように、また、外

からも見える位置に配置することになりました。

また、書架を斜めに配置することで、本の背表紙、側板の書架サインがよく見えるようになり、本が探しやすくなりました。この斜め配置は空間全体を柔らかくする効果もあり、本の森を散策しているようで心地よい空間を作り出しています。

閲覧席の位置について、書架との関係性や外への活動の表出に加えて、自然光を取り入れた設計ができたことや座った位置から外を眺めることができるなど、落ち着いた学習空間も作られました。

3. 空間グラデーションと音のゾーニング

はじめに、学生の学習活動について考えました。閲覧エリアについては、個人学習やグループ学習などの学習形態の違いだけでなく、使う資料や機器の相違や読む・書く・討論・発表など一連の学習の段階もさまざまです。必然的にニーズも多様となります。ニーズが顕在化するタイミングも人それぞれです。ニーズが潜在的なときからさまざまな性格の場所を常に目にすることで、ニーズに合った場所をなんとなく選んでいるという状況が自然と生まれることが望ましいのではないかと話し合いました。

そこで、これら多様な性格を持つ空間をシームレスに配置し、ワンロケーションで学習活動を支援する環境を整えるよう計画を進めました。

動と静のいずれの活動もストレスなく行えるようにしながら、音環境に配慮したゾーニングを施すことは重要な要求事項でした。それぞれの学習活動において、快適な環境について意見を出し合いましたが、何を快適と感じるかはそれぞれの感性によるところもあり、難しい議論でした。議論を重ねる中で、動から静へのさまざまな活動を緩やかに移り変わるように空間全体にグラデーションを用いて表現することが設計者より提案されました。これは、だれもが個々の状況に応じてさま

ざまな活動を快適に行えるようにしようとするものでした。

その結果、1階から4階にかけて、入り口から奥に向かって、にぎわいから集中へ、動から静へのグラデーションを用い、自分だけの居場所を見つけられる図書館の形ができていったのです。これは、図書館が強くこだわってきた音への配慮を音のゾーニングという形で実現したものでした。こうした考え方は家具計画においても反映されています。

4. 家具計画

次に、自学自習をサポートし、さまざまな活動を促す快適な空間および家具を考えるにあたり、具体的な活動イメージについて洗い出しを行いました。ディスカッションなど発話を必要とする学習、1グループ占有スペースでの学習、オープンエリアでのグループ学習、音のない静寂な環境での学習、多少ざわめきがあっても問題のない学習環境、個人学習では、仕切られた一人の空間を好む人、占有スペースを確保したオープンエリアを好む人、書斎的な重厚感を好む人、明るく開放的であることを好む人など、人それぞれの好みのスタイルがあることがわかってきました。家具には、それぞれの活動を誘発するようなデザインを求めました。そして、学生が学習活動に誇りを持てたり、楽しいと感じたりしながら、心が豊かになるような家具を選ぶようにしました。

家具の配置については、上階へ行くにしたがってのグラデーションだけでなく、館内動線やキャンパスの景色との関係性を踏まえたフロア内での空間グラデーションも考慮しました。これにより、建物全体にストーリー性も生まれました。

家具は、直接触れるものが多いため、人との距離感が近く、第一印象がとても大切です。全体の統一感で落ち着きを感じさせ、ところどころにアイキャッチとなる家具を入れることで、楽しさや、また来たくなる気持ちを持ってもらえたのではないかと思います。

5. 家具デザイン

ここで、閲覧席、書架について少しふれておきます。

5. (1) 閲覧席

空間グラデーションに基づき、下層階には、丸みを帯びた曲線を使い、リラックスした開放的なイメージを表現したり、上層階には、シャープな

直線を使うことで静寂性や緊張感を高める工夫をしています。また、各席のパーティションの高さや角度、透明性等素材にも変化をつけ、エリアごとのリラックス性や集中度に応じた変化をつけています。色調も明るいベージュから茶色、黒色と徐々に変化をさせています。閲覧椅子は、素材の硬軟や形状、色や着座角度等、それぞれの閲覧スタイルに合わせた変化をつけています。

また、閲覧席の中心に設置した照明は、乳白色の筒形のガラス板で囲んであるため、柔らかな光となって表れ、そこから照らす灯りは、空間全体に落ち着きをもたらしています。

このほか、吹き抜け空間やエレベータ前やコミュニケーションエリアには、遊び心のある形や色を取り入れた家具を置き、緊張感を癒したり、ゆったりと読書を楽しめるようにしています。

5. (2) 書架

書架は配架計画やメンテナンス等管理面から形状は統一させ、色調のみを変化させることで空間のグラデーションを表現しました。側板は一枚板ではなく複数の木板を凹凸をつけて張り合わせたデザインで立体感を持たせています。

また、入館ゲート近くには、デザイン性のある書架を設置し、気に留めてもらえるようにしました。マグネット掲示板に紹介文を書いたり張ったりすることもできます。

6. 家具デザインは建物設計の重要な要素

和泉図書館では、建築計画の初期の段階から空間計画に家具デザインコンセプトも含めて考えられていました。家具が空間をデザインするという観点で計画を進められたことは、図書館建築において非常に効果的でした。動から静への緩やかな変化を閲覧席のデザインや配置で表現することは、これまでなかった試みとして、非常に興味深く、ワクワクしたことを覚えています。学生たちは、好みの場所をその時の気分で選び、自分にとって居心地の良い場所でそれぞれの学習スタイルで勉強していることでしょう。

空間をデザインする要素として家具を計画することで、建物全体に統一感ができ、五感に優しくなじむ居心地の良い図書館を作り上げることができたと考えています。

(おりと あきこ：明治大学)

[NDC10：012.9 BSH：1. 図書館家具 2. 明治大学和泉図書館]

特集★図書館の空間をデザインする

神奈川県立図書館の空間づくり

— 新・本館における家具、書架の事例 —

森谷芳浩

1. はじめに

神奈川県立図書館（1954（昭和29）年設置）は、施設の老朽化や収蔵スペースの不足といった課題への対応、新たな機能や役割の付加を目的として、現在、再整備を進めている。2022（令和4）年9月には、旧・本館を含む既存2棟（2023（令和5）～2026（令和8）年度にかけて改修予定）の隣地に、新・本館を開館した。本稿では、この新・本館に設置した家具等什器のうち、造作家具の一部と、建築意匠の機能と一体化した窓面書架について、その特徴や検討のプロセスなどを紹介してみたい。

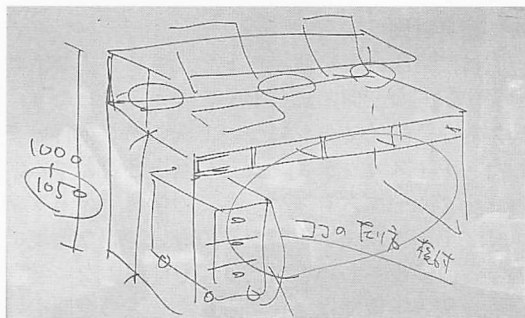
2. 内装デザイン全般について

家具計画を含む内装デザインは、ブックディレクターとして知られ、公共図書館等のリニューアルにも実績をもつ幅允孝氏が教育委員会の顧問として参画し、全体を監修している。照明、フロア、書架側板の素材や配色など、館内の雰囲気、空間づくりに関して幅広く助言や提案を受けており、家具も含めた個々の什器については、幅氏のほかに職員、新・本館の設計者、空間演出デザインの専門家も交えた検討会で議論した。

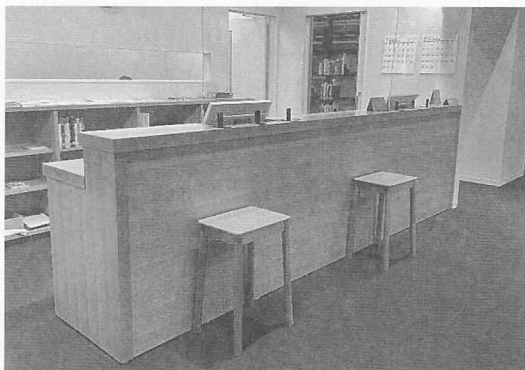
3. カウンター、収納家具

カウンターや、雑誌テーブル、新聞架、地図架などの収納家具、端末テーブルなどの造作家具は、配置場所や機能、収納する物品を事前に確認し、ホワイトボード上でイラストを描きながらデザインを決めていった。

例えば、1階の入口近くにある総合カウンターは、定型的でスピーディーなやり取りを行うことを想定したため、職員側が2段のハイカウンターとし、利用者とは長時間向き合って相談を受けるレファレンスカウンターは、多くの資料を机上に広げても余裕が持てるよう、一般的なカウンターよりも奥行きを取ったサイズとした。



▲検討時のホワイトボード上の図



▲完成後の総合カウンター

4. 閲覧席用の椅子

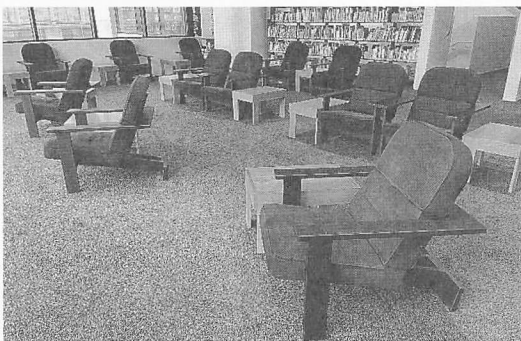
新・本館には、ロングテーブルを置いたメインの区画のほか、静かに読書だけに集中する部屋、テラスに面したラウンジ、個室など多様な閲覧スペースを設けている。椅子もそれぞれ異なる特徴をもつが、単に座面が柔らかいといった心地良さよりは、読書、学習に集中できることを要件とし、例えばロングテーブルの椅子は、背もたれを曲面とし腰回りがフィットする形にデザインされた。

ところで、新・本館の造作家具の多くは、成形合板による家具づくりで知られる天童木工(株)に製作を依頼している。同社は旧・本館のためにデザインされた椅子を製作しており、この椅子は現

在, ダイニングチェアとして販売され, グッドデザイン・ロングライフデザイン賞(2020年度)を受賞している。つまり, 新たに製作する家具に自館の家具をめぐるエピソードを重ね合わせて, 物語性を持たせようとしたものである。



▲(左)ロングテーブルの椅子、(右)旧・本館の椅子(現在、販売されている製品)



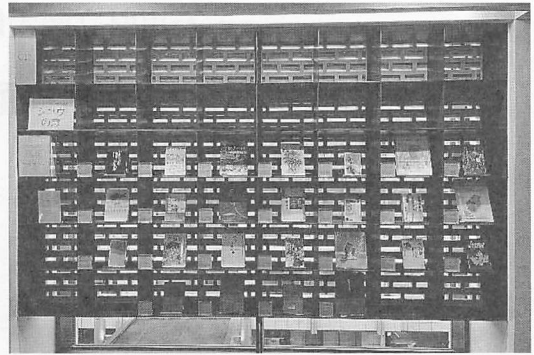
▲ラウンジチェア。こちらは(株)E&Yによる製作。

5. 窓面書架

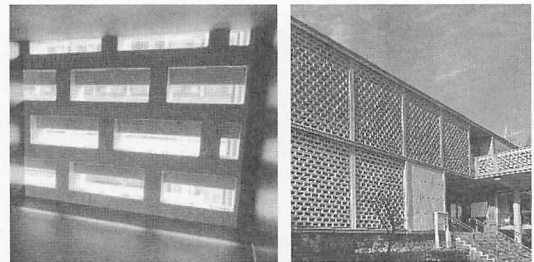
什器ではなく建築の一部として設置した窓面書架は, 当初, 収蔵冊数を確保する観点から, 壁面全体に資料を配架する書架として構想していた。ただし外部から閉ざされるため, 閉塞感が出るという難点があった。そこで, 設計者から, 格子状に組み合わせたスチール棚をコンクリートの支柱にはめ込み, 裏側は外部を遮る壁ではなくガラス面(紫外線カット処理済)とする。さらに有孔木パネルを間に挟むことによって直射光を遮る, というプランが提案された。これは旧・本館で, 館内に入り込む外光を調整するために設置されたホローブリック(有孔煉瓦ブロック)の機能・意匠を継承したものである。

説明が後になったが, 旧・本館は, 戦後のモダニズム建築をリードした建築家・前川國男氏による設計の建物で, 周囲には同じ前川氏設計の音楽

堂, 青少年センターもある。新・本館には景觀としての統一性に配慮することが求められており, 窓面書架は, その要求にも配慮しながら, 壁面書架の構想に近づけたプランとして採用した。



▲内側から見た窓面書架



▲(左)有孔木パネルの拡大図、(右)旧・本館(現名称は「前川國男館」)の外観

家具も含め新・本館に関する詳しい内容は特設サイトを参照されたい。

<https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/yokohama/teasersite/>

6. おわりに

新・本館の内装は, 暖色系の照明, ダークブルーのカーペット, 木製中心の家具により, 全体として落ち着いた雰囲気を作り出した。あわせて旧・本館の意匠・機能, エピソードを取り入れるなど, 自館の歴史を新たに活かす試みにも取り組んだ。

図書館がもつ知識・情報を集積・提供する機能は, 電子化の進展に伴い, 場所を選ばなくなりつつあるが, 知的な空間を演出する機能に関しては(むろん家具に限ったことではないが), そこでは得られない固有の体験ができる場として, 今後も幅広い可能性があると感じている。

(もりや よしひろ: 神奈川県立図書館)

[NDC10: 016.2137

BSH: 1. 図書館家具 2. 神奈川県立図書館]

特集★図書館の空間をデザインする

「百脚繚乱」の閲覧席

— 石川県立図書館の家具について —

嘉門佳顕・川上元美

1. 新しい石川県立図書館の概要

石川県立図書館（以下「当館」）は、金沢市小立野の地に移転し、2022年7月にリニューアルオープンした。建物は地上4階・地下1階建て、延床面積約2万2700㎡で、開架は約30万冊、書庫の収蔵能力は約200万冊、閲覧席数は約500席の規模である。閲覧エリアのほか、研修室やラーニングスペース、モノづくりや食文化を体験する部屋などを備えた文化交流エリアがあり、さまざまな知的活動を展開できる。

開館して半年で約60万人の来館者が訪れ、活気にぎわいにあふれる文化施設として歩み始めたところだ。

1.1 家具は図書館を彩る主役

当館は、多くの人が訪れることを目指した図書館である。老若男女のだれもが「ここに来る」価値を見出し、何度も利用したくなる施設だ。それを実現する上で、家具が果たす役割は大きい。本を読むとき、私たちは台に荷物を置き、椅子に身体をあずけ、机の助けを借りる。家具は人に寄り添い、直接的に行為を支え、本との時間を豊かにする重要な存在だ。

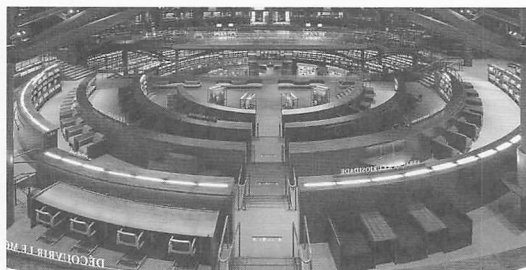


図1. 大閲覧空間

1.2 本と人との多様な関係

『文読む姿の西東 描かれた読書と書物史』（田村俊作・編）¹⁾は、古今東西の「本を読む姿」を描いた美術作品を題材に、読書の情景について論じた一冊である。時代が変われども、国が違えども、

本を手にする人の姿は多岐にわたり、そのどれもが美しいことに気づかされる。一人になりたいとき、友人と語りたいとき、集中したいとき、くつろぎたいとき。気分や目的に応じて、フィットする場所や姿勢は変わる。

2. 「百脚繚乱」の閲覧席

そのような本と人とのさまざまな関係を幅広く受け止めるべく、当館の家具計画では、できるだけバリエーションを持たせることを主眼に置いた。家具が設置される場所の特性を踏まえつつ、100種を超える閲覧席を館内随所に設けている²⁾。

椅子の選定においては、革新的なものも含む既存のものや、当館のためにデザインしたもの、象徴的なものなど、全体の調和を考慮しつつ、智に向かう直正な環境づくりを心がけた。図書館の基本である「本を楽しむ、知のために探す、本とともに考える」という行為が豊かになるよう、使う視点に立ち、心地よさを重視して選んでいる。同時に、館内は東西南北のエリアごとに加賀五彩を用いて色分けされているため、椅子も同系色の色調となるよう張地を個別に選定し、エリアとしての統一感を生むようにしている。

次節で、具体的に紹介していこう。

3. 石川県立図書館の家具と閲覧空間

3.1 閲覧用椅子

新たにデザインした机に向かうための椅子。主に通路に背を向けて並ぶことから、一般的な4本脚ではなく、後脚のない成型合板のカンチレバー脚を採用した。後ろを車椅子やベビーカーが通ることも想定し、通路を広く感じられるようにする



図2. 左：ドローイング。右：加賀五彩に準じた五種類の色がある。

ためである。また、着座して楽なように、そして立ち居しやすいように肘掛けを少し短めにしている。

3.2 大閲覧空間の家具

大閲覧空間は、中心の吹き抜けを包むように円形の書架が年輪のように何重も並ぶ閲覧エリアを象徴する場所である。書架間は円弧形の通路で、1階から3階を結ぶいわば「散策路」だ。人々が行き交い、動的で街のような界限性がある。円形書架の配架は、日本十進分類法（以下「NDC」）ではなく、独自で創設した「本と出会う12のテーマ」に基づいて行われており、歩みを進めるといろい

ろな分類の本の表紙が次々と目に飛び込んでくる。通路沿いには椅子やソファが止まり木のように並び、気になった本をみつければ、手にとってすぐに腰を掛けページをめくることができる。張地には、視覚的にも楽しい佇まいとなるよう、加賀五彩を基調としてトーンの異なる張布を使用した。

3.3 各フロアの家具

大閲覧空間の外側には各階の主要動線である「大通り」が巡り、さらに建物外周の窓辺にむかって平らな閲覧エリアが広がる。大通りと直交するように書架は外に向かって並列にならび、NDCに基づいた配架がなされている。その通路部分に、数々の佇める場所がある。

図4-① ソファセット。同セットのレイアウト違いを各地に配置。手前は独立型のショーケース。

図4-② グループでの利用や、大きな資料を広げることに適した大テーブル。

図4-③ 角の大きな窓に面したブース席。後ろにはソファと一体になったキャレル。吹き抜けの先に山並みが見え、開放感がありつつ集中できる。

図4-④ セルフステーションと多彩な家具。

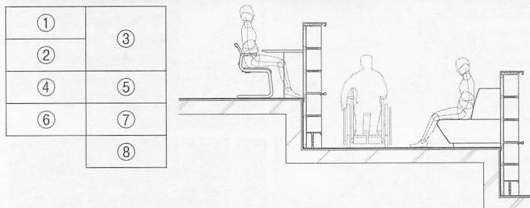


図3.

図3-① 連結ソファとサイドテーブルのセット。

図3-② 通路沿いのソファ。

図3-③ カウンターデスクに並ぶ閲覧用椅子。3階吹き抜けに面し、館内を一望できる人気のコーナー。

図3-④ 大振りゆったりとした連結ソファ。

図3-⑤ 三日月デスクと閲覧用椅子。椅子2脚が配され、友人やカップルの利用が多い。

図3-⑥ 対面タイプのデスク。横のパネルが目線を遮り、読書や学習に没頭できる。

図3-⑦ 三日月の形をした大型ソファ。

図3-⑧ 大閲覧空間の断面構成。

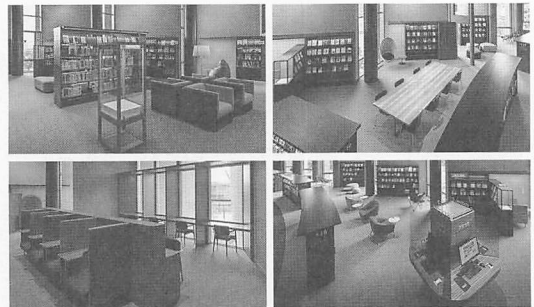


図4.



3.4 3階ブリッジ

吹き抜け上部を東西に渡る「ブリッジ」からは、館内全体が見渡せる。ソファなどが配され、ゆっくりとデザイン誌や美術書を眺めながら過ごせる特別な空間。周囲からの視線も集まる晴れやかな場所でもある。

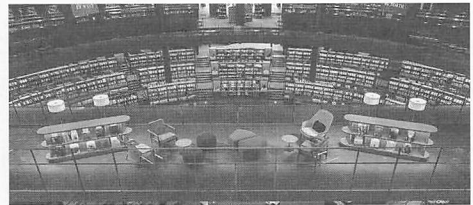


図5. ブリッジ

3.5 窓辺の家具

閲覧エリアの2階と3階の外周部の窓辺は、書

斎のような静けさが漂う。外壁パネルは列柱が作る矩形の輪郭からはみ出し、外にむかってめくられるように連続する。そこにできる三角形の余白が、さまざまなタイプのパーソナルな閲覧席になっている。窓からは庭の緑や遠く山々を望むことができ、気に入った場所で四季折々の変化を楽しむことができる。

窓辺の閲覧席は約50席。オープンな雰囲気のある場所からプライベート色の強い場所まで、それぞれに特徴を持たせている。キャレルタイプではない席にも、本を置くためのサイドテーブルやシェルフがセットされており、本をたくさん携えて心ゆくまで読書を満喫できる。

図6・7のAは可動式衝立によって通路からの視線を遮る半個室タイプ。調べものや学習での利用にも対応する。回転式の立ち居しやすい椅子やアーム付きの長時間机に向かうことに適した椅子などを選定した。

図6・7のBは窓とL字書架の間を活かし、景色を眺めながら落ち着いて読書に没頭できるタイプ。深く腰掛け、身体をあずけることに適した椅子を選定した。

図6・7のCは奥まった静かな場所に位置する個室タイプ。仕切り戸は金沢の町家に特有の「木虫籠（きむすこ）」と呼ばれる格子戸にならったデザインとした。木虫籠には、格子の断面形状が台形という特徴があり、中から外は見えやすく、外から中が見づらいという視覚効果がある。気配は感じながらも集中できる席として人気がある。

以上のように、窓辺のそれぞれの場所がどれも同じではない設えとなっている。どこに座ろうかと歩く楽しさも、当館の魅力の一つとなっている。

3.6 グループ活動室／サイレントルーム

2階の窓辺には、5人程度での利用を想定した「グループ活動室」がある。扉と壁をガラス張りにすることで開放感を保ちつつ、他の利用者に気兼ねなく話し合いや共同作業を行うことができる。各エリアに分かれて配置されている五彩の椅子をこの部屋では全色そろえ、利用がないときも視覚的に華やかになるようにした。

3階の一角にある「サイレントルーム」も同じくガラス張りで、会話ができる一般の閲覧エリアとは区画された、静寂な環境で集中したい利用者のための部屋である。雁行した窓辺の開口部を有効活用してデザインしたデスク席は、高いパー

ティションを設置しなくても利用者の視線が交錯しにくい配置とし、圧迫感のないパーソナルスペースが確保できている。

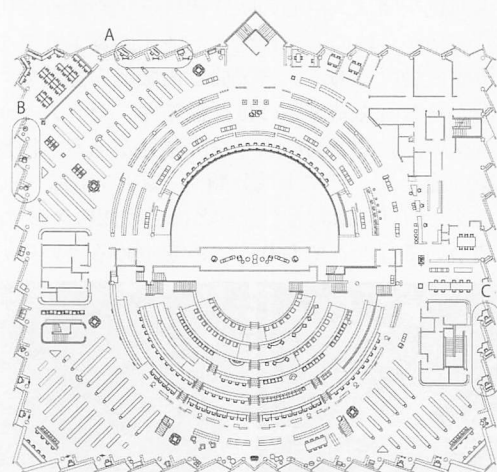


図6. 3階家具配置図

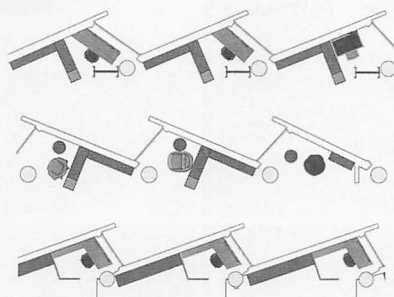


図7. 3階 窓辺の席。上からA, B, C。

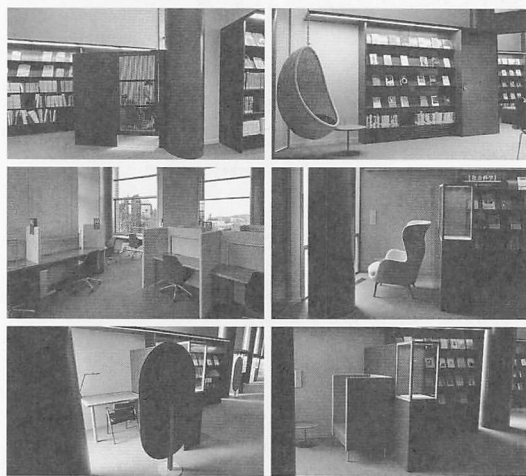


図8. 窓辺の席。右列上からハンギングエッグチェア。RO chair。パネル付きオリジナルソファ。左列上から木虫籠（きむすこ）の個室。サイレントルーム。造作机のある半個室。

3.7 ショーケース

空間を彩り、館内を巡る楽しさを演出するアクセントとして、また伝統工芸が根付いた本県の文化を表象する仕掛けとして、工芸品や美術品などを展示する大小さまざまなショーケースが各所に配置されている。サイズは異なるが共通ディテールを持ち、バリエーションの豊かさと館全体の統一感を両立させている。

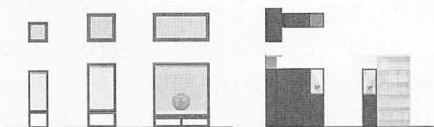


図9. 左：ショーケース各種。右：外壁沿いのL字書架にある小さな展示ケース。

3.8 インフォメーション機器

各所に設置される機器端末のための什器も、丁寧にデザインした。具体的には、利用者が自ら図書検索や貸し出し手続きなどを行う「セルフステーション」、館内インフォメーションの「エリアナビ」、本の位置情報を示す「ブックナビ」などである。什器の製作者のみならず、システム事業者、建築・電気・展示の各工事施工者、サインのデザイナーなど、多くの関係者と協働し、数々の緻密な調整を行って実現したものだ。これらの什器は、だれもが利用し、手に触れる身近な存在である。だからこそ、操作しやすく、かつ周囲との調和した美しいものになるよう、力を尽くした。

セルフステーションは杉圧縮縦目材のもつ直線が引き立つ木目により、無機質になりがちな端末スペースに上質な表情を与えつつ、ダイナミックな閲覧空間や書架とも調和する存在感を狙った。機器はユニバーサルデザインを考慮して天板に埋め込み、シンプルでモダンな意匠を表現しながら、機械的な要素を隠すことで、利用者自身が操作することへの心理的ハードルが下がることも期待している。

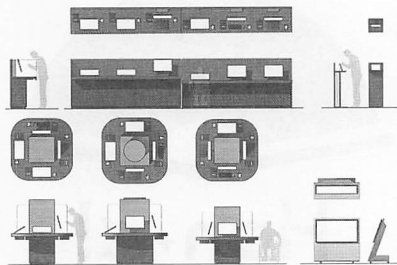


図10. 上段：デスク型とブックナビ。下段：タワー型とエリアナビ。

エリアナビは積層合板の美しさと、天然リノリウムの柔らかい印象がもたらす親しみのあるデザイン。黒く重たい大型タッチモニターを軽やかに支えながら、キャスターでの移動や背面を合わせた設置への対応など、機動性も考慮されている。

ブックナビはミニマムな要素で主張を抑えながらも、セルフステーションと同様の材・仕上げにより統一された上品な質感をもつ。タブレットケースとスタンドもオリジナルデザインで制作した。

4. おわりに

当館の家具への反響は大きい。「わくわくする」や「ずっといられる」など、家具を満喫している声も多く聞こえる。特に窓辺の席や、籠るブース席、見晴らしのいい席はすぐに埋まる。どの本棚のそばにも椅子があり、すぐ腰をかけられる点も好評だ。

公共建築の整備において、家具は一般的に「備品」として調達され、消耗品のように扱われることも珍しくない。しかし先述のように、心地のよい家具は空間の体験を豊かにし、施設の印象を決定づける要素となる。加えて、当館の家具は、荒々しい使い方をしなければ、長期間の利用に耐えるものばかりである。長きにわたり使われることは、環境負荷の低減のみならず、利用者の愛着を育むことにつながるはずだ。当館の事例が、公共建築における家具の可能性を再認識する一助となれば幸いである。

デジタル化が進み、人が身軽になれば、特定の場所に縛られる必要がなくなる。だからこそ、自分が過ごしたいと思う場所に、積極的に足を運ぶ機会が増えるだろう。家のように安らいだり、放課後に談笑しにきたり、オフィス代わりに机に向かったりしている利用者の様子を眺めていると、場所そのものが価値を持つ図書館への期待の大きさを実感する。産声をあげた当館が、日常の一部として、一人でも多くの方の人生に寄り添う公共施設に育ってくれば本望だ。

参考

1) 田村俊作(編)、『文読む姿の西東 描かれた読書と書物史』, 2007

2) 石川県, 石川県立図書館家具ガイド, 2022

<https://www.library.pref.ishikawa.lg.jp/file/2246.pdf>

写真撮影：大倉英揮(黒目写真館)/石川県/川上デザインルーム

(かもん よしたか：石川県県民文化スポーツ部文化振興課, かわかみ もとみ：川上デザインルーム)

[NDC10：016.2143 BSH：1. 図書館家具 2. 石川県立図書館]

特集★図書館の空間をデザインする

大阪市立中央図書館地下1階 Hon+α! (ほな!) スペース

西尾真由子

●はじめに

大阪市立中央図書館は、地下1階閲覧室の一部を改修し、2021年3月6日に新たな空間 Hon+α! (ほな!) スペースをオープンした (https://www.oml.city.osaka.lg.jp/?page_id=1334)。おおさか河内材を使用した木のぬくもりあふれる開放的なこの空間は、一般社団法人日本ウッドデザイン協会主催の「ウッドデザイン賞2021 ハートフルデザイン部門奨励賞」を受賞した。この賞は木の良さや価値をデザインの力で再構築することを目的として優れた建築・空間、活動等を評価し表彰するものである。

本稿では Hon+α! スペースの、空間づくりに至る構想から現在の活用状況までを報告する。

●大阪市立中央図書館の概要

大阪市立中央図書館は、国際化・高度情報化・高齢化社会に対応した21世紀にふさわしい大阪の情報拠点として、1996年7月にリニューアルオープンした。地上5階（一部6階）、地下6階で、基礎自治体では最大級の約34,500㎡の延床面積を有する。「ヒューマンライブラリー」として、あらゆる人に開かれ、人と本や情報が出会える図書館をめざしていること、多くの市民に親しまれていることなどが評価され、1998年に第14回日本図書館協会建築賞を受賞した。

大阪市立図書館全館の中核として、庶務、予算管理、広報、企画、通送業務、図書館情報ネットワークシステム管理等を行ったり、障がい者サービス、アウトリーチサービス、他都市連携、学校連携・学校図書館支援の拠点ともなり、地域図書館23館および自動車文庫のサービスをバックアップする。また、中央図書館の位置する西区の地域図書館としての役割も担っている。

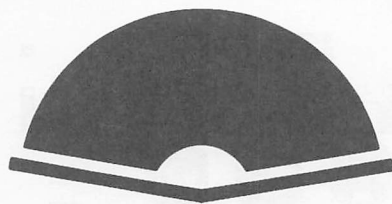
●大阪市立中央図書館施設活用構想

リニューアルオープンから20年以上経過し、新たなニーズをふまえた施設の在り方について、役割や可能性を検討することにした。財政状況が厳

しい時代に持続可能な図書館サービスを提供するには、コーナー改編等の規模の最適化やスペースの有効活用が必要であり、閲覧スペースの一部を他の目的に活用することを着眼点とした。2019年に図書館職員によるプロジェクトチームを結成し、先進的な取り組みを行っている図書館を視察し、これと並行して、「大阪市立中央図書館施設活用構想策定会議」を設置し、有識者の方々から幅広い意見をいただき、同年9月に「大阪市立中央図書館施設活用構想」を策定した (https://www.oml.city.osaka.lg.jp/?page_id=1641)。

「市民参加・市民交流のできる空間」、「新しい機能のある利便性の高い空間」、「新しい魅力のある空間」、「インターネット接続が保障された空間」、「明るく外から見える空間」の5点を基本方針に掲げ、コンセプトを「Hon+α!」とした。これは「本(ほん) プラスアルファ」、「ほな行こか、ほな何かしよか、の大阪弁のほな」、「Happen (何かが起こり)」、「Open (広がり)」、「Networking (つながっていく)」など、さまざまな意味が込められている。

構想にもとづき、地下1階左閲覧室スペース全体を整備・活用し、AV(視聴覚)コーナーの見直しのほかヤングコーナーの移設等を行うことにした。160㎡程度のAVコーナーを改修し、本などの資料だけでなくワークショップなどを通して、人やネットワーク情報との新しい出会いや未知の発見がある場所とし、構想のコンセプトを冠した



Hon+α!

▲「Hon+α! (ほな!)」ロゴマーク

Hon+a!スペースと名付けることとした。

●いよいよリニューアル

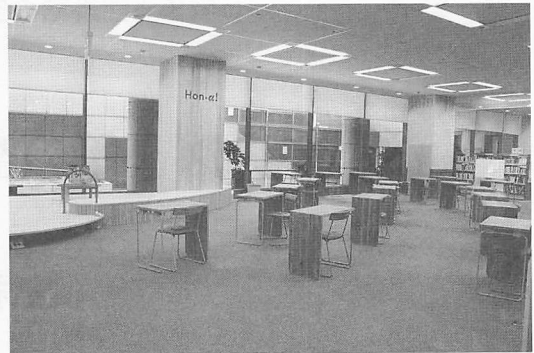
改修の財源については、森林環境譲与税を活用した。改修対象スペースは全面ガラスの窓側に位置しており、日中は陽光が降り注ぐ。地下鉄駅から図書館地下1階入口までをつなぐアプローチであるサンクンガーデン（沈下庭園）が望め、開放的な印象を与える。一方、外からもスペース内が見渡せ、通行者の関心を惹く。また、利用者同士の交流や、ワークショップ等が出る音や声も受容し、あえて壁などで閲覧室と隔てないゆるやかな間仕切りにより、スペース外の利用者の興味を呼び起こすオープンな空間とすることを狙った。

このような検討をふまえて仕様書を作成し、改修業務をプロポーザル方式で公募した。結果、おおさか河内材を使用し、「であい、まなび、ひろがりの場」をめざした空間づくりを提案した大阪府森林組合／graf有限会社デコラティブモードナンバーズリー／飛騨産業株式会社の3者による共同企業体を選定会議で決定した。

工期は2021年2月5日から1か月間。開館しながら、改修スペースを天井から幕で覆って工事を行った。壁や柱に板材を貼るなど徐々に完成に近づくにつれて木の心地よい香りが漂うようになると、利用者から「どんなふうになるの？」と期待の音が相次いだ。予定通りに3月6日にオープンした。当日のオープニングイベントでは施工において出た端材を利用してスタンプを作り、大人も子どもも一緒に新しい空間を楽しんだ。

●空間や家具

Hon+a!スペースでは、さまざまな交流形式に対応できるよう、什器は動かすことを前提とした。机は天板が台形で、利用者の目的に応じて創意ある組み合わせ方が可能であり、また、折り畳んで椅子同様にスタッキングできる。電源タップも机に簡単につけはずしできる。断面が年輪の角材を効果的に組み合わせたホワイトボード兼ミニ展示書架も可動式で、話し合いに利用したり、ちょっとした間仕切りにも使える。一角には靴をぬいで上がる小上がりを配置し、木の感触を足で直に味わいながらちゃぶ台でくつろげる。小上がり入口は縁側のように座りながら靴の着脱がしやすいよう配慮し、手すりも設置した。Hon+a!スペースのひとつひとつが、年を経るごとに味わいを増し、利用者の愛着が形成されることを期待する。



▲「Hon+a! (ほな!)」スペース

●参加・交流を目的とした活用

オープニングイベントに続き、空間整備に関わったgrafの服部滋樹さんをゲストに、トークイベント「百味連環（ひゃくみれんかん）」第1回を開催した。これは主に市内で活躍する企業、個人に自身のライフワークや活動についてお話しいただくものである。その後、新型コロナウイルス感染拡大により臨時休館やイベント自粛などが続いたが、セレッソ大阪に中継でインタビューし新聞記事を書く子ども向けイベントや国立国会図書館歴史的音源を活用した「いきなり☆ラジオ体操」などを実施している。イベントのないときは閲覧室として開放している。2022年にはスペース活用についての企画担当チームを設け、交流を目的としたイベントを企画提案するとともに、今後の市民活用に向けて検討を重ねている。

●おわりに

イベントは感染対策を講じながら再開したが、新型コロナが影響し、現在もなお、利用者が自由に机や椅子を動かすには至っておらず、一定間隔をあけて配置している。このような環境下ではあるが、これまでの取り組みが奏功したのか、利用者から「こんなことがしたい」などの提案を受けることが徐々に増えており、これまで議論を重ねて作り上げてきた思いが伝わっているように感じる。今後の市民活用について、Hon+a!スペースひいては当館が長く市民に親しみ愛される存在となるよう長期を見据え、丁寧に検討したい。

（にしお まゆこ：大阪市立中央図書館）

[NDC10：016.2163

BSH：1. 大阪市立中央図書館 2. 図書館建築]

菊池市中央図書館の空間デザインの取り組み

安永秀樹

●菊池市と図書館

菊池市は人口4万7000人、熊本県北部に位置し中世には九州を平定し、その一時代を築いた菊池氏の本拠地として栄えたまちです。

また、日本名水百選にも選ばれた菊池溪谷は清流菊池川の源流として豊かな恵みを生み出しています。

菊池市中央図書館は2017（平成29）年11月に図書館と公民館が連携した複合施設（菊池市生涯学習センター）として開館しました。また、図書館としての歴史は古く、1887（明治20）年に県内で最初に設置されました。

現在、中央図書館のほかに三つの分館を擁し図書館サービスの提供をおこなっています。

●図書館の家具・什器

今回の特集は「図書館の空間をデザインする」ということですが、普通図書館の設計の段階で、書架や机・椅子など、その空間にあったものをどう配置するか、利用者の使いやすさに配慮しながら落としこみ、図書館の各機能を支えるものでなければならないものと思います。

これまでの公共図書館の多くは、その設計において書籍を中心とした資料の収集・保存・提供を目的とする図書館サービスの充実に主眼が置かれていましたが、最近の図書館はこうした機能だけで存在するのではなく、複数の機能を併せ持ち、

利用者の多様なニーズにこたえていくことが期待されています。

とはいえ、地方の自治体においては、少子高齢化や財政的縮小など時代の波にさらされている状態であり建築サイドからの図書館空間の将来を見据えた提案にも、その後の運営の持続性を加味した検討が必要となります。

●菊池市立図書館の空間デザイン

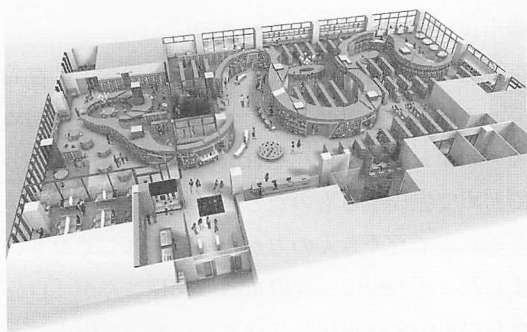
さて、菊池市の取り組みについてですが、2013（平成25）年2月に「菊池市庁舎等整備基本構想・基本計画」が策定されました。この基本構想・基本計画に基づき設計が進められておりましたが、そこに空間デザインを導入するということになりました。

センターとしての基本理念は「つどう・つなげる・つづける～まちづくり交流の場」で、にぎわいを創出しながら学びを提供していく空間を演出することとなりました。

公募によるプロポーザルの結果、選定されたのは日本の大手ディスプレイデザイン会社で博物館等の展示空間や、イベント空間、商業空間等の企画・デザイン・施工を手がける企業による提案でした。

それは私たちの想像をはるかに超える、とんでもなくぶっ飛んだデザインでした。

什器の配置ではなく、書架を製作し設置するも



▲菊池市中央図書館 イメージ

ので、天井まで届くような書架が100mにわたって蛇行しています。管理を考えればあり得ない、特に長く図書館に関わっている図書館職員にとっては到底受け入れられない提案でした。大反対の嵐が吹き荒れそうな、そんな様子が目に浮かぶようでした。

時を移さず、実現するための戦いが始まります。とにかく、この空間デザインを導入することによってもたらされるであろう未来をみなさんにイメージしてもらわなければなりません。当然議会への説明と理解が不可欠ですし、市民への説明も同様に何回となく行いながら、理解を深めていただきました。

ここ数年、図書館のあり方が変わりつつあり全国にすばらしい空間を提供するものが続々と建設されていましたが、それにしても、この田舎に、これほどやりすぎ感のあるものが受け入れられるか、戦々恐々としたことが思い出されます。

●菊池市から世界への発信

デザインのコンセプトは、菊池市の誇り・菊池溪谷をモチーフに川の流れのように曲線を描く長さ100mの書架によって、さまざまな体験を生む多様性のある空間を提供するというものでした。書架が空間を緩やかに区切りながら人々を誘い込み、

エントランス近くのにぎわいある場所から、読書にふける静かな場所まで空間を性格づけています。子どもの図書室から、はじまる書架の流れは知の一滴が成長とともに清流となり大海へとそそぐイメージです。

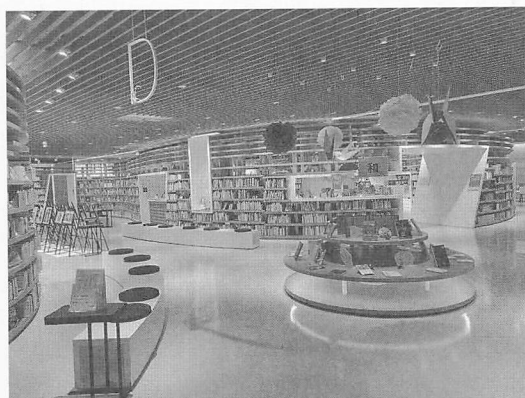
また、背板をなくすことによって、本棚が光と視線の通り抜けを可能にし、太古の昔から先人がみつめてきた風景と、現代の人々の目の前にある風景がシンクロし、清流菊池川と人々の長きにわたる関わりが、この図書館の中で再現されています。

このプロジェクトの目標は、子どもたちが誇りに思う図書館でもあります。将来にわたって幾度となく訪れることで地域の活性化とともに、菊池川のようにたくさんの恵みを育んできた地域の象徴となることを願ったものです。

建設着手後すぐに熊本地震も起こり、大変な時期でもありましたが、完成後、多くの方々に利用していただき、また大変高い評価を得ています。

デザインに関しては国内外の多くの賞を受賞していますが、とりわけうれしかったのは、米国のインテリア・建築専門誌の特集で「ゆっくり過ごしたい世界の12の図書館・書店」の一つに選ばれたことです。

日本からは唯一の選出です。評価された「居心地の良さ」は、この図書館を作る際に関係者全員



▲菊池市中央図書館 フロア

が一番こだわった点で、それが「菊池から世界への発信」につながったのは、このデザインを理解していただいた市議会、英断された市長、後押ししていただいた市民有志のみなさん、そしてなにより携わっていただいた関係者の努力のたまものだと感じています。

●進化し続ける図書館として

菊池市では設計段階から、新しい図書館のあり方を市民の人たちと一緒に徹底的に議論しました。その結果、単なる図書館機能だけではなく2階の公民館施設とも連携したサービスを提供することで、人々が知識を得ながら、さまざまな議論を交わし、まちづくりなどの活性化につなげていく「市民の知の交流拠点」と位置づけて取り組んできました。

その中でも、人が集う居心地の良さを提供することは不可欠であり、その空間づくりにこだわった結果が、図らずも世界に認められることとなり、うれしい驚きとなりました。

「夕方や週末には勉強する中高生の姿であふれ、思い描いていた風景を目の当たりにすると、子どもたちがこの空間で豊かな知性と感性を育み、世界に大きく羽ばたくことを夢見てしまいます。」と市長も広報の中で語っています。

もちろん、つくることを最終目的としていたわけではなく、今の評価に満足しているわけでもありません。60年後に建物の耐用年数を越える図書館は改修または解体されることとなりますが、まさにその時、この図書館があってよかったと誇っていただける人がたくさんいるように、60年後の評価のために常に進化し続ける図書館であるよう心掛けてまいりたいと思います。

その思いが、職員に代々引き継がれ、館長や市長が変わったからなどに左右されない、菊池市立図書館職員としてのDNAをもった職員を育てていくことが、市民にとって最高の図書館となる早

道だと思います。

●市民にとって世界一の図書館に

菊池市立図書館は市民にとって世界一の図書館であらねばなりません。デザインは機能して初めてデザインであって、それを機能させる職員がいて初めて完成するものだと思います。

これまでたくさんの方が視察に訪れてくださいました。その中で、別府市の教育長さんが「自分たちの思いを具現化し、作りたいものを作ることが大切なんですね」と感想を述べられました。まさにその通りだと思います。

お近くにおいでの際は、ぜひ菊池市の図書館へお立ち寄りくだされば幸いです。

最後に、これまで受賞した国内外のデザインアワードのうち主なものを以下にご紹介させていただきます。

- JCD Design Award 2018 (JPN) 銀賞
- APIDA/ASIA PACIFIC INTERIOR DESIGN AWARDS 26th 2018 (HKG) Silver 賞／Institutional Space 部門
- Interior Design's 13th annual Best of Year Awards 2018 (USA) Library 部門賞
- IIDA 2018 Global Excellence Awards (USA) Institutional category 賞
- 12th IDA International Design Awards (USA) ブロンズ賞
- A'Design Award & Competition 2018 (ITA) プラチナ賞

(やすなが ひでき：菊池市立図書館)

[NDC10：016.2194

BSH：1. 菊池市中央図書館 2. 図書館建築]

霞が関だより

▶第232回

●文部科学省

4月23日は「子ども読書の日」です！

「子ども読書の日」（4月23日）は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、国民の間に広く子供の読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子供が積極的に読書活動を行う意欲を高めるために設けられた日です。文部科学省では、「子ども読書の日」に関連した様々な取組を実施しています。

1. 子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人） 文部科学大臣表彰

平成14年度から、国民の間に広く子供の読書活動について関心と理解を深めるとともに、子供が積極的に読書活動を行う意欲を高める活動について優れた取組を行っている学校、図書館及び団体（個人）を表彰しています。これまでの被表彰者の取組事例や活動内容は、「子ども読書の情報館」ホームページで紹介しています。



◀「子ども読書の情報館」

<https://kodomodokusyo.go.jp/jirei/index.html>

令和4年度は、優秀実践校128校、優秀実践図書館46館、優秀実践団体（個人）46団体（名）が表彰されました。令和5年度の被表彰者は、3月末に公表予定です。

2. 「子ども読書の日」啓発ポスターの制作

「子ども読書の日」を普及・啓発するためのポスターを毎年制作し、子供の読書活動の推進の一層の充実に資するよう努めています。

制作した啓発ポスターは、全国の学校・図書館・書店等に配布するほか、「子ども読書の日」の前後期間には、東京地下鉄株式会社（東京メトロ）の駅構内にも掲出します。掲出期間は、令和5年4月17日（月）から4月23日（日）の予定です。



◀「子ども読書の情報館」

<https://kodomodokusyo.go.jp/happyou/books.html>



◀令和5年度「子ども読書の日」啓発ポスター

3. 「子どもの読書活動推進フォーラム」の開催

独立行政法人国立青少年教育振興機構との共催で、令和5年4月23日（日）に「子どもの読書活動推進フォーラム」を開催します。

今回のフォーラムでは、NHK「100分de名著」プロデューサーの秋満吉彦氏及び能楽師の安田登氏による特別対談のほか、文部科学大臣表彰の表彰式及び事例発表等を行います。また、令和5年度からの第5次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」についてもご案内予定です。プログラムの詳細につきましては、ホームページをご覧ください。



◀開催要項・チラシ等詳細

（独立行政法人国立青少年教育振興機構事業申込ページ）

<https://www.niye.go.jp/info/yukutoshi.html>



◀「子どもの読書活動推進フォーラム」申込フォーム

<https://forms.office.com/r/07ZLTyV8Md>

[NDC10：019.5 BSH：1. 読書 2. 児童]



お宝紹介!

第229回
岩手県立図書館

はらたかしぶんこ
原敬文庫

—開館100周年に

自筆と思われるメモが発見される—

岩持河奈子

1 はじめに

岩手県立図書館は、大正11（1922）年4月20日に開館し、二度の移転を経て、令和4（2022）年に創立100周年を迎えました。開館には、「平民宰相」として知られる盛岡市出身の政治家・原敬が関わっています。

大正9（1920）年の夏、原が岩手県知事、盛岡市長と面会した際に、図書館の創設を提案し、そのための寄付も申し出たことにより話がまとまりました。この件については、同年11月23日付で盛岡市長に宛てた書簡が残っています。

その後、図書館の建設は、大正10（1921）年6月に始まりました。同6月23日の『原敬日記』には、図書の購入費として1万円の寄付申込書を送り、いずれ自分の蔵書も寄付するつもりだと書かれています。

しかし、その年の11月4日、原は東京駅で暗殺され、図書館の完成を見ることはできませんでした。遺族によって届けられた原の寄付金は、基金として運用され、昭和19（1944）年まで当館の図書購入費に充てられました。



▲原敬の自筆書簡。寄付の申し出のほか、設計図に目を通した上で書庫を広くするよう助言している。

2 読書家だった原敬

原の読書家ぶりを物語る資料として、原敬遺徳顕彰会発行の『原敬 歿後五十年その生涯』には、

原の番記者が見た「書斎」について、次のような回想が掲載されています。

“まわりの壁はビッシリ本で埋まり、中央にも背中あわせに二列の本棚、奥の一隅、窓際に小さな机といすが一つ、どう見ても五、六千冊以上の書物である。（中略）一同片っ端から抜き出して見ると、それもこれも、何百ページの大冊から、四、五十ページのパンフレット、雑誌類まで、すべてアンダーラインがひかれ、中には赤鉛筆で読後感や批評が書き込まれており、何千冊かは分らぬが、すべて読破した証拠は歴然としている。それが、和漢洋（フランス語）で、政治関係はもちろん、歴史、人物、哲学、宗教等々、広い部門にわたっているのだから、さすがの記者たちも二の句がつけず、驚嘆してしまった”（「原さんの書斎をみる」）

また、原奎一郎（原敬の養子・貢のペンネーム）著『ふだん着の原敬』には、陪審制度の功罪を論じ、学識で原を煙に巻くつもりでやってきた少壮弁護士が、「それはフランスの何某の説ではそうだが——」という原の一言に、逆に煙に巻かれて帰った、というエピソードが紹介されています。

3 原敬文庫の概要

原の蔵書約2万冊は、原の死後、貢が寄贈に備えて整理している最中に関東大震災によって全て焼失してしまいました。

しかし、盛岡市にある別邸の倉庫に明治・大正時代の雑誌約3,300冊と図書約690冊が残されていたため、昭和54（1979）年、貢から岩手県立図書館に寄贈されることになりました。これらは、個人文庫として整理され、「原敬文庫」と名付けられました。

蔵書のジャンルは、哲学・宗教・法学・アジア

諸国の地誌など多岐にわたります。一例として、国内外の鉄道史や統計、線路地図、調査資料など鉄道関係の資料が多く見られ、明治43(1910)年に鉄道院業務調査会議から発行された『伊太利鉄道調査報告』の表紙には、「総裁閣下」と書き込みがあります。原は、明治44(1911)年8月から鉄道院総裁を務めており、その際に用いた資料とも考えられます。首相就任後は、内閣の主要政策の一つとして交通機関の整備を掲げ、日本の鉄道網の整備に大きな役割を果たしました。

また、原の藩校時代の同期で、ローマ字論者として知られる物理学者・田中館愛橘の『発音考』の表紙には、「kakite tutusinde Hara Kun ni sasagu」(書いて謹んで原君に捧ぐ)と書かれており、原の交友の様子もうかがえます。



4 原敬の自筆と思われるメモが見つかる

令和4年9月中旬、ある新聞社から、取材の問い合わせがありました。当館の「原敬文庫」から、原の勉強ぶりを示すような書き込みのある書物を紹介してほしいという内容でした。

そこで、何か書き込みの入った資料がないものかと確認する作業を行いました。複数の職員で原敬文庫の資料を片端から確認し、書き込みがあった場合、その部分にしおりを挟む作業を3、4日かけて行ったところ、約40冊が見つかりました。その後、筆者が1冊ずつ確認し、明らかに原の自筆ではないものを取り除き、2冊が手元に残りました。

合川正道著『英吉利契約法』と末広重恭著『現今の政事社会 続編』、どちらも明治20年代の資料です。前者には、本書の要点を和紙に簡条書きのような形でまとめたメモ2枚が挟まっており、後者の見返し(遊び)の両面にはページいっぱいの書き込みがありました。

しかし、これらが原敬本人の自筆メモかどうかは分かりません。館内での閲覧が可能なことから、

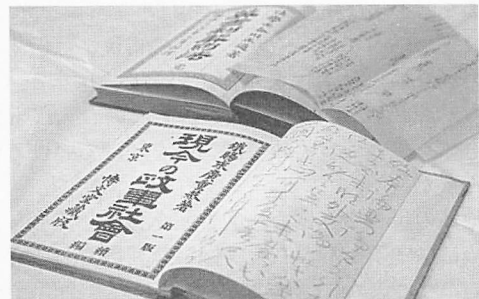
利用者によるメモや書き込みの可能性もあったからです。そこで、原敬記念館の学芸員に事情を説明し、当該資料を見ていただきました。

その結果、前者の2枚のメモは、資料と同時代のものと思われるが、原の自筆ではない可能性もあるということでした。

一方、後者の見返しの書き込みは、筆跡から原の自筆である可能性が極めて高く、文章も面白いと次のように解説いただきました。

“内容は書評で、著者の主張する「輿論(公的意見)」を政略の基礎とすべき等の論は必ずしも現実に即したものではない。特に公開外交論はとるに足らない、と書かれている。また、「群衆のゴシヤマキ*ニ過キス」(群衆の「感情に任せた俗論」に過ぎない)という東北訛りが見られ、若き官僚時代の素の原が出ている文章は、極めて珍しい”とのことでした。

*東北の方言「ごしゃぐ(怒る)」が転化したもの。



▲原敬の自筆と思われるメモが見つかった資料

5 おわりに

原の勉強ぶりを示すような書き込みのある書物は、書斎とともに関東大震災で焼失したものと思われていました。しかし、当館に残された文庫の中にその一端を示す資料が見つかったこと、また、それがちょうど開館100周年の年であったことは、まさしく奇縁でした。

原は、経済的な問題で苦学を重ねた経験もあってか、小学校への寄付や奨学資金の提供など、郷土の若者が学ぶ環境への支援を個人としてさまざまな形でを行っています。図書館の創設や寄付の提案も、読書が人材育成にとって極めて重要であることを深く認識していた原敬ならではの出来事かもしれません。

(いわもち かなこ：岩手県立図書館、

日本図書館協会認定司書第1202号)

[NDC10:090 BSH:1.図書館資料 2.岩手県立図書館]

声—各地の代議員から①

前進のためのよりどころ

須藤 紀子

私は幼児期から現在まで青森に暮らしている。図書館は、大学生になるまで公民館図書室と学校図書館をたまに使っていた程度だ。暗くて、静かにしなければならなくて、難しい本を読む人が行くところという子どもの頃に抱いていた私の「図書館」のイメージは、今も青森の多くの方は同じままだと感じる場面が多い。中学生に図書室に行かない理由を尋ねると「陰キャだと思われるから」…。

図書館の仕事をしているから、その使命や未来の姿などを学び知り、目標を掲げ事業計画を立て、形にしていってはいるが、多くの市民には伝えられていない。社会はどんどん変化し、図書館（青森の？）はおいてけぼり感が否めない。人口も財源も縮んでいく自治体で図書館を続けていけるのだろうか。

地域の現状をみつめ、図書館を利用してもらうためには？子どもたちを「図書館利用者」に育てていこうと決め、「学校図書館整備」を当館事業の柱としている。学校図書館を使える図書館に整え、次段階では小学1年生に好きなことの本にたどり着くための知識を授業で教える。それを積み重ねていく。きっと子どもたちは今までとは違う図書館のイメージ形成と利用ができていくはずだ（と信じたい）。

力強く書いたが、この方法でいいのかという不安は常にある。そんなときは、図書館司書専門講座受講同期の皆さんに相談し、アドバイスを頂き励みになっている。全国にいる図書館仲間の存在は本当に心強い。私も青森の代議員として「身近で心強い相談先」になっていきたい。そしてその先にある日本図書館協会は、困ったときに気軽に相談できる頼りがいのあるよりどころであってほしいと思っている。

（すとう のりこ）

青森県個人会員選出代議員、五所川原市立図書館）

〔NDC10：010.6 BSH：日本図書館協会〕

三つの機会の提供で、魅力ある日図協に！

天野 奈緒也

愛媛県の日本図書館協会個人会員数は、2017年18人から21年21人（いずれも9月1日現在、代議員選挙時の資料による）と、わずかではあるが増えている。しかしながら、22年12月1日現在の愛媛県の推計人口は約130万人で、10年前の同月から約11万人も減少しており、人口減少は全国平均より早く進行している。今後図書館員の数だけが増えるとは思えず、このままでは会員数の大幅な増加も見込めない。地方の図書館員が入会したいと思える、魅力ある協会になるためにはどうすれば良いか。三つの機会の提供を提案したい。

一つ目は、学びの機会の提供である。全国図書館大会や中堅職員ステップアップ研修はオンライン参加が可能になったが、受講する時間の確保が難しい職場もある。そこで協会のウェブサイト会員ならいつでも視聴できる、研修コンテンツがあれば良いと思う。短い動画で配信すれば、隙間時間に視聴できるので、ニーズはあるのではないだろうか。

二つ目は、会員同士がつながる機会の提供である。我が身を振り返ると、曲がりなりにも今日まで図書館員としてやってこられたのは、情報交換したり励まし合ったりできる、勤務館の外での人のつながりがあったからである。個人情報保護の観点から誰が会員かを知らせることは難しいようだが、せめて都道府県単位で個人会員同士の交流、情報交換ができるようにしたい。私も代議員として実現に向けて努力したい。

三つ目は、若手が成長する機会の提供である。協会の中で主体的に関わる企画があれば、成長のきっかけになると思う。例えば、全国図書館大会の分科会の一つを40歳以下の個人会員を公募して、企画から運営まで任せてみてはどうだろうか。

「志ある図書館員は日図協で夢を叶えてほしい」と誘えるような、魅力ある協会にしていきたい。

（あまの なおや）

愛媛県個人会員選出代議員、愛媛県立図書館）

小規模 図書館 奮戦記

その300

群馬県・上野村図書館

Iターン住民を支える 小さな村の図書館

武部裕子



上野村の歴史・沿革

群馬県多野郡上野村は、群馬県の最西南端に位置し、9割の面積が森林に覆われた緑豊かな山里です。関東屈指の源流域でもあり、水と空気の美味しさはどこにも負けない風光明媚なところですが、2022年8月現在の人口は1,095名ですが、その2割がIターン者です。主な産業は、林業、キノコ栽培、畜産、観光業などです。

また、1985年8月12日に起きた日航ジャンボ機墜落事故の現場であり、毎年慰霊登山が行われています。図書館では当時の記録や記憶、慰霊登山の様子を郷土資料として収集・保存に努めています。

上野村の図書館

2012年に上野小学校の敷地に建設された円形の美しい図書館は、合築タイプで、1階は村の図書館（蔵書25,000冊）、2階は学校図書館（蔵書8,000冊）となっており、校舎と連絡通路でつながった機能的な造りになっています。書架は村の木工家や森林組合に作ってもらったオリジナルのものを使用しています。

1階の村の図書館は、狩猟の本や木工芸の本、山暮らしの本、キノコの本などを充実させ、地域の特性に目を向けた蔵書構成を目指しています。毎年のベストリーダーには『うまいぞ！シカ肉』（農山漁村文化協会）がランクインしているのも上野村ならではかもしれません。また、館内は土足禁止にし、子どもたちがハイハイしたり、床の上で寝転んだりできるようにしています。絵本架も充実させていますが、その隣に家庭の実用書を配架することで、親が子

どもの様子を気かけながら本選びができるよう工夫しています。

2階の学校図書館では、自然科学の棚を充実させています。“命のないものから命のあるものへ”、NDCの分類に沿って配架しています。それぞれの本の内容に沿って細かく置いているので、どんな本があるのか分かりやすいのではないかと思います。また、福音館書店の『かがくのとも』をこの棚に設置しているのも特徴ではないかと思います。このシリーズは絵本の棚に配架されがちですが、生物の棚に入れることで、低学年でも楽しみながら生物の生態を学ぶことができます。人気の雑学シリーズなども科学の雑学一般として置くことによって、子どもたちがよく借りるようになりました。科学の世界への興味を広げてもらうために、図鑑も禁帯出にせずに貸し出しています。自然科学の棚が充実していると、子どもたちが図書館に行くことを楽しみにしてくれます。図書館利用が少なく感じているようでしたら、自然科学の棚を見直してみてください。

図書館のサービス

Iターン者が孤立した子育てに



▲子育て支援の様子

らないために、図書館では週2回、絵本の読み聞かせを行っています。また、外部の専門家による子育て支援を月2回開いています。参加者からは「外出する機会が増えてよかった」「引っ越してきて知り合いがあまりいない中、子育てしている人に会えて気がほぐれた」「子ども同士で関わることで、子どもの発達がよくなったと思う」と評価をいただいています。

また、図書館は、郷土料理や伝統行事、編み物、ソーイングなどを村の高齢者から教えてもらえる場にもなっています。ほかにパン教室を開催したり、学童保育の年齢対象外となる子どもの放課後の受け入れの場となっています。Iターン者向けの村内巡りツアー、藍染めの図書バッグ作り、群馬交響楽団のチェロ奏者の演奏など、単発のイベントも実施しています。

さらに、図書館では毎月15日を“家読の日”として広報に掲載し、村民の読書支援を行っています。読書月間には読書標語を村民に募集し、優秀者の標語は図書館の返却日に入れるしおりに使用しています。村内の道の駅、森っこ広場、研修施設こもれびにも本を設置し、「村どこでも読書」の活動も行っています。

課題と目標

現在、上野村では村史をはじめ地域資料のデジタル化の準備が整ってきています。それをいかに活用するかが今後の課題と言えます。Iターン者、古くからの住民、どちらにとっても図書館が生涯学習の場や子どもの居場所になればよいと考えています。

（たけべ ゆうこ：上野村図書館）

[NDC10：016.2133]

BSH：上野村図書館]

図書館員のおすすめ本⑦⑤

ポリティカル・コレクトネスからどこへ

清水晶子, ハン・トンヒョン, 飯野由里子著 有斐閣
2022 ¥1,800 (税別)

この本は、性的マイノリティや障害者、レイシズムに関する分野を研究する3人の著者によって書かれた章と、著者たちによる鼎談を記述した章で構成されている。鼎談の部分は、白熱した議論でありながらその場のリラックスした雰囲気伝わってきて読みやすく、それぞれの問題についての理解の助けになる。

タイトルにある「ポリティカル・コレクトネス」(以下、「PC」)は直訳すると政治的正しさとなるが、著者は、差別や正しさに関する「社会的な望ましき」「共有された倫理」という視点を重視している。それゆえにPCは差別されてきた側だけではなく「不特定の他者の尊厳を傷つけないための知識」であり「マジョリティとマイノリティ間のコミュニケーションの糸口である」と解く。少数派の人を差別してしまうことは個人の思いやりの問題ではなく、知らず知らずにそうなっている社会の構造が問題なのだと。

「誰とでも仲良くしなさい」というのは子どものころ叩き込まれた言葉であり、私も同級生を差別していた記憶はない。しかしそれは、差別が「ない」ことが前提になっている日本の常識がそう思わせていただけたかもしれない。私が好んで観てきた映画の世界でも、さまざまな少数派の人々が苦悩してそれを乗り越えていくようなストーリーが多いが、PCの視点で意識したことはなかった。何が正しいのか、何が差別なのか、自分にできることは何かあるのか、そもそも少数派にだけ配慮するのでは足りないのではないかなど各人が自分で考え続けることの必要性に気づかされる。

巻末にある索引には、初めて見る言葉が多かったが、豊富な注と和やかな筆致に助けられながら読み進めると、PCが持つ多面的な意味について次々に理解が深まっていく快感がある。

さいとう
(齋藤なぎさ：宇都宮市立東図書館)

モアイの白目 目と心の気になる関係

小林洋美著 東京大学出版会 2019 ¥2,700 (税別)

本書は雑誌『眼科ケア』(メディカ出版)に連載されているエッセイをまとめたものである。そう聞くと眼に関する医療的な情報でも詰まっているのかと身構えてしまいそうになるが、本書は医学書ではなく「もともと論文を読むのが好きで、日々楽しく読んでいる」(p.ii)という著者が、自らに「目に関する研究」という縛りを設けたうえで「ニヤニヤしながら読んだ論文」(p.ii)を紹介する、科学エッセイというよりは論文紹介エッセイだ。そして目や視線、顔や表情に関する研究は、医学ではなく基礎心理学に当たる諸学問を網羅している。

例えば私たちは「嘘をつくときに人は目をそらす」ということを、なんとなく経験則で知っている。研究者は「目がどの方向にそれたら『嘘をついている』と感じるのか」「目をそらされると『嘘をついている』と感じるのは何歳からなのか」と、さまざまに検証する。その実験を考えついた研究者はきっと、自分が知りたいと思ったことをきっちり知るために、ワクワクしながら実験の準備をしたことだろう。そんな熱量が伝わってくる。

また、それを紹介するための著者の文章が良い。嘘をつくときに目をそらす事例として出てくるのが漫画『のだめカンタービレ』(二ノ宮知子著 講談社)であったり、問題提起として挙げられるのがテレビショッピングの販売員であったりする。好奇心が刺激されること、すなわち学びのきっかけは生活と地続きであることを、ゆるやかに教えてくれているようだ。

本書に付されたNDCは141.2なのだが、目に関する研究は心理学ばかりでなく動物行動学にも及ぶ。いっそのこと002.7に分類してもいいのかもしれない。内容ばかりでなく実験方法もユニークなこれらの研究が、いつの日か「イグ・ノーベル賞」に輝く日が来るのを心待ちにしている。

なかがわひろこ
(中川裕子：岐阜県立岐阜農林高等学校)

図書館員のおすすめ本⑦⑤

ぼけと利他

伊藤亜紗, 村瀬孝生著 ミシマ社 2022 ¥2,400 (税別)

本書は、「利他」について研究するプロジェクトを立ち上げた伊藤亜紗さんと、福岡にある「宅老所よりあい」の代表である村瀬孝生さんとの一年半に及ぶ往復書簡集である。

伊藤さんは「利他」を研究していく上で、介護は究極に「利他」であると思い、村瀬さんに協力をお願いした。伊藤さんが書いているが、村瀬さんは、一般的には問題行動として扱われがちなお年寄りの出来事に関わりのきっかけを見つけ、思い通りにならない想定外の出来事を「老人性エイジング」と呼んでまるで楽しんでいるように関わっている。本書でもさまざまなお年寄りの話が挙げられている。湯呑を持ちながら唇で受け止める寸前に電話の受話器に変換してしまうお婆さん。お坊さんの読経に合わせて手拍子して一体となったように見えるお年寄りたち。デイサービスに行きたがらないお婆さんの本当の日課は、デパ地下巡り。リネン室からありったけのおむつを持ち出す「盗癖」や夜中にテレビをつけっぱなしにしたリ、汚れたおむつをベッドの柵にかけておくという「問題行動」のあるミチコさんなど枚挙にいとまがない。それらを考察する村瀬さんの眼が深く温かい。

伊藤さんが問うた事柄に対して、村瀬さんが豊富な宅老所でのお年寄りたちの例を挙げて答え、それを受けた伊藤さんがなるほどと咀嚼して返事をする。するとまた、村瀬さんは、自分が発した言葉から深まっていった伊藤さんの返事に納得する…それは、答えがキャッチボールでビシッときまったというより、その答えが広く深くなってお互いのものになっていく感じがした。実際におふたりの対話を聴いて、考えや思いが通じ合う空間に居合わせたような心地よさが残る本である。

＊本書はウェブマガジン「みんなのミシマガジン」に2020年9月～2022年4月に連載されたものに加筆・修正のうえ再構成されたものである。

(中島郁世：福岡県立福岡高等学校)

子犬の絵画史 たのしい日本美術

金子信久著 講談社 2022 ¥2,600 (税別)

子犬と聞くと、どんなイメージを持つだろうか。本書は、江戸時代を中心に子犬画の魅力について知ることができる。

そもそも子犬画が生まれたのは中国で、十二世紀には子犬を描いている画家が現われた。それが朝鮮にも伝わり、日本に入ってきたという歴史があるようだ。

こうした子犬画をまねたのが、江戸時代の画家たちである。画家たちが描いた子犬は、丸みがあって、触るとふわふわしているように見える。著者は「まるでマンガのような、絵の中限定の魅惑のキャラクターだ」(p.12)としている。確かに、写実的な子犬とは違う部分もあるのだろう。しかし、そのかわいさは本物である。本書では、多くの子犬画が紹介されている。

円山応挙は、十八世紀後半の江戸時代中期の画家だ。円山応挙の「雪柳狗子図」では三匹の子犬が描かれている。そのうちの一匹は転んでいて、別の一匹は、もう一匹の上に前足を乗せている構図となっている。その表情がなんともかわいらしい。子犬の表情やじゃれ合う様子が生き生きと描かれている子犬画は、いつまでも見ていられる。三匹のまとまりのない様子も、子犬の無邪気さを感じる。ほかにも子犬たちが集まって寝ている様子の子犬画など、楽しい。

円山応挙だけではない。長沢蘆雪の「狗子遊図」には、表情の違う子犬が複数匹描かれているが、どの子犬も個性があつてかわいい。

また、子犬がモチーフになっている彫刻や工芸、染織なども紹介されている。江戸時代に「絵手本」と呼ばれる犬の描き方のお手本があつたことなども興味深い。

子犬は、時代をこえて人々に愛されているということを感じられる。子犬画の魅力がたっぷりつまった一冊である。

(よしざわ るみ 吉澤瑠美：川越市立中央図書館)

[NDC10：019.9 BSH：書評]

図書館員の本棚

学校図書館とマンガ

高橋恵美子, 笠川昭治著

東京 : 日本図書館協会

2022. - 77p : 21cm

(JLA Booklet : no.11)

ISBN : 978-4-8204-2208-2 : ¥1,000 (税別)

NDC10 : 017

BSH : 学校図書館 ; 漫画

本書は、学校図書館におけるマンガの取り扱いをめぐる歴史的経過や近年の動向を紹介し、学校図書館にマンガを導入する意義について述べたコンパクトな入門書だ。学校図書館関係者だけでなく、子どもたちに親しまれる「ティーン・フレンドリー」な図書館づくりを目指す公共図書館関係者にも役立つ内容であり、学校図書館とマンガについてさらに詳しく知りたい人にとっては文献リストとしても活用できる。

著者は神奈川県立高校図書館で長く勤務した経験を持つ元学校司書の高橋恵美子氏と、同じく神奈川のベテラン高校司書、笠川昭治氏である。

第1章「学校図書館になぜマンガが必要か(理論編)」では、マンガが学校教育に必要な資料であることについて、学校図書館法やIFLA/ユネスコ学校図書館宣言、アメリカの学校図書館の基準、PISA 調査結果などを参照して提示している。

第2章「マンガをめぐる状況」では、マンガ市場の変遷、マンガの海外進出、テレビドラマ・映画等の原作としてのマンガについて紹介している。2020年、コミック全体(紙+電子)の販売金額が過去最大になったという(本書p.10)。電子コミックの販売額の急成長など、出版の状況が大きく変わったこと、読書やマンガについての考え方をえざるを得ないことが示されている。

第3章「学校図書館のマンガ導入」では、小学校・中学校・高等学校そ

れぞれの状況について紹介している。学校図書館へのマンガの導入は1980年代半ばごろに始まったと推測されるが、状況を把握できる調査がされていない、されていても知りたいことがわからない、といった難しさがあるという。そんな中でも、学校図書館問題研究会の会報『学図研ニュース』の過去の特集記事などの文献から丁寧に事例を集めている。一般社団法人マンガナイト主催の「これも学習マンガだ!」についても言及されている。

第4章「アメリカの学校図書館と日本のマンガ」、第5章「アメリカにおけるグラフィックノベルをめぐる状況」は、いずれも刺激的な内容だ。グラフィックノベルとは、「ホッチキス止めではないしっかりした装丁の、一連の絵(art)で語られるほぼ完結した物語(narrative)」(本書p.35)のことを指し、コミックブックではないが近い関係にあるものだそうだ。アメリカ図書館協会が学校図書館向けにグラフィックノベルに関するガイドブックを出していること、日本語学習のための多読テキストとして日本のマンガが有効とされていること、「ティーン・フレンドリー」、すなわち児童生徒が親しみやすい図書館づくりにはマンガが欠かせないことなどが示されており、日本との違いを思い知らされる。高い専門性を持つフルタイムの職員がいることが学校図書館にマンガを入れることにつながっている、という指

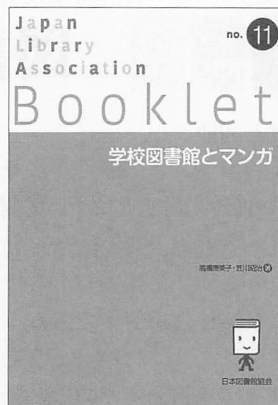
摘も、身につまされるところだ。

第6章「学校図書館に段階的にマンガを入れる」は、実務担当者にとって非常に参考になるマニュアルだ。ステップ1「定番マンガ」から始まり、ステップ6「すべてのリクエストされたマンガ」に至るまで、自校の状況に合わせてマンガを受け入れる段取りが示されている。マンガの選書は予算とのせめぎ合いである。一般書籍とは異なり、巻数が多く刊行頻度が高い、というマンガ特有の特徴を踏まえて、お財布と相談しながら「ティーン・フレンドリー」な図書館づくりを目指している全国の図書館員に、このエールが届くことを願う。

補遺「学校司書配置の現状と課題」では、学校図書館へのマンガ導入に学校司書の配置状況が影響していることが改めて示されている。学校図書館に「専門・専任・正規」の職員が配置されていないことが、マンガ導入に限らず学校図書館が抱える課題の根本的な原因である。「学校図書館とマンガ」というテーマを語るときに職員問題に触れざるを得ないことも、広く知っていただきたい。

(田子 環)

神奈川県立厚木清南高等学校図書館



図書館員の本棚

非正規雇用職員セミナー「図書館で働く女性非正規雇用職員」

講演録

日本図書館協会非正規雇用職員に関する委員会編

東京：日本図書館協会

2022. - 70p：21cm

(JLA Booklet：no.12)

ISBN：978-4-8204-2209-9：¥1,000 (税別)

NDC10：013.1

BSH：図書館員；非正規雇用；女性労働者

JLAブックレットは主に講演やセミナーの書籍化をしているシリーズで手にとりやすく、私も何冊か読みました。その最新刊であるこの本は、2022年3月28日に開催された「非正規雇用職員セミナー」を元にしたJLAブックレットの12冊目です。「非正規雇用職員セミナー」はこれまで何回か開催されてきましたが、今回初めて参加者以外にも広く内容を周知できる形で出版されたことは、当事者としては嬉しいのです。

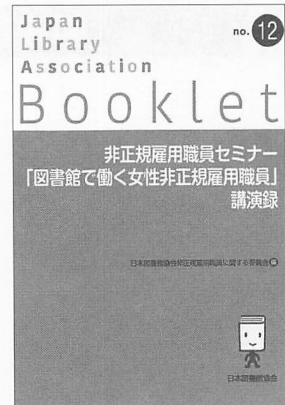
最初に載っているのは、働く女性のキャリア形成の研究などを行ってきた青森県立保健大学（現在は大阪信愛学院大学）の廣森直子さんによる講演「図書館で働く女性非正規雇用職員」です。廣森さんからは図書館の非正規化の現状と、非正規で図書館で働く人々へのインタビュー、それに「はむねっと」の調査、中でも自由記述回答についてのお話がありました。インタビューについて、女性が非正規で働くのは「家計の補助」「家事・育児・介護等との両立」のためであることが多く、図書館で働く際には「待遇が悪いけれど図書館で働きたいから」と、低待遇という葛藤を乗り越えるが、その先では自分が選んだことだから「最初からあきらめ」てしまい、だから待遇以外の、例えば利用者から頼られることでやる気を保たせ、働き続けることを支えている、と分析されていて、これはまさに私もそうです。ですが、こういう側面が過度になっていくこと

は非常に危険なのではないだろうかと廣森さんは問いかけます。

メインは『「女性であること」を掘り下げる』と名付けられた箇所です。ここでは「①なぜ女性の貧困は社会問題化しにくいのか」「②なぜ声を上げにくいのか」の2点の問いをあげています。①は、いわゆる女性が就くことが多い「再生産労働」（まさに非正規で働く事の理由とされてしまう「家事・育児・介護等」の労働を含む）の透明化と大きく関わっています。再生産労働は待遇が低くても（家事に至っては無償）仕方ないとされ、それらの労働の社会化を求めることは難しい。透明化とは、社会問題化するに値しないということです。②については「差別というのは不利益を被る側の話であり続けている。」「不利益を被るマイノリティの人たちが沈黙しているので、差別がないことにされてしまう」と仰っています。差別する側は差別していることに気がつかないので言及しようがないのです。

「まとめにかえて」として何点か挙げられている中で一番印象的なのは「住民の知る権利を守る図書館の必要性を国民が実感し、そこで働く司書の存在を住民が（傍線は原文ママ）認識すること」という一文でした。

次は公務非正規女性全国ネットワーク（はむねっと）代表の渡辺百合子さんからの「はむねっと」の活動についてと2021年の4月30日から6月4日に行なった公務非正規労働従事者への緊急アンケートについての報



告です。図書館で働く会計年度任用職員についての分析では、学校司書の声が印象に残りました。廣森さんの講演でも学校司書の方達の自由記述回答を取り上げていました。何より学校組織のメンバーシップを得られないことに対する怒りや悲しみの声は心を揺られます。

最後は、日本図書館協会非正規雇用職員に関する委員会が2022年1月24日付で出した「会計年度任用職員に関する提言」についての利光朝子さんによる報告です。主な内容は、なぜ提言するに至ったか、その経緯と提言内容についてです。利光さんは「いろんな自治体・職場で不利益だと思ったときに、日本図書館協会もこういうの出してますよ、みたいに使っていただけると、嬉しいですよ」と仰っています。

この本を、何より当事者の女性の方達に読んでほしいです。内容は当事者的には気が滅入るものです。厳しい状況と隘路、ほとんど無い展望、そこから推測できる暗い未来を突きつけられるのですから。でも見たくない問題は見なかったらなくなる、というわけではない。廣森さんのレジュメの最後の言葉「あきらめない。We can do it!」は、ありきたりだけれど、それでも大切なことだと思います。

（村上由美子：田原市中央図書館）

図書館員の本棚

図書館人への言葉のとびら

内野安彦著

東京 : 郵研社

2022. - 248p : 19cm

ISBN : 978-4-907126-53-7 : ¥1,980 (定価)

NDC10 : 010.4 : 013.1

BSH : 図書館

本書は、出版社、書店員、作家など本や出版文化に関わるさまざまな立場の人物からの言葉を紹介し、著者の経験をもとに自身の見解を述べている一冊である。

著者は、鹿嶋市役所での勤務や、塩尻市立図書館の図書館長として新館準備に携わっているほか、『だから図書館めぐりはやめられない』や『図書館はラビリンス』など多数の著作物を出版されている。本書では、図書館長として携った経験や本の出版時の経験をもとに執筆されており、より具体的なお話が多く学びの多い一冊である。本書にも記載があるとおり、著者は企画・人事・広報などの行政職員としての経験が長いからこそ、俯瞰的な視点や図書館員には見つけることが難しい視点が多く、「気づき」が多い一冊である。

また、本書の構成として、一つ一つの話題が短くまとめて紹介されており、するすると言葉が入ってきて読みやすい構成になっている。

本書は、前半は主に出版流通・出版文化をテーマとして取り上げており、後半はタイトルに「図書館人」とあるとおり、図書館の役割や現在の課題などをテーマとして取り上げている。著者は、修士論文のテーマが「出版流通と図書館のあり方」であったこともあり、出版流通について、詳しく記載されている。

この出版流通の現状について、図書館員はどこまで意識をして業務に携わっているだろうか。著者は図書

館と関わりが深い存在であるが、一方で図書館員の中で出版流通について意識されていないように感じている。そして、図書館員として出版流通・出版文化について知り、出版文化を支えていくことの重要性を繰り返し述べている。

まず、出版流通の現状として、新刊の出版数は近年、増加傾向となっており、一点当たりの印刷部数はかなり少なくなってきた。

私も書店によく行くが、毎週入れ替わり新しい本が棚に並べられており、表紙が見えるように並べられていたり、本の紹介文などが書かれているのは、膨大な出版物のうち、ほんの一部だと感じる。特に、受賞歴のある作家や、話題の本は、表紙が見えるように置かれていることが多いが、他の本は背表紙のみ見えるかたちで本棚に置かれることが少なくない。その膨大な出版物の中で、自分の読みたい一冊を見つけることは難しい。

「宣伝されない、書店に並ばない、書店に並んだとしても直ぐに返品される、そんな本が読者の目に止まる確率は極めて低いと言わざるをえません。漂流しないよう救えるのは図書館です。」と本書でも記載されているとおり、膨大な本の中から読者が出会いたい一冊と出会うための機会を支えていくのが図書館としての役割だと改めて気づかされる。日本の出版流通の現状を知り、図書館としての選書スキルを磨いていく必要が



ある。

また、本書において「図書館員は、書店で目にするものがない本が読者に出遇えるよう仕掛ける演出家であってほしい」とあるように、展示や配架の方法一つで、読者が出会いたい一冊を見つけられる環境を作ることができる。

書店や本屋で出会うことができなかった本や、図書館利用者の潜在的ニーズに合わせて求める人が求める本に出会えるような選書のスキルや展示、配架方法を検討していくことが重要だとこの本を読んで改めて感じている。

このように出版流通に関するテーマだけでなく、行政としての図書館という視点や、他部署や外部へ向けての広報について等、視野が広がるきっかけが多い一冊であった。

私もそうだったが、この本を読んだ、日ごろの業務の中でもややもやしていたことが晴れることがあるかもしれない。予算や人員不足の中、日々の業務に追われる毎日が、そのときこそ思い返して読みたい一冊だと思う。

本書のタイトルである『図書館人への言葉のとびら』とあるように、読んだ人にとって迷い道から抜け出せたり、新たな発見の扉を開ける出会いの一冊になるであろう。

(宮内玲香：相模原市立図書館)

公益社団法人日本図書館協会

2022年度通算第3回 (定時第3回)理事会議事録

日時：2022年12月22日(木)

13:30～17:00

場所：日本図書館協会504会議室，
Web 会議

理事現員数：19名

出席理事：19名

日本図書館協会504会議室 8名：植
松貞夫（理事長），鈴木隆（副理事
長），海老根裕（専務理事兼事務局
長），高橋正名（専務理事），岡部幸
祐（常務理事兼総務部長），成瀬雅人
（常務理事）（以下同じ），西村七夫，
中山勝文（理事）Web 参加 11名：巽照子（理事）
（以下同じ），齋藤明彦，末次健太郎，
平形ひろみ，山本昭和，大谷康晴，
白濱博人，松尾昇治，高橋恵美子，
深水浩司，山崎幹子

監事現員数：3名

出席監事：2名

Web 参加 2名：中山司朗，松本香
欠席監事：1名

小畑輝海

*

1. 開会宣言

海老根専務理事兼事務局長（以下「事務局長」という）より，開会が宣せられた。

2. 会議成立要件の確認

事務局長より，開会時点で理事19名中19名（うちWeb参加11名）全員が出席しているとの発言があり，定款第43条に基づく定足数を満たしており，会議の成立が確認された。

3. 理事長挨拶

植松理事長（以下「理事長」という）より，挨拶があった。

4. 議事録署名人の選出

理事長より，定款第46条第2項に基づき，議事録署名人に山本昭和理事の提案があり，異議なく選出した。

■議 事

理事長より，第2号議案及び報告4に関して，図書館災害対策委員会の西野一夫委員長（以下「西野委員長」という）にご出席をいただいているので，議事として先に取り扱うとの発言があった。

また，続いて，報告3についても，松本監事が本日時間の制約があるため，先に取り扱うとの発言があった。

*

第2号議案 災害に係る協力体制に関する協定書について

鈴木副理事長（以下，「副理事長」という）より，資料に基づき，常任理事会後に運営会議において修正した箇所について説明があった。

続いて，西野委員長より詳細説明があった。2011年の東日本大震災の際に本協会では東日本大震災対策委員会を立ち上げ，10年にわたり支援活動を続けてきた。図書館災害対策委員会では，この成果をどう引き継ぎ，今後どう支援を続けていくかを議論した中で，「災害に係る協力体制

に関する協定書（案）」（以下「協定書案」という）を作成し，緊急時に備えた体制を作り上げたいと考え，提案するものである。これまでにご協力をいただいていた団体・企業と今後も連携をしていくために，協定を結び，横のつながりができるような協議会を作っていきたい。協定書案は，まず第1条に一番大事な「目的」を明記し，以降第12条まで，雛形となるよう作成した。協定を結んだ団体・企業とは，定期的に情報交換会を開催し，その後の支援等についても検討することとしている。

質疑や意見の確認の後，全員の賛成により異議なく承認された。

〈主な意見など〉

高橋（恵）：「災害に係る協力体制に関する協定書（案）Q&A」（以下「協定書案Q&A」という）のA6では「団体・企業」ではなく「団体・機関」となっているが，意味合いが違うのか。また，Q5の「各団体企業」は「・」を入れて「各団体・企業」としたほうがよいのではないか。

副理事長：修正漏れと思われる。

西野委員長：ご指摘の通り，A6は「団体・企業」に，Q5は「各団体・企業」に修正する。

齋藤：協定書案Q&AのA5で「協力いただける範囲で協議を」とあるが，「協議」でよいのか。

西野委員長：「協力」であると思われる。

理事長：では、ご指摘の通り修正する。

西野委員長に確認だが、協定を結ぶ協議はいつごろから始めるのか。

西野委員長：本日の承認を受けて、各団体・企業に文書を送付しご相談していきたいと考えている。これまで協力いただいていた企業等であるので、前向きに検討いただけと思うが、正式に依頼する。ある程度調整できたら締結の手続きを進めていきたい。

高橋（恵）：資料の協定書案 Q&A の最後の部分は文書が抜けていると思われる。

副理事長：文書を調整したときに抜けてしまった。お詫び申し上げます。理事会後、正しい文書を送付する。

報告 4 2022年度災害等により被災した図書館等への助成の申請に係る審査結果について

西野委員長より、資料に基づき報告があった。東日本大震災以降、毎年、一ツ橋総合財団から寄附をいただいている。東日本大震災から10年たっているが、東北はまだ完全な復興がかなっていないので、引き続き助成をできるよう考えている。2022年は13件の申請があり、審査の結果、11件に助成することとなった。申請機関からの助成希望額は500万円を超えていたが、予算の都合上203万円で決定した。ただし、12月1日に聖光学院高等学校から、県の補助金が得られ、その条件として他の団体からの助成を受けることはできないとの理由により辞退の申し出があり、受理した。このため予算に若干の余裕ができたが、その分は緊急的な災害等が発生した際に充てたい。

〈主な意見など〉

平形：助成しない2機関について内容の妥当性で判断されたとのことだが、その内容についてはご教示いた

だけるか。

西野委員長：それはお答えできない。

報告 3 2022年度予算の上半期中間決算について（4月～9月）

事務局より、資料に基づき、報告があった。この資料は9月末の中間決算である。まず、貸借対照表であるが、資産合計が10億5400万円であり、流動資産のうち現金預金は前年度並みである。固定資産はリース資産が7223万円となっているが、これは空調更新に伴う増額であり、固定負債のリース債務も同額の増額となっている。また、長期借入金417万円の減額となり、2025年9月の返済終了までもうひと頑張りである。全体的に前年度並みの資産内容となった。次に、正味財産増減計算書であるが、経常収益は1億6755万円で、69.2%の収益率である。内訳としては、受取会費が25万円の減、事業収益は研修事業収益及び資料交換参加費収益が増額となった。ただし、受取寄付金は22万円にとどまっており、今後寄附金の確保に努めたい。経常費用は1億1300万円であり、46.9%の執行率である。内訳としては、給料手当が増額しているが、これは嘱託職員を正規採用したことに伴うものであり、賃金は退職及び正規採用による嘱託職員の減によるものである。通信運搬費の増額は、資料交換事業（不定期発送）の増による費用の増である。また、電気料金の高騰により光熱水料費が36万円の増となっている。全体として、収益は予算額の70%を確保しており、費用についても執行率が46.9%と、概ね順調である。

松本監事からは、本協会の傾向として、収益は比較的上期に集中し、費用が若干下期に寄るところがあるが、中間決算を見る限り概ね順調であり、前年度と大きな事業変更等が

なければ問題はないだろうと所感が述べられた。

第1号議案 公益社団法人日本図書館協会就業規則の一部改正について

事務局より、資料に基づき説明があった。改正理由は、嘱託職員から正職員への転換（以下、「キャリアアップ」という）に伴う職員の処遇改善を図るためである。厚生労働省の「キャリアアップ助成制度」に申請を予定しているが、2022年10月に支給要件の変更があり、正職員として試用期間中の者は、正職員に転換されたものとは認められないとされた。本協会の現行の就業規則第8条では、「新たに採用された者は、採用の日から6ヵ月間を試用期間とする。」としており、解釈により嘱託職員からの転換者も「新たに採用された者」と見なされる可能性があることから、「新たに採用された者」の中に嘱託職員からの転換者については含まない旨を記載するように就業規則を改正する。本日承認をいただければ、本日付けで施行とし、2022年10月1日から適用とする。なお、キャリアアップ助成金についてはすでに東京労働局にキャリアアップ計画を提出済みであり、今後支給申請が認められれば転換者一人当たり57万円の助成が得られる。なかなか受給の難しい制度のためきちんと対応することが求められている。

質疑や意見の確認の後、挙手による採決が行われ、全員の賛成により異議なく承認された。

〈主な意見など〉

中山（勝）：転換者一人当たり57万円の助成ということだが、この助成は一定期間継続的に助成されるのか。

事務局：助成金支給は申請時の1回のみである。なお、キャリアアップ助成制度にはいくつかのコースが

あるが、今回は正社員化コースで申請する予定である。

第3号議案 2022年度通算第2回 (定時第2回)代議員総会の開催 について

事務局長より、資料に基づき説明があった。代議員総会の開催については理事会の決議に基づき理事長が招集するとされている。2022年度通算第2回(定時第2回)代議員総会は、KKRホテル東京を会場として、2023年3月20日(月)に対面による開催としたい。議題は、「議長の選出」「理事・監事選任に係る基本方針及び選任方法等」「理事・監事選任日程(案)」及び報告として2023年度事業計画及び予算である。なお、出席できない代議員の議決行使方法は書面決議及び委任状によるものとする。

また、理事長より、当初3月16日に開催する予定とお知らせしていたが、会場確保の都合により日程が変更となったことが補足された。

質疑や意見の確認の後、挙手による採決が行われ、全員の賛成により異議なく承認された。

〈主な意見など〉

末次：本日以降、日程が変更となることはないか。遠方の代議員は事前の交通手段の確保等が必要なため、理事会後速やかに連絡したいので、念のための確認である。

理事長：変更になることはない。理事会後に代議員へお伝えいただくことは問題ない。

末次：前回を踏まえて、代議員からもうかがっている意見なのだが、前回は議長選出に時間がかかり、重要な議案の協議時間が十分とれなかったため、今回はスムーズな進行をお願いしたい。

理事長：了解した。議長とも調整し、スムーズな進行を心掛けたい。

■報告

報告1 2022-2025年度代議員補欠選挙の立候補結果について

岡部常務理事兼総務部長(以下、「総務部長」という)より、資料に基づき報告があった。2022-2025年度代議員補欠選挙について、12月8日に立候補を締め切ったが、第7区(団体会員選出)は今回も立候補がなかった。選挙管理委員会は、12月20日に選挙人名簿及び代議員候補者名簿の閲覧開始の公示を行った。今後の補欠選挙の日程は、2月1日から10日に投票、2月15日に開票の予定である。

また、副理事長より、第7区について補足説明があった。団体会員については11月2日につどいを開催し、情報交換と補欠選挙への立候補について説明を行ったが、情報交換が主体となってしまった。後日、団体会員の場合、代表が交代したときに、新任者が前任者に代わって代議員に就任することが、現行の代議員選挙規程では明確になっていないとご指摘をいただいた。以前も同様のケースがあったが、その際はもともと団体名で投票を行っていたので、そのまま新任者に代議員になっていた。しかし、今回はご指摘の通り、明確になっていないということで立候補を立てていただくことができなかった。現在、代議員定数等検討委員会で個人会員選出を中心に検討いただいているが、団体会員についてもどうしたら継続的に代議員を出していただけるのかということも検討いただけないかと考えている。そういった対応をしていれば、今回も立候補いただける可能性もあったのではと歯がゆい思いである。

〈主な意見など〉

総務部長：副理事長より補足いただいた件だが、選挙管理委員会でも団体会員、特に地域図書館団体からの

選出について、団体を選出するのか、個人を選出するのか、現在の代議員選挙規程では明確になっていない部分があると指摘があった。団体を選挙で選出し、その団体から推薦された方に代議員に就任いただくことが合理的だが、現在の代議員選挙規程ではそのようになっておらず、あくまで個人を選出するような規定となっている。選挙管理委員会でも規程の改正等、理事会でもご検討いただきたいという意見をいただいている。

深水：そのほか選挙に関して団体等から意見や質問があったか。

副理事長：特にない。もし、代議員定数等検討委員会で検討されない場合は、今後理事会等で検討していく必要があると思う。

山本：団体会員である地域図書館団体からご相談を受けていたのだが、当初その団体も補欠選挙に候補者を出す方向で検討していた。しかし、個人が代議員とならなければならぬということだったので、立候補することができなかった。私も代議員定数等検討委員会の委員であるので、検討課題として提案したい。

報告2 代表理事及び業務執行理事の業務執行状況について

事務局長より、資料に基づき、1月20日から5月12日までの職務執行状況及び7月28日から11月24日までの職務執行状況について報告があった。

なお、本来であれば1月20日から5月12日までの職務執行状況については、9月開催の通算第2回理事会において報告すべきであった。報告が遅れたことについてお詫びする。

報告5 「歴史的図書館用品の調査・収集・保存事業」について

事務局長より、資料に基づき報告

があった。「歴史的図書館用品の調査・収集・保存事業」は、2003年度事業計画にある通り、キハラ株式会社（以下、「キハラ」という）の全面的な協力により実施されている。2014年には、2004年に遡って「共同事業覚書」を締結し、2004年から2014年の10年間の事業とし、その後2019年3月まで延長して展開してきたが、それ以降は更新していない。現在、キハラ株式会社が以前から収集してきたものを含め、総数は1,700点に及んでいる。そのうち、413点（図書館等からの寄贈21件、その他は個人からの寄贈）が本協会の所有となっており、キハラに管理・保管等をしていただいている。この度、キハラより、歴史的図書館用品をデジタル化し、データベースとして公開し、図書館研究者等が自由に活用できるプラットフォームを構築するため、協会所有の用品について所有権譲渡を検討してほしいとの申し入れがあった。本協会としては、現在これらの用品を資産として管理しているわけではないこと、歴史的な意義があるが、多くは資産としての価値はなく使用不能品であること、本協会で管理・保管することは難しいことなどから、この申し入れを受け入れ、所有権を譲渡することとしたい。なお、この事案については、顧問弁護士事務所であるあさひ法律事務所に相談し、法的にも問題はないと助言をいただいている。

〈主な意見など〉

山本：図書館などの寄贈者が、それらの用品は本協会に寄贈したものと理解されている場合、このまま所有権を譲渡することに問題はないのか。法的には問題ないということだが、寄贈者への配慮という面で気になった。

理事長：寄贈時の経緯を伺うと、図書館などで廃棄の際に、本来であ

ればキハラに直接譲渡したいのだが、手続き上難しいため、便宜的に本協会が寄贈先となることとなったということのようだ。寄贈者からすると廃棄したものなので、問題ないと考えている。

中山（勝）：キハラに譲渡する場合、正式な手続きが行われるという理解でよいのか。

理事長：理事会後、所有権譲渡の稟議をし、正式な文書でキハラに通知する予定である。

末次：「歴史的図書館用品の調査・収集・保存事業」は、本協会が事業として取り組んでいるということだと思うが、所有権を譲渡した後、本協会としてはこの事業を続けていくのか。例えば、今後、歴史的図書館用品を寄贈したいという図書館などがあつた場合は対応していくのか。

理事長：本事業は2019年まででその後更新をしておらず、この事業は終了しているという理解である。末次理事のご意見のように図書館などからお申し出があつた場合には、キハラとも相談をしてみる。

報告 6 2023年度役員会・代議員総会日程について

副理事長より、資料に基づき報告があった。おおむね2022年と同様の日程である。また、代議員総会の開催前の理事会の日程に関しては、事務局の準備なども勘案し3週間ほど日程が空くように設定した。

報告 7 第108回全国図書館大会群馬大会について

報告 8 第109回全国図書館大会岩手大会について

理事長より、報告7及び8は関連しているため、続けて報告するとの発言があった。

副理事長より、資料に基づき報告があった。第108回全国図書館大会群

馬大会の申込者数は1,460名（11/30現在）であつた（前年度は1,261名）。群馬大会実行委員会には頑張っていた。分科会ごとの視聴回数はまだ集計されていないので後日報告する。

また、第109回全国図書館大会は、2023年11月16日、17日に岩手県で開催し、対面式となる予定である。分科会は11月17日（金）の午前、午後を予定し、第1～4分科会は現地で担当、第5分科会以降は本協会で担当となるが、部屋数から考えるに16分科会くらいまでの開催となると思われる。12月中旬に部会・委員会に分科会開催の意向調査を行う予定である。

なお、今後の大会開催地について、2026年は東京となっていたが、石川県に受けていただけることとなった。〈主な意見など〉

巽：第4分科会（児童サービス）の担当が「県立図書館（TRC）」となっているが、これはどういう意味か分かる範囲で説明いただけないか。例えば県内の児童関係団体などと協力するなど考えられると思うが、そういった検討はまだされていないのか。

副理事長：詳細はわからない。岩手県立図書館は指定管理者制度を導入しており、県の職員が9名しかおらず対応ができないため、運営の中心が指定管理者であるTRCになるということかと推測する。第4分科会の検討については現地が担当しているので、現時点では把握していないので回答は控えさせていただく。

平形：本協会の委員会等が開催する分科会の開催形式について、コロナ以前のような開催となるのか。

副理事長：想定しているのはそのイメージである。最近でいうと、三重大会のイメージが近いと思うが、岩手大会の会場となる各施設は近場にまとまっているので、分科会運営はしやすいかと思う。

平形：県立図書館や市立図書館などを会場とするかは検討されないのか。

副理事長：会場については現地実行委員会が中心となって検討しているので、現在こちらでお答えできることはない。2月20日に次回準備委員会が開催されるので、それまでに分科会開催状況はまとめていくが、準備委員会後にもう少し詳細な報告ができると思う。

理事長：岩手大会についてこれから検討がされていくと思うが、ご協力とご参加をよろしくお願いいたします。

報告9 その他

○「中央教育審議会教育振興基本計画部会に係る意見募集について（依頼）」への対応について

総務部長より、資料に基づき説明があった。中央教育審議会教育振興基本計画部会において次期教育振興基本計画の策定について審議が始まっており、12月12日に審議経過報告の素案が示された。これに先んじて、12月9日に文部科学省総合教育政策局政策課より「中央教育審議会教育振興基本計画部会に係る意見募集について（依頼）」が届き、本協会でも意見提出をするための準備を進めている。意見募集の締め切りは1月18日である。現在、学校図書館部会、図書館政策企画委員会にも意見を照会中であるが、理事の皆様にもこの理事会後資料をお送りするので、1月5日までに意見をお寄せいただきたい。1月13日までに取りまとめを行い、確認いただいたうえで提出する予定である。

○会員確保の方策について

理事長より、前回の理事会で意見交換をさせていただいたが、理事長としての考えをまとめたのでお伝えする。2023年度は特に個人会員の確保を大きな目標として掲げ取り組ん

でいきたい。入会したい、図書館を異動・退職しても会員でいたいと思われたい協会を目指したい。図書館関係者だけでなく、図書館友の会の方や図書館に関心を持っている方にも加わっていただけるよう例えば会員種別を新たに設けるなどの見直しを行いたい。そのため、協会内にプロジェクトチームを立ち上げて検討していきたい。このことについて、理事長に一任いただきたい。

〈主な意見など〉

末次：今、図書館の現場では非正規雇用が増えている中で会員になっていただくためには会費のことは避けて通れない。B会員の規定があるが、『図書館雑誌』を送付しないなどの方策を検討いただき、年会費3,000円以下くらいにさせていただけると呼びかけやすい。

理事長：検討させていただきたい。

深水：『図書館雑誌』を送付しないのも一つの方策だが、Web閲覧などPDFで読めるような形も加えて検討いただきたい。

総務部長：現在もWebで『図書館雑誌』を公開しており、会員であれば閲覧できる。

深水：一般の方に入会いただくには、もっとハードルを下げていくことが必要である。図書館友の会などだけでなく、図書館に興味がある方などを図書館ファンとして入会できるような入り口も設けていただきたい。

理事長：その場合には、代議員の選挙権をどうするかなど、会員としての権利なども併せて検討していくことが必要と考える。

齋藤：一般の方に入会いただくには、図書館を応援したい気持ちをどうくみ取るかということではないか。彼らが必要とするものは何か、逆に必要としないものは何かを精査したうえで準備をし、場合によっては、今行っていないサービスを提供する

ことで広がることもある。幅広く、一般の方の意見も聞きながらサービスの提供の仕方を検討いただきたい。

投票権については、通常の会員と同様に1票を投じるということになると不平等感もある。必ずしも一般の方は投票したいという希望はないのではないかとも思う。例えば、通常の会員が持つ選挙権とは違う形で、一般の方の代表が投票するなどの特設の枠を設けることなども考えられるかもしれない。

また、サービスを提供するだけでなく、会員自身が図書館を応援する活動も出てきてほしいと考えているので、そういった誘導ができるような方策も併せて検討いただきたい。そのようなことができれば、一般の方に声をかけるときに積極的にお誘いできるように思う。

理事長：図書館友の会全国連絡会（以下、「図友連」という）などでは、積極的にロビー活動されているということもお聞きしている。そういった方に入会いただけたら、本協会にとっても有益であると思う。

齋藤：地方の方で図書館を応援したいという方の中には、地元議員さん等につながりがあり、影響力のある方もいらっしゃる。各地方で図書館を応援したいといったときに本協会がマッチングをしたり、地方の活動を本協会がサポートしながら全国へ広げていくこともできるのではないか。図書館や本協会を支えてくれる人を増やして、図書館の内部の人たちだけでなく、図書館の外部の人たちの力も借りて、全国の図書館を一步でも前に進めていけたらと思う。

平形：2023年度は岩手県で全国図書館大会が開催されるが、この大会が東北の図書館員の横のつながりを構築する手助けになればいいと考えている。また、東北だけでなく、地方で開催される場合には広報等がもう

少し効果的にできるように検討いただけたらと思う。

理事長：本協会としてできるだけ各地域のつどい等に参加して働きかけを強めていきたい。もう少しコロナが落ち着かないと難しいところもあるが心掛けていきたい。

山本：新館開館の時などに市民運動等が起こることがあるが、一般市民は図書館や図書館法などの基本的なことを知らない方が多いので、本協会が講師派遣などのサポートをしたり、他の地域の状況等の情報を提供できたりすれば、入会する人も増えるのではないかと。

理事長：本協会の事業として政策提言等もあり、これまでも報告書の作成や、図書館実践シリーズなど書籍の刊行を行っている。お声掛けいただければ講師等を派遣できることもある。できる限り対応したい。

山本：そういったことを会員獲得に結びつけることはできないか。現在は図友連などに相談するケースが多いので、本協会ですべてサポートできないかと考えた。

高橋（恵）：直接会員確保につながるかはわからないが、学校図書館部会ではこれまで、学校図書館法改正運動や高校の学校図書館司書の身分保障の問題、小中学校の学校図書館に人を置く運動など、さまざまな活動をしてきた。その中で感じたのは、実践や事例などの情報が必要とされていたことだ。「学校図書館の友」というFacebookがあるが、Web上で情報交換等をするやりかたというのは参考になるのではないかと考えた。どうしたらいいのかという答えまでは出ていないが、今までのことを振り返って、学校図書館にとってどういうあり方がいいのか、それがどうやったら会員獲得につながるのかを模索中である。

齋藤：現在、コロナもあって横のつ

ながりが取りにくく、学校司書が孤立してしまうという状況がある。横のつながりをどう確保していくかと考えたとき、例えばFacebookなどでつながるということが考えられるのだと思う。それぞれの人がどんなニーズを抱えているのかを一つ一つ拾っていったら、サービスを提供し、一定以上効果が見込めれば、高橋（恵）理事の話にあった方法論は方向性として参考になるように思う。

成瀬：皆さんの経験に基づくご意見は大変参考になる。確かに高橋（恵）理事、齋藤理事の話は有効だと思うが、会員確保については、『図書館雑誌』は電子配信やオンデマンド配信としたり、全国図書館大会を図書館総合展と合同開催するなど、かなり思い切った策が必要だと思う。例えば、理事に若い人を入れたり、本協会は指定管理者制度には賛同していないが、指定管理者の中で働いている人たちも参加しやすいような方策を考えないと先に進まないのではないかと。

末次：少し突拍子もないことかもしれないが、現在話題になっている『税金で買った本』（ずいの原作、糸山阿漫画、講談社）という漫画があるが、こういったものとコラボすることなども検討できたらいいのではないかと。この漫画は一般の方にも話題になっており、注目される一端になるのではないかと。他にも、図書館好きな芸人や芸能人など、そういった切り口からもアプローチできたらと思う。

○その他

巽：代議員定数等検討委員会の経過をお知らせいただけるか。

深水：現状、中間報告として次回の理事会で報告できるように進めている。その他、委員会報告がウェブに掲載されているので参考にしてほしい。

*

理事長：各地で書店が閉店していることを危惧した自由民主党議員が、「街の本屋さんを元気にして、日本の文化を守る議員連盟」を結成した。148名の議員が参加している。来年の5月に提言を取りまとめる方向で検討が進められており、本協会としても動向を注視している。

*

閉会宣言

理事長より閉会が宣せられた。

公益社団法人日本図書館協会
2022年度通算第3回（定時第3回）理事会
配付資料

- 資料1 公益社団法人日本図書館協会就業規則の一部改正について（案）（掲載省略）
- 資料2 災害に係る協力体制に関する協定書（案）（掲載省略）
- 資料2-1 災害に係る協力体制に関する協定書（案）Q&A（掲載省略）
- 資料3 2022年第2回（定時第2回）代議員総会の開催について（掲載省略）
- 資料4 2022-2025年度代議員補欠選挙候補者名簿（掲載省略）
- 資料5 代表理事及び業務執行理事の業務執行状況

- （2022/1/20～2022/5/12）（掲載省略）
- 資料5-1 代表理事及び業務執行理事の業務執行状況（2022/7/28～2022/11/24）（掲載省略）
- 資料6 2022年度予算の上半期中間決算（4月～9月）（掲載省略）
- 資料7 2022年度災害等により被災した図書館等への助成の審査結果について（掲載省略）
- 資料8 「歴史的図書館用品の調査・収集・保存事業」について（掲載省略）
- 資料9 2023年度役員会・代議員総会日程（案）（掲載省略）
- 資料10 第108回全国図書館大会群馬大会申込者数（掲載省略）
- 資料11 第109回全国図書館大会岩手大会開催概要（掲載省略）
- 資料12 中央教育審議会教育振興基本計画部会に係る意見募集について（依頼）（掲載省略）

季刊『現代の図書館』 第60巻第3号 定価1430円 刊行案内

特集：戦時下のウクライナの図書館 内容＝ロシア＝ウクライナ戦争下におけるウクライナの図書館の被害について（雪嶋宏一）、生存と勝利のために！ロシアの侵略に抵抗するウクライナの図書館界（オクサナ・ボイアリノヴァ，訳：須永和之）、報告書「公共図書館とウクライナ避難民」（ライブラリーコネクティッド，訳：夏目雅之）、読書に障害のある人々の読書環境を改善するためにーりんごプロジェクトの活動紹介（佐藤聖一）、ベタ組み」は誰がつくったのかー露伴本に見る草創期の組版の変遷（前田年昭）。



日図協図書館 新着案内

●配列と記載事項について

単行書：『日本十進分類法』による分類記号順（NDC 記号順）とし、同一分類記号内は書名の欧文、数字、五十音順とした。

「タイトル 巻次 著者 出版社 出版年月 ページ数 大きさ（叢書名） 注記 ISBN 価格 NDC 記号」

要覧：館種別、都道府県（県、政令指定都市・特別区、市、町村）順

「タイトル 巻次 編者・出版社 出版年月 ページ数 大きさ」

館報：館種別、都道府県（県、政令指定都市・特別区、市、町村）順

「タイトル 巻次 編者・出版社 出版年月」

機関誌・団体報：館種、テーマによる NDC 記号順

「タイトル 巻次 編者・出版社 出版年月 ページ数 大きさ 注記 NDC 記号」

記事索引：『日本十進分類法』による分類記号順（NDC 記号順）とし、同一分類記号内は記事タイトルの欧文、数字、五十音順とした。

「記事タイトル 著者 掲載誌 巻号 掲載ページ 掲載年月」

図書館関係 図書・資料・記事目録



単行書 紀要掲載論文

報告書・資料集・論文集など

電子図書館・電子書籍サービス調査報告 2022 これまでの10年とこれからの10年 電子出版制作・流通協議会監修、植村八潮ほか編著 樹村房 2022.12 241p 26cm 978-4-88367-373-5 ¥3500 010

図書館総合展 ONLINE plus 2022開催報告書 第24回図書館総合展運営委員会 [2022.12] 22p 30cm 010.6

図書館に PFI (private finance initiative) 手段は有効か MK 図書館研究所第4回研究セミナー2002 鬼頭當子編集責任 MK 図書館研究所 2002.11 54p 30cm 012

情報資源組織演習 三訂版 和中幹雄著、横谷弘美著

日本図書館協会 2023.01 286p 26cm (JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ 10) 978-4-8204-2213-6 ¥1900 014

図書館にまいこんだこどもの大質問 司書さんもビックリ! こどもの大質問編集部編 青春出版社 2022.12 229p 19cm 978-4-413-23281-4 ¥1350 015.2 (仮称) これからの図書館構想策定検討委員会報告書 [練馬区] [練馬区] (仮称) これからの図書館構想策定検討委員会 2021.11 23, 14p 30cm 016.21361

これからの図書館構想 [練馬区] 世界につながる彩り豊かな情報の情報拠点を目指して 練馬区教育委員会事務局教育振興部光が丘図書館 2022.11 36p 30cm 016.21361

アピール私たちは学校図書館を応援しています 学校図書館法公布70周年記念事業運営委員会 2023.01 [4p] 30cm 017

まんがでSDGs!! 改 湘南学園中学校高等学校図書委員会企画班 [湘南学園中学校高等学校] 2021.08 [30p] 21cm 本冊子は「第12回ユネスコスクールSDGs アシストプロジェクト」の助成を受けて作成された 019.9

教育現場と研究者のための著作権ガイド Copyright Guide for Educators and Researchers 上野達弘編 有斐閣 2021.03 246p 22cm 978-4-641-24344-6 ¥2200 021.2

著作権法入門 2020-2021 文化庁著 著作権情報センター 2020.12 160, 306p 21cm 978-4-88526-091-9 ¥2500 021.2

出版再販・流通白書 2022年 No.25 出版流通改善協議会編 日本書籍出版協会 2022.12 93p 30cm 付録：再販契約の手引き 第7版 (17p) 978-4-89003-160-3 ¥1100 024



要覧

年報・年史・業務報告・利用案内など

栃木県内の図書館 2022 (令和4年度) 栃木県公共図書館協会 2022.11 69p 30cm

千葉県内の図書館 2022 (令和4年度) 千葉県公共図書館協会 2022.11 92p 30cm

逗子市立図書館活動報告 令和3 (2021) 年度 逗子市立図書館 2022.12 47p 30cm

草蜩 図書館年報 (令和3年度報告) 令和3年度 43 守山市立図書館 2022.11 55p 30cm

年報 令和3年度 (2021年度) 宇治市中央図書館 2022.11 28p 30cm

図書館要覧 令和3年度事業報告 令和3年度 TRC 和泉図書館 2022.12 42p 30cm

島根県公共図書館年報 令和4年度 島根県公共図書館協議会事務局 2022.11 39p 30cm



館報 協会報 機関誌

●日本図書館協会

図書館雑誌：The Library Journal 117(1) (通巻1190)
日本図書館協会図書館雑誌編集委員会 日本図書館協会 2023.01 60p 26cm 内容：令和4年度（第108回）全国図書館大会群馬大会ハイライト、年頭所感、新春エッセー、図書館と教育の公正（窓）、部落差別解消と資料提供の自由（こらむ図書館の自由）、文部科学省のホームページのご案内（霞が関だより 230）、岡崎市長中央図書館のレファレンス 岡崎市長中央図書館（れふあれんす三題嚙 301）、近世邦楽資料コレクション：竹内道敬文庫について 国立音楽大学附属図書館（ウチの図書館お宝紹介 227）、科学技術の教育・研究を支援する OIST 図書館の取り組み 沖縄科学技術大学院大学図書館（小規模図書館奮戦記 その299）、図書館員のおすすめ本 73、図書館等公衆送信サービスをめぐる疑問と提言（北から南から）、情報提供協力者求む！ー図書館情報学文献目録データベースの構築で（北から南から） 010.5

●国立国会図書館

国立国会図書館月報 741 国立国会図書館 2023.01 34p 30cm 内容：特集 国会議事堂の中の図書館、新年のごあいさつ、『国会のはなし』 新時代を担う若者たちに向けて（今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から）、国立国会図書館 国会分館、建築史の専門家に聞く 堀内正昭氏インタビュー、帝国議会の「図書館」はどこにあったのか？、電子書籍・電子雑誌の収集範囲の拡大について オンライン資料収集制度のご紹介、国立国会図書館関西館開館20周年記念企画展示 万博タイムトラベル、誰がために議員はある（館内スコープ）、『閣議付議事項の件名目録』（本屋にない本） 016.11

カレントアウェアネス 353 国立国会図書館関西館図書館協力課 2022.09 24p 30cm 内容：米国の図書館における検閲に関する動向、危機下での図書館運営、「データ視覚化ロードショー」：大学図書館によるデータ視覚化講座、メタリテラシー：ポスト真実時代の情報リテラシー、内閣府エビデンスシステム（e-CSTI）の概要と今後の方向性、公共施設等総合管理計画と公立図書館の施設整備 016.11

レファレンス 864-865 国立国会図書館調査及び立法考査局 2022.12-2023.01 72, 2p 30cm 2冊 内容：(864) レファレンス記事索引 853～864号（2022年1月～12月） 016.11

外国の立法 立法情報・翻訳・解説 294 国立国会図書館調査及び立法考査局 2022.09 200p 30cm 016.11

●協会報・館報

よむみる 363 恵庭市立図書館 2023.01 4p 30cm 016.211

情報図書館だより 393 江別市情報図書館 2023.01 [2p] 30cm 016.211

図書館通信 豊かな時間を図書館で 41(10) (通巻500) 登別市立図書館編 登別市立図書館 [2022.12] 12p 30cm 016.211

ハトダヨ 函館市中央図書館だより 80 函館市中央図書館 2023.01 [4p] 30cm 016.211

花さき山 423 筑西市立明野図書館 2023.01 [2p] 30cm 016.2131

図書館だより 464 新座市立図書館編 新座市立図書館 [2023] [4p] 30cm としょかんこどもだより (155), 付：ティーンズブックリスト2022秋号「戦争と平和」, 2022/12月 2023/1月号 016.2134

三郷市図書館だより 315 三郷市立図書館 2022.12/2023.01 [4p] 30cm たからじまだより (242) 016.2134

こすもす 市原市立中央図書館報 137 市原市立中央図書館 2023.01 [2p] 30cm 内容：「図書館の自由に関する宣言」ってご存じですか？, ほか 016.2135

江東区立図書館情報誌 ことらいぶ 2023冬 25 江東図書館 [2022.12] [4p] 30cm 内容：深川図書館 2月1日に開館します!! , ほか 016.2136

図書館通信 豊島区立中央図書館報 66 豊島区立中央図書館 2023.01 [16p] 21cm 016.2136

ひばり いなぎ図書館だより 198 稲城市立図書館 2022.12 [4p] 30cm 016.2136

図書館だより 103 国分寺市立図書館 2022.12 [2p] 41×28cm (折りたたみ28×21cm) 016.2136

図書館だより 2022冬 265 調布市立図書館 2022.12 8p 30cm 016.2136

西東京市図書館だより 88 西東京市図書館 2022.12 6p 30cm 016.2136

らいぶらりい 八王子市図書館報 152 八王子市中央図書館 2023.01 7p 30cm 016.2136

ひろば 日野市立図書館報 280-281 日野市立中央図書館 2022.12-2023.01 2冊 21cm 016.2136

図書館だより 23 武蔵野市立図書館編 武蔵野市立図書館 2022.12 [2p] 30cm 内容：吉祥寺図書館35年の歴史, ほか 016.2136

TOMTON LIBRARY NEWS 2023年1月号 77 相模原市立図書館 2023.01 4p 30cm 内容：特集：北海道 016.2137

はしもと図書館報 Hi! 81 相模原市立橋本図書館 2023.01 4p 30cm 016.2137

図書館だより 198 藤沢市総合市民図書館 2023.01 4p 30cm 内容：本のトラブル水濡れ, ほか 016.2137

ソフィアだより 318 ソフィアセンター（柏崎市立図書館） 2022.12 [4p] 30cm 016.2141

パピルス 上越市図書館だより 297-298 上越市立図書館 2022.12-2023.01 2冊 30cm 016.2141

図書館の窓から 長岡市立中央図書館報 2023冬号 179 長岡市立中央図書館編 長岡市立中央図書館 2023.01 [4p] 30cm 内容：アートを身近に！ 美

- 術資料コーナー, ほか 016.2141
- としょかんくん 長岡市立図書館子ども向け図書館情報誌 ふゆ号 173 長岡市立中央図書館編 長岡市立中央図書館 2023.01 [4p] 30cm 内容: 分類の秘密, ほか 016.2141
- 磐田市図書館だより 2023年1月号 214 [磐田市立中央図書館] [2022.12] [4p] 30cm 016.2154
- 掛川市立図書館だより 215 掛川市立図書館 2023.01 [4p] 30cm 016.2154
- ひまわりだより 405 貝塚市民図書館 2023.01 [2p] 30cm 016.2163
- ムクムク 443-444 四條畷市立四條畷図書館 2022.12-2023.01 2冊 26cm 付: 新着図書案内 (213-214) 016.2163
- としょかんだより 473 寝屋川市立中央図書館 2023.01 [4p] 30cm 016.2163
- みんなの本だな 図書館だより 650 芦屋市立図書館 2022.12 [4p] 21cm 016.2164
- しずく通信 224-225 猪名川町立図書館 2022.12-2023.01 2冊 30cm 付: しずくつうしん えほん 60-61, しずくつうしん for KID'S 164-165 016.2164
- 用瀬図書館だより 176-177 鳥取市立用瀬図書館 [2022.12] 2冊 30cm 016.2172
- 図書館だより 347 岩国市中央図書館 2023.01 [2p] 30cm 016.2177
- 佐賀市立図書館だより 136 佐賀市立図書館 2022冬 [2p] 30cm 016.2192
- 文芸いぶすき 67 指宿市立指宿図書館 2022.12 102p 21cm 内容: 山川図書館と一坪図書館四十二年のあゆみ, ほか 016.2197
- *
- Book Mark 城西大学水田記念図書館報 157-158 城西大学水田記念図書館 2022.12-2023.01 2冊 26cm 内容: (158) POP 作成を読書のきっかけに, ほか 017.7134
- 図書館だより 175 日本女子大学図書館 2022.11 8p 26cm 017.7136
- みすず 上田女子短期大学附属図書館報 49 上田女子短期大学図書館・紀要委員会編 上田女子短期大学附属図書館 2022.12 8p 30cm 内容: データに基づく科学的理解が重要, ほか 017.7152
- 温故知新 41 静岡文化芸術大学図書館・情報センター 2022.12 8p 30cm 017.7154
- Gaidai bibliotheca 235 京都外国語大学付属図書館編 京都外国語大学付属図書館・京都外国語短期大学付属図書館 2023.01 23p 30cm 内容: 特集: 本とともに 017.7162
- 機関誌・団体報
- 国立情報学研究所ニュース: NII Today 97 国立情報学研究所 2022.09 23p 30cm 内容: 特集 人工知能法学を識る AI と法学が融合した“新学問”, 007
- 情報の科学と技術 73(1) 情報科学技術協会 2023.01

36p 30cm 内容: 特集 学術情報流通のあり方, 学術情報流通の多様化: 査読誌の「4機能」の変化 (佐藤翔), 学術雑誌 (伊藤憲二), プレプリントの概況と日本発のプレプリントサーバ「Jxiv (ジェイカイブ)」「(重松麦穂), 国内初のオープンリサーチ出版サービス (森本行人, 池田潤), 研究評価改革とオープンサイエンス: 国際的進展と日本の状況 (林隆之, 佐々木結, 沼尻保奈美) 007

- LISN 194 キハラ株式会社マーケティング部 2022.12 25p 26cm 内容: 特集 室内環境への配慮を見直す, 家庭用芳香・消臭・脱臭剤の安全確保について, 家庭用柔軟剤等の香り付き製品の利用と課題 (浦野真弥), 室内で過ごす空気質と微生物 (石松継世), マスクと卓上パーティションの音響的影響について (渡辺茂幸), 境港市民図書館-市民と共に歩み, 成長していく図書館を目指して (嘉賀収司) (設備事例), 第3回日本の「障害者サービス」はいま (連載「誰一人取り残さない」図書館を目指して) (野口武悟), 『読み書き障害 (ディスレクシア) のある人へのサポート入門』『加藤宗厚先生のお仕事 図書館法成立, 『学校図書館の手引』をめぐって』(資料紹介) 010.5

図書館界: The Library World 74(5) (通巻428) 日本図書館研究会 2023.01 48p 26cm 内容: 近代建築としての図書館について (日置将之) (座標), 文部省実験学校における図書館教育 (根本彰) (論文), 各館種における専門図書館との連携・協力の実施状況 (青柳英治) (研究ノート), 書評 (『大東亜』の読書編成: 思想戦と日本語書物の流通)『図書館の社会的責任と中立性: 戦後社会の中の図書館界と「図書館の自由に関する宣言」』『ブリティッシュ・ライブラリーの起源: 成立背景と初期の図書館活動』, 新刊紹介 (『越境を経験する: デンマーク公共図書館と移民サービス』), 日本図書館研究会第64回研究大会 (案内), 日本図書館研究会 2023-2024年度役員候補者について (公示) 010.5

会員通信 19 図書館九条の会 2022.12 30p 30cm 内容: マスコミへの圧力と表現の自由 (永田浩三), 追悼 漆原宏さん ウクライナとロシアに平和を-即時停戦と侵略の中止・撤兵を求めるアピール 2022年6月, 図書館問題研究会第68回全国大会テーマ別交流会 010.6

日仏図書館情報学会ニュースレター 238 日仏図書館情報学会 2022.11 4p 30cm 内容: 学会創立50周年記念刊行物『図書館創設のための提言』が刊行されました, 訃報 鈴木良雄氏 010.7

日本図書館情報学会誌 68(4) 231 日本図書館情報学会 2022.12 42p 26cm 内容: 学校図書館による授業向け図書提供支援システム BookReach の開発と評価 (矢田竣太郎, 浅石卓真, 宮田玲), NCR2018の規定間参照関係の実態把握とネットワーク分析の適用 (谷口祥一, 橋詰秋子), 書評 (『公共図書館の選書業務における選書ツールの研究』『日米交流史の

- 中の福田なをみ：「外国研究」とライブラリアン』『越境を経験する：デンマーク公共図書館と移民サービス』010.7
- 同志社図書館情報学 「同志社大学図書館学年報」47号別冊 32 同志社大学図書館司書課程 2022.12 179p 26cm 内容：GIGA スクール構想の課題の再構成と検討：学校図書館からの視点を含めて（村上泰子、川瀬綾子）、日本における機関リポジトリ普及の背景（川瀬直人、松野涉、逸村裕）、日本の公共図書館における図書館専門職制度の構築に関する一考察（大城善盛）、ウェイン・A・ウィーガンド『アメリカ公立学校図書館史』（2021）の特徴と意義－アメリカ最初の包括的な学校図書館史研究（川崎良孝）、学校図書館の利用者に役立つ検索ツールを求めて：高校生に図書館システムへの要望をたずねる（西村富美子）、1916年ジョンソン報告（『公立図書館にたいする寄付方針についてのニューヨーク・カーネギー財団への報告書』）について（川崎良孝）、公立図書館にたいする寄付方針についてのニューヨーク・カーネギー財団への報告書（アルヴィン・ジョンソン著 川崎良孝訳）010.7
- 文化財の虫菌害 84 文化財虫菌害研究所 2022.12 60p 26cm 014.6
- ヤングアダルトサービス研究会通信 279 ヤングアダルトサービス研究会 2022.12 9p 26cm 015.93
- 音ボラネット通信 47 全国音訳ボランティアネットワーク事務局 2022.12 16p 30cm 内容：ホームページ活用のお願い 015.97
- 文庫だより 238 天理教点字文庫 2022.12 11p 30cm 015.97
- AJU 通信あけのほし 272（通巻14721）ログス点字図書館 2022.12 8p 30cm 015.97
- しぶほう 423 図書館問題研究会神奈川支部 2022.12 6p 26cm 内容：『NHK 趣味どきっ！』に横浜市中央図書館が掲載 016.206
- 風 134 守谷の図書館を考える会 2022.12 4p 30cm 内容：市長との対話 016.206
- 子文連 News Letter 2-5 印西子どもの文化連絡会 2022.09-12 1枚 30cm 4冊 内容：(2)図書館訪問記③、(3)図書館訪問記③、(4)第108回全国図書館大会に参加して、(5)第108回全国図書館大会群馬大会分科会レポート 016.206
- 知恵の樹 272 町田の図書館活動をすすめる会 2022.12 8p 26cm 内容：「鶴川図書館の再編に伴う市民協働型の運営について」を読み解く 016.206
- 堺市の図書館を考える会会報 36 堺市の図書館を考える会 2022.12 8p 30cm 内容：9月議会への陳情書の回答（堺市の図書館を考える会）016.206
- 図書館とまちづくり 152 図書館とまちづくり・奈良県・ネットワーク 2022.12 8p 30cm 内容：香芝市民図書館 開館30周年を迎えて 016.206
- 友の会通信 36 図書館友の会・米子事務局 2022.12 6p 30cm 016.206
- 香川県図書館学会会報 73, 74 香川県図書館学会 2022.12 14p 26cm 73, 74合併号、添付：2022年度第2回研究発表会のご案内 016.206
- みんなの図書館 550 図書館問題研究会 2023.01 88p 21cm 2月号 内容：特集 図書館に正規司書を、司書必置はどこに消えたのか－図書館法成立過程での司書規程の変遷（『図書館法成立史料』による）（小形亮）、司書のいない自治体一覧（大原明）、「あたりまえ」を積み重ねること－東近江市立図書館の市民・行政との連携（前田笑）、行政職員からみた図書館とは（山梶瑞穂）、激動する時代を生きる図書館に期待する（北川憲司）、レファレンス「鹿兒島縣蠶業試験場南薩支場」のこと（下吹越かおる）、全国の図書館を見学して考えたこと(2)－これからどんな図書館ができてゆくんだろう 1、市民にとって図書館とは何だろうか 4－豊田市立図書館の今と、これからを考える（町田市立図書館との比較）、こんな図書館職員はいやだ（こんな図書館はいやだ 19）（山重壮一）、男木島図書館だより 52、『事例で学ぶ図書館制度・経営論』『非正規雇用職員セミナー「図書館で働く女性非正規雇用職員」講演録』（ほん・本・Book）、渋谷図書館再開要請署名（各地のたより）、報告：「アピール 図書館法を改正して公立図書館に司書の必置を求めます」について文部科学省で意見交換を行いました、和歌山県立図書館での部落問題関連資料の利用制限に対する問い合わせへの回答、漆原宏さんが亡くなられて、思うこと（column：図書館九条の会）016.206
- こどもの図書館 69(12) 児童図書館研究会 2022.12 16p 26cm 内容：特集 家族から見た絵本作家たち、016.286
- 児図研東京支部ニュース 439 児童図書館研究会東京支部 2022.12 8p 26cm 016.286
- 支部だより 435 児童図書館研究会神奈川支部 2022.12 10p 26cm 016.286
- こどもの図書館あいち 387 児童図書館研究会愛知支部 2022.11 [8p] 26cm 添付：児童図書館研究会愛知支部講演会・本部助成事業「講演会 広松由希子さん 絵本の話 気ままにあっちこっち」016.286
- 山梨子ども図書館 70 山梨子ども図書館 2022.10 6p 30cm 016.286
- 子どもと読書 457 親子読書地域文庫全国連絡会 2022.12 40p 21cm 2023/1・2 内容：特集 読み聞かせを通して子どもと一緒に本を読むこと、図書館で働く非正規職員たち、「平和文化都市」広島市の図書館移転問題 016.29
- 親子読書つうしん 日本親子読書センター・機関誌 3(14) 日本親子読書センター 2022.12 44p 30cm 内容：特集1 第58回秋のつどい報告、特集2 楽しみ、学ぼう、中近東絵本の世界 第2回、特集3 夏休み親子工作教室報告、内容：特集2 松岡享子さん・追悼 パート1 016.29
- ふみくら 204 千葉市文庫連絡協議会 2022.12 12p

- 30cm 016.29
 掛川市子どもの読書活動を考える会報 55 掛川子どもの読書活動を考える会 2022.12 8p 30cm 016.29
 京庫連だより 2022-7 京都家庭文庫地域文庫連絡会 2022.12 8p 26cm 付録：杉山亮さんの本、あれこれ 016.29
 太子連ニュース 414-415 大阪府子ども文庫連絡会 2022.11-12 2p 26cm 2冊 内容：大阪府知事、教育長に要望書を提出しました 016.29
 がくと 37 学校図書館問題研究会 2022.12 184p 26cm 学校図書館問題研究会第37回全国大会記録集 内容：2020長野大会（オンライン）今、問い直す学校図書館の使命、GIGA スクール時代に求められるデジタル・シティズンシップ教育（坂本旬）（講演）、思いを「かたち」に 公立小中学校での取り組みから（田中喜美江）（実践報告1）、Society5.0時代の学校図書館はどうあるべきか？（杉山和芳）（実践報告2）、分科会、プチセミナー、大会総会（2022年度）、2022長野大会を終えて・大会の記録・大会キャラクター「ナジラ」のあゆみ、図書館貸出券の導入で考えた社会と学校における学校図書館の役割（清水紀子）（実践記録1）、極小規模での図書館活動を振り返って（難波望）（実践記録2）、学図研37年のあゆみ（特別企画）、『がくと』バックナンバーでみる学図研のあゆみ 017.06
 学図研ニュース 443 学校図書館問題研究会 2023.01 24p 26cm 内容：特集 SNSで広がる本の世界、017.06
 学校図書館 867 全国学校図書館協議会 2023.01 96p 26cm 内容：特集 ささまざまな教育課題と学校図書館、学校図書館政策を考える（木内公一郎）（2）アドボカシー（教育時評 291）、黙読と音読、朗読（稲井達也、畑綾乃）（言葉に親しむ人を育てるー往復メール書簡 4）、図書館を活用した授業（杉原辰雄）（キラリ！司書教諭 221）、授業支援ー教職員への誘い（形部雅世）（きらり！学校司書 56）、対談 お悩み解決！著作権ーGIGA スクール時代の学校図書館 1（森田盛行、原口直）（学校図書館セミナー 2022 記録）、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策下における学校図書館の活動ガイドライン（2022年11月30日（一部修正）） 017.06
 学校図書館速報版 12月15日号-1月15日号 2117-2119 全国学校図書館協議会 2022.12-2023.01 24p 26cm 3冊 内容：（2117）「学校図書館図書等の整備・拡充」と「教科書での紙とデジタルの最適化」を求める各界連絡会、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策下における学校図書館の活動ガイドライン、（2118）2023年度地区大会開催予定、こよみの本の分類記号は？（教えて、先輩Q&A）、（2119）文部科学省2023年度の予算額を発表、令和4年度子供の読書活動推進に関する有識者会議 論点まとめを公表 017.06
 学図研ニュース・東京 363 学校図書館問題研究会東京支部 2022.12 12p 26cm 内容：特集 図書館だよりの工夫、017.06
 本があって人がいる学校図書館を願う会ニュース 27 本があって人がいる学校図書館を願う会 2022.12 [8p] 26cm 内容：学校図書館充実に関する要望書（2022年11月11日 高松市長、高松市教育長宛） 017.06
 図書館教育ニュース（付録） 1614-1616 少年写真新聞社 2023.01 4p 26cm 3冊 内容：（1614）表現し、発信する場としての図書館を目指して（実践報告）、（1616）ホームページの作り方（予算0でもできる！学校図書館の取り組み デジタル化のきほん 8） 017.1
 小学図書館ニュース（付録） 1282-1284 少年写真新聞社 2023.01 4p 26cm 3冊 内容：（1282）電子図書館！タブレットを活用した読書活動の推進 立川市（実践報告）、（1284）学校図書館として取り組みたい環境整備とサービス（3）（外国にルーツのある児童への支援 8） 017.2
 大学の図書館 41(12) 589 大学図書館研究会 2022.12 64p [p178-240] 26cm 内容：大学図書館研究会第53回全国大会記録、シンポジウム「[司書]養成の現在地」 017.06
 国立公文書館ニュース 32 国立公文書館 2022.12 7p 30cm 内容：特集 つくば分館お仕事紹介 実は、こんなことをしています！ 018.09
 医学図書館 69(4) 日本医学図書館協会 2022.12 57p 30cm 付：医学図書館69巻 2022 総目次 内容：第6回JMLA コア研修、長野県内における病院図書室および患者図書室の現状：コロナ下でのアンケート調査結果から考える（中嶋吏栄）、獨協医科大学図書館におけるバーチャル・ラーニング・コモンズの取り組み（篠崎徳子）、第37回医学情報サービス研究大会（岩手大会）開催報告 018.49
 薬学図書館 67(3)（通巻256）日本薬学図書館協議会 2022.12 37p 30cm 付：薬学図書館 vol.67, no.1~3（2022）総目次 内容：特集 サンメディア主催 学術情報ソリューションセミナー2022、図書館員の世代交代と非専門職化の影響（松本ゆかり）、eリソース管理事情と今後の課題：地方私立大学のいち事例として（坂本里栄）、利用動向の変化に対応した利用者サービスの取り組み（赤塚勝） 018.499
 印刷博物館ニュース Printing Museum News 87 凸版印刷 印刷博物館 2022.12 [7p] 30cm 749
 文藝家協会ニュース 825 日本文藝家協会 2022.12 8p 26cm 906
 ●出版・著作権
 読書推進運動 661 読書推進運動協議会 2022.12 16p 26cm 内容：野間読書推進賞特集、019
 JASRAC NOW 779 日本音楽著作権協会 2022.12 13p 30cm 021.23
 人文会ニュース 142 人文会 2022.12 52p 21cm 内容：劇場としての図書館、あるいは蜘蛛のストラテ

- ジー 近畿大学図書館の取り組み (八角聡仁) (図書館レポート) 023
- アクセス 地方小出版情報誌 552 地方・小出版流通センター 2023.01 12p 26cm 023
- 出版クラブだより 615 日本出版クラブ 2023.01 20p 26cm 023
- 書協 386 日本書籍出版協会 2022.12 10p 26cm 内容: 出版四団体、与党税調に対し書籍・雑誌の軽減税率適用要望 023
- 子どもと科学よみのもの 527 科学読物研究会 2022.12 24p 26cm 023.09
- こどもの本 602 日本児童図書出版協会 2023.01 48p 21cm 023.09
- 子どもの本棚 651 日本子どもの本研究会 2023.01 48p 21cm 023.09
- 日本古書通信 1121-1122 日本古書通信社 2022.12-2023.01 47p 26cm 2冊 024.8
- 生涯学習・地方自治ほか
- 月刊社会教育 67(1) 800 旬報社 2023.01 88p 21cm 内容: 特集 権利としての社会教育を求めてー800号記念 379



図書館関係 雑誌記事索引

- 010 図書館; 図書館情報学
『図書館創設のための提言』 大沼太兵衛 (図書館員の本棚) 図書館雑誌 117(1) p49 2023.01
- 010.1 図書館と自由
部落差別解消と資料提供の自由 伊沢ユキエ (こらも図書館の自由) 図書館雑誌 117(1) p7 2023.01
- 010.31 図書館情報学一書誌
情報提供協力者求む!ー図書館情報学文献目録データベースの構築でー 伊藤民雄 (北から南から) 図書館雑誌 117(1) p47 2023.01
- 010.4 図書館
本という窓 青木海青子 (新春エッセー) 図書館雑誌 117(1) p12-13 2022.01
- 010.6 日本図書館協会
2022年度災害等により被災した図書館等への助成決定 (NEWS) 図書館雑誌 117(1) p5 2023.01
「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を更新 (NEWS) 図書館雑誌 117(1) p5 2023.01
年頭所感 植松貞夫 図書館雑誌 117(1) p11 2023.01
- 010.6 全国図書館大会
今後の全国図書館大会の開催 (NEWS) 図書館雑誌 117(1) p6 2023.01
全国図書館大会に参加してー第1分科会を見て感じたことー 高野恵美 (全国図書館大会に参加して) 図書館雑誌 117(1) p34 2023.01
第1分科会/公共図書館 地域情報拠点としての公共図書館の方向性を考える 市村晃一郎 (令和4年度(第108回)全国図書館大会群馬大会ハイライト) 図書館雑誌 117(1) p17 2023.01
第1分科会(公共図書館)および第4分科会(児童サービス)に参加して 井上史子 (全国図書館大会に参加して) 図書館雑誌 117(1) p34 2023.01
第2分科会/大学・短大・高専図書館 これからの読書を考える/大学生とこれからの読書環境 山内可菜 (令和4年度(第108回)全国図書館大会群馬大会ハイライト) 図書館雑誌 117(1) p18 2023.01
第2分科会(大学・短大・高専図書館)に参加してー読書を気軽な体験にー 竹渕和花 (全国図書館大会に参加して) 図書館雑誌 117(1) p35 2023.01
第3分科会/学校図書館 ポストコロナ社会における学校図書館 由良かおり (令和4年度(第108回)全国図書館大会群馬大会ハイライト) 図書館雑誌 117(1) p19 2023.01
第4分科会/児童サービス 子どもと家庭に本の喜びを届けるために 熊丸朱美 (令和4年度(第108回)全国図書館大会群馬大会ハイライト) 図書館雑誌 117(1) p20 2023.01
第5分科会/専門図書館 専門図書館は地域の情報資源をどのように提供すべきか 新屋朝貴 (令和4年度(第108回)全国図書館大会群馬大会ハイライト) 図書館雑誌 117(1) p21 2023.01
第6分科会/図書館情報学教育 社会の変化に対応した新しい「大学において履修すべき図書館に関する科目」 石井大輔 (令和4年度(第108回)全国図書館大会群馬大会ハイライト) 図書館雑誌 117(1) p22 2023.01
第7分科会/図書館政策企画 図書館の未来にむけてー図書館計画を考えるー 森下芳則 (令和4年度(第108回)全国図書館大会群馬大会ハイライト) 図書館雑誌 117(1) p23 2023.01
第7分科会に参加してー図書館計画の意義ー 渡邊康司 (全国図書館大会に参加して) 図書館雑誌 117(1) p35 2023.01
第8分科会/図書館の自由 図書館の自由を日常に活かす 藏所和輝 (令和4年度(第108回)全国図書館大会群馬大会ハイライト) 図書館雑誌 117(1) p24 2023.01
第9分科会/図書館の利用教育 情報リテラシー教育の新たな実践に向けて 野末俊比古 (令和4年度(第108回)全国図書館大会群馬大会ハイライト) 図書館雑誌 117(1) p25 2023.01
第10分科会/障害者サービス① 全国実態調査から分かる読書バリアフリーの現状と課題 野村美佐子 (令和4年度(第108回)全国図書館大会群馬大会ハイライト) 図書館雑誌 117(1) p26-27 2023.01
第10分科会/障害者サービス② 図書館の読書バリアフリーを推進するための基本資料発表 野村美佐子 (令和4年度(第108回)全国図書館大会群馬大会ハイライト) 図書館雑誌 117(1) p26-27 2023.01
第11分科会/資料保存 いつの間に! カビで慌てないた

めに 永塚玲子 (令和4年度(第108回)全国図書館大会群馬大会ハイライト) 図書館雑誌 117(1) p28 2023.01

第12分科会／出版流通 北米の公共図書館におけるマンガとラノベの所蔵 竹林晶子 (令和4年度(第108回)全国図書館大会群馬大会ハイライト) 図書館雑誌 117(1) p29 2023.01

第13分科会／多文化サービス 多文化共生社会と図書館－群馬大会から20年－ 村上健治 (令和4年度(第108回)全国図書館大会群馬大会ハイライト) 図書館雑誌 117(1) p30 2023.01

第14分科会／健康情報 ウィズコロナ時代のころといのちの支援を考える 柚木聖 (令和4年度(第108回)全国図書館大会群馬大会ハイライト) 図書館雑誌 117(1) p31 2023.01

第15分科会／非正規職員問題 非正規雇用職員の現在 松井祐次郎 (令和4年度(第108回)全国図書館大会群馬大会ハイライト) 図書館雑誌 117(1) p32 2023.01

第16分科会／市民と図書館 住民が望む図書館の実現にむけて 池沢昇 (令和4年度(第108回)全国図書館大会群馬大会ハイライト) 図書館雑誌 117(1) p33 2023.01

地方図書館の冒険と挑戦 須永和之 (全国図書館大会に参加して) 図書館雑誌 117(1) p36 2023.01
本と人が織りなす図書館の未来 稲葉友昭 (令和4年度(第108回)全国図書館大会群馬大会ハイライト) 図書館雑誌 117(1) p14-16 2023.01

011 図書館行政

文部科学省のホームページのご案内 文部科学省 (霞が関だより 230) 図書館雑誌 117(1) p37 2023.01

015.2 レファレンスワーク

岡崎市立中央図書館のレファレンス 岡崎市立中央図書館 (れふあれんす三題噺 301 岡崎市立中央図書館の巻) 図書館雑誌 117(1) p38-39 2023.01

016.28 児童図書館

児童図書館研究会「電子図書館調査報告(速報版)」を公開 (NEWS) 図書館雑誌 117(1) p6 2023.01

017 学校図書館

全国SLA, 2022年度学校図書館調査の結果を公表 (NEWS) 図書館雑誌 117(1) p5-6 2023.01

017.7 沖縄科学技術大学院大学図書館

科学技術の教育・研究を支援するOIST図書館の取り組み 上原藤子 (小規模図書館奮戦記 その299) 図書館雑誌 117(1) p48 2023.01

019.5 児童・青少年図書

東京大学Cedep×ポプラ社「子どもと絵本・本に関する研究」特設サイトをオープン (NEWS) 図書館雑誌 117(1) p6 2023.01

021.2 著作権

図書館等公衆送信サービスをめぐる疑問と提言 糸賀雅児 (北から南から) 図書館雑誌 117(1) p44-46 2023.01

028 紹介本

『電車は止まらない』『あいまい・ほんやり語辞典』『米のおやつともち』『星をみつめて 京大花山天文台から』 佐藤志帆, 笹川美季, 林胡蝶, 仲明彦 (図書館員のおすすめ本 73) 図書館雑誌 117(1) p42-43 2023.01

090 稀書

近世邦楽資料コレクション：竹内道敬文庫について 柄田明美 (ウチの図書館お宝紹介 227 国立音楽大学附属図書館) 図書館雑誌 117(1) p40-41 2023.01

371.5 多文化教育

図書館と教育の公正 溝上智恵子 (窓) 図書館雑誌 117(1) p4 2023.01

協会通信

常任理事会

日時：1月26日(木) 14:00～15:20
会場：日本図書館協会504会議室・Web会議(Webでの出席は「W」と記載)

出席常任理事：植松貞夫(理事長)、鈴木隆(副理事長)、海老根裕(専務理事兼事務局長)、高橋正名(専務理事)、岡部幸祐(常務理事兼総務部長)、成瀬雅人(常務理事)、西村七夫(常務理事)

列席理事：山崎幹子(国立国会図書館：W)、大谷康晴(図書館情報学教育部会：W)、中山勝文(公共図書館部会)、白濱博人(大学図書館部会：W)、深水浩司(専門図書館部会：W)、高橋恵美子(学校図書館部会：W)、松尾昇治(短期大学・高等専門学校図書館部会：W)

列席監事：中山司朗(W)

列席者：佐藤聖一(W)(障害者サービス委員会委員長)※途中退席

*

1. 会議成立要件の確認

海老根専務理事兼事務局長(以下「事務局長」という)より、議事に先立って、会場及びZoom上の画面で本人の出席を確認し、出席者が定足数を満たし会議が成立することが確認された。

2. 開会宣言・理事長挨拶

植松理事長(以下「理事長」という)より、挨拶の後、開会が宣せられた。

理事長より、本日は、障害者サービス委員会の佐藤聖一委員長にご参加いただいております、まず議題3から、佐藤委員長(以下「委員長」という)より、ご説明いただきたい、との紹介があった。

*

〈協議・報告〉

3. 地方公共団体において【視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画】を策定するための指針(案)について

委員長より、資料に基づき説明が行われた。2019年6月の「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」(読書バリアフリー法)成立以降、地方自治体において「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」(読書バリアフリー基本計画)の策定が少しずつ進んでいる。しかしながら、その策定は思うように進んでおらず、すでに策定された計画であっても内容の不足が見受けられる。

そこで、障害者サービス委員会では、地方自治体の読書バリアフリー計画策定を支援し、策定を促すと共に、今後の改定にあたっての参考となることを目指して、「地方公共団体において「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画」を策定するための指針」を作成した。また、各図書館において具体的に障害者サービスを進展させるために、何をもちってサービスを実施しているといえるのかを明らかにすることを目的に、図書館の規模ごとに示した評価シートとして「図書館利用に障害のある人々へのサービス(障害者サービス)評価シート 公共図書館編」を作成した。本日お示ししているこの評価シートは、障害者サービス委員会の委員4名で原案を作成し、委員会でも再検討した結果のものである。(主な意見など)

理事長：これら二つの資料、指針と評価シートについて、本日の常任理

事会で承認されたら、その後どのように取り扱われるのか。

委員長：まずは、障害者サービス委員会のホームページで広報する。指針は関係者協議会等で発表し、普及に努める。指針、評価シートとも、JLA主催の研修会、メールマガジン、『図書館雑誌』誌上などで、活用を呼びかけたい。

岡部：指針のなかでアスタリスクを付している箇所があるが、これは何か。また、指針と評価シートは別々に活用するものか。評価シートでの評価は、計画策定のための基礎的なデータともなりうるが、指針では評価シートについて触れられていない。

委員長：評価シートの目的は、各図書館の担当者に自館の状況を把握してもらうこと。指針は、都道府県立図書館を中心に、計画策定の際の参考になるように作成されたものである。指針と評価シートは別ものと捉えていたが、評価シートの記入により判明した自館の状況を、指針における指標、数値目標の策定時に反映させるなど、指針と評価シートを連動させた活用を研修会などで促したい。指針、評価シートとも、アスタリスクは用語解説を付す用語を示している。2023年3月を目指している指針の発表までに用語解説も作成し、あわせて提示したい。

高橋(恵)：2021年11月開催の全国図書館大会山梨大会で、学校図書館部会が作成した「学校図書館における特別なサービスと資料の提供に関する基本方針」の報告の際、都道府県立図書館による障害者サービス資料の学校への貸出を話題にした。都道府県立図書館で障害者サービスを積極的に行っているところはどこか知

りたい。

委員長：障害者サービスを満足に実施している図書館が2割弱という状況は、都道府県立図書館でも当てはまる。障害者サービス実施の内容は、障害者サービス資料の所蔵、郵送・宅配によるそれらの貸出などがあり、施設や学校などへの貸出も含まれる。サピエ図書館や国立国会図書館の障害者用検索サービスを活用した利用者サービスの提供も行っている都道府県立図書館は10館足らずで、多くの都道府県立は、研修の実施や、県下の図書館への支援もできていない。頑張っているのは、福岡、岡山、鳥取、高知、大阪、愛知、東京、千葉、埼玉などである。

大谷：指針、評価シートとも、当事者の声を拾ってフィードバックする、という要素を明確に打ち出すべきではないか。当事者の声を活かさない、設備やサービスが実際に役立つものにならない。図書館情報学の教育現場では、サピエの話もしているが、学生に実際の使い勝手を示したいので、サピエ側でも、健常者にも教育用にアカウント作成を認めてほしい。また、評価シートについては、優先順位の設定は良いが、サービスを実施しているかどうか、の次の段階として、どの程度サービスを実施しているかという、サービスの具体的な実施度が把握できるようにすることも必要ではないか。

委員長：おっしゃるとおり、点字資料1冊で所蔵資料ありとはいえない。どのくらいやっているか、の視点も、いずれは入れるべきと思う。サピエ図書館、国立国会図書館の視覚障害者等用データ送信サービスでは、検索は誰でも無料でできるので、学生さんにも試していただきたい。国立国会図書館の視覚障害者等用データ送信サービスは、使い勝手を改善したベータ版が、今年4月にリ

リースされる予定なので、それもあるわせて使ってほしい。当事者の扱いについては、指針の中でも、計画策定の段階で当事者を入れる、当事者のヒアリングを行う、などの記述があるが、発表や説明会の際には強調するようにしたい。

理事長：今年3月の発表までに、もう少しご意見も募り、完成させるのがよい。常任理事会としては、全会一致で了承する。より細かいご意見は、佐藤委員長か、協会事務局まで、来週いっぱいくらいまでにお寄せいただきたい。

(佐藤委員長退席)

1. 2023年度予算編成方針について

事務局より、資料に基づき、2023年度予算編成の基本方針の説明が行われた。

委員会交通費の全額支給が大きな変更点である。Zoom 併用のハイブリッド方式の活用により、全額支給しても昨年度の予算額を下回る見込みであることから全額支給としたい。

理事長より、遠隔地の委員も就任していることから、委員会委員の交通費に関する規程の交通費の種類に航空賃を追加し、航空賃の支給ができるよう規定の改正をする予定であるとの補足があり、全会一致で承認された。

2. 国際図書館連盟 (IFLA) 理事ならびにアジアオセアニア地域活動部会の委員 (2023-2025) の推薦について

岡部理事より、資料に基づき、国際図書館連盟 (IFLA) 理事及びアジアオセアニア地域活動部会委員の推薦について説明が行われた。国際交流事業委員会から推薦のあった方々について、日本図書館協会が推薦団体となり、2月中旬の締切までに、IFLA への推薦を行う予定である。

理事長より、国立国会図書館からは、IFLA へ個人を推薦するにあ

たっては、日本図書館協会からの依頼に基づいて行うこととしたいとのことで、井上靖代氏については、協会名で国立国会図書館への推薦依頼を行っている、との補足があり、全会一致で承認された。

4. 日本図書館協会図書館中長期計画について

理事長より、資料に基づき、日本図書館協会図書館の中長期計画の説明があった。

植松館長 (理事長) から、中長期計画の策定について図書館運営委員会の青柳委員長に諮問し、2022年12月に報告されたものである。

(主な意見など)

岡部：長期計画のもとに中期計画がある形となっているが、長期計画の年限は特に定めないのである。また、評価の方法について、「期の終了時に」年度末に自己評価を行い、とあるが、これは年度計画の評価なのか、中期計画の評価なのか。中期計画の最終的な評価は、どのように行われるのか。

理事長：長期計画は中期計画の積み上げによるので、長期計画の具体的な年限はない。評価については、基本的には、毎年、設定された目標の達成度を評価して、翌年の計画に反映させる。中期計画の総合的な評価は、次期の計画につながるものである。

鈴木副理事長 (以下「副理事長」という)：外部委託による作業要員確保、とあるが、具体的に想定している事業があるのか。

理事長：具体的な報告は受けていないが、大幅な書架の配置換えなど、作業要員が必要となる場合がある。この中長期計画で進めるよう、常任理事会として承認する。

5. 後援名義等の応諾について

以下の2022年12月19日メール審議を行った後援1件について、審議結

果を確認し、承認した。

【後援】

・「没後50年 初山滋展 見果てぬ夢」(公益財団法人いわさきちひろ記念事業団ちひろ美術館)

6. 寄附金について

以下の寄附金について承認した。

・2022年11月16日～2023年1月17日	入金分		
一般寄附金	4件	22,585円	
指定寄附金	1件	8,979円	
合計	5件	31,564円	

7. 新入会員の承認について

以下の新入会員について、確認し承認した。

・2022年12月31日現在	
個人会員A：16名	
個人会員B：1名	
準会員：1名	

8. 報告事項

(1) IFLA 分科会常任委員(2023-2027)の推薦について

理事長より、資料に基づき説明が行われた。前回の常任理事会での報告の際に推薦の候補者名がなかった公共図書館分科会と図書館協会運営分科会について、公共図書館分科会については、候補者として豊田恭子氏を追加した。図書館協会運営分科会については、該当者なしのままである。

9. その他

高橋(恵)：図書館政策企画委員会の今年度の事業計画の中で、政策資料集における学校図書館関係資料集を

作成しているところであり、その過程で出てきた質問であるが、IFLA 学校図書館宣言の日本語訳について伺いたい。1999年のIFLA/UNESCO 学校図書館宣言の日本語訳はあるが、IFLA が2021年現在、改訂作業を進めている学校図書館宣言については、日本語訳があるか。まだ日本語訳がなければ、学校図書館部会が下訳を作り、国際交流事業委員会と相談してすすめてもよいか。

副理事長：事務局から国際交流事業委員会に照会したかどうか。

岡部：2022年のユネスコ公共図書館宣言も、未来の図書館研究所で仮訳を出しているのみである。

理事長：国際交流事業委員会に照会し、後日お知らせする。

大谷：1月21日に認定司書審査会が開催され、認定審査が行われた。そ

の結果を、2月22日の理事会にお諮りするので、審議をお願いしたい。

また、図書館情報学教育部会の活動について、「日本の図書館情報学教育」2005年度調査の結果を2008年度に刊行して以来、この調査の実施を長らく中断しているが、今回の調査実施計画の検討が進んでおり、Web 調査で行う予定である。調査実施の際は、日本図書館協会の公式調査ということを明確に示したいので、調査依頼文書について、後日相談させていただきたい。

＊

・今後の予定

・2023年度第1回常任理事会(Web 会議)

日時：2023年4月27日(木) 14時から

事務局カレンダー

＊○印の日が事務局のお休みです。

■2023年3月

日	月	火	水	木	金	土
*	*	*	1	2	3	④
⑤	6	7	8	9	10	⑪
⑫	13	14	15	16	17	⑮
⑰	20	⑳	22	23	24	㉕
㉖	27	28	29	30	31	*

■2023年4月

日	月	火	水	木	金	土
*	*	*	*	*	*	①
②	3	4	5	6	7	⑧
⑨	10	11	12	13	14	⑮
⑮	17	18	19	20	21	㉒
㉓	24	25	26	27	28	㉙

※事務局業務について、今後の状況によっては縮小・休止する場合があります。最新の情報については、ホームページ等で随時お知らせいたします。

編集手帳

今月の特集テーマは「図書館の空間をデザインする」です。仔細については各特集記事をご覧くださいと思いますが、図書館家具を含めた空間デザインについてそのポイントを理解するとともに、各図書館の魅力的な事例を参考にさせていただけるものと思います。ご執筆いただいた皆様には感謝申し上げます。

さて今月号より「声—各地の代議員から」の連載が始まりました。本連載は普段声を上げる機会の少ない、特に地方在住の個人会員の声を

伝えてもらいたいということを出発点としています。従来の「北から南から」との違いとして、本連載は地域と日本図書館協会をつなぐ存在である代議員の皆様にご執筆いただくことで「地方と日本図書館協会をつなぐ」という趣旨を打ち出しています。

代議員の皆様には公益社団法人化10年目を迎えた日本図書館協会を取り巻く課題やその役割への期待などを寄せていただいたり、ご自身の活動されている地域の図書館現場や図書館界全体の課題と、それに対する今後の活動に対するお考えなどをいただければと編集委員会では考えています。

第1回目は五所川原市立図書館の須藤紀子氏と愛媛県立図書館の天野奈緒也氏にご寄稿いただきました。

それぞれ地域における現状とそれに対する現場の取り組み、そして日本図書館協会への課題・期待を挙げていただきました。またお二方ともに勤務館以外の図書館司書との交流に触れられており、情報交換としての場や相談先としての日本図書館協会に対する期待が寄せられました。

こうした期待に対して日本図書館協会の機関誌である『図書館雑誌』は何ができるのかと改めて考えると、日本図書館協会の役割の一つである会員の皆様への情報提供なのだろうと思います。今後も図書館や周辺環境で起きているさまざまなトピックの中から、各地の図書館の取り組みや最新の図書館情報学の動向まで幅広く時機を捉えた情報を伝えていけたらと願っております。

(間部 豊)

図書館雑誌／4月号予告 (Vol.117 No.4) 定価1026円 4月20日発行予定

特集：アフターコロナを見据えた図書館の研修の形（仮題） 内容＝オンラインによる「中堅職員ステップアップ研修」の現状と今後について（林友幸）、大学図書館職員長期研修 オンライン開催を経て見えたもの（大和田康代、並木映李香）、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター「図書館司書専門講座」の研修状況とこれから（伴田伸一）、「なごやレファレンス探検隊」による有志レファレンス研修会の最近の状況（藤本晶一）、最近の図書館総合展実施への取り組みを通して（長沖竜二）。以上特集のほか、竹内愼さんに係る2冊の新刊書（塩見昇）、日本における大学図書館職員の意識調査（報告）（日本図書館協会図書館調査事業委員会課題調査委員会）、〈ウチの図書館お宝紹介！③公益財団法人塩事業センター塩業資料室〉デジタルライブラリーを拡充中（大庭剛司）、〈声—各地の代議員から②〉（鈴木崇文、新屋朝貴）等の単独・連載記事を掲載してお届けします。